

「中標津町男女共同参画に 関するアンケート調査」 【結 果】



平成19年7月実施

中標津町

目 次

I 概 要

調査の概要	1
結果の概要	2

II 調査結果

回答者の属性	5
男女平等について	7
家族・子育てについて	12
就 労 に つ い て	23
社会参画について	31
女性の人権について	36
行 政 に つ い て	38

III その他の意見・要望

回答者の属性 ... e	42
男女平等について ... Q2	42
家族・子育てについて ... Q3	42
... Q6・Q7・Q8・Q10	43
就 労 に つ い て ... Q11・Q12・Q13・Q15・Q17	44
... Q18・Q19	45
社会参画について ... Q21・Q26・Q27	45
... Q28	46
女性の人権について ... Q31・Q32・Q34	46
行 政 に つ い て ... Q35・Q36	46
自 由 意 見	47

(付) 調 査 票

「中標津町男女共同参画に関するアンケート調査」調査票	51
----------------------------------	----

調 査 の 概 要

◆調査の目的

この調査は、中標津町における男女共同参画に関する意識や現状を調査することにより、今後の男女共同参画行政施策の参考資料とすることを目的とする。

◆調査内容

- 男女平等について
- 家庭・子育てについて
- 就労について
- 社会参画について
- 女性の人権について
- 行政について

◆調査対象

中標津町に在住する20歳以上の男女から、無作為に男性250人、女性250人を抽出。合計で500人を対象に実施した。

◆調査方法

調査票を郵送し、個人への回答を依頼。

◆調査実施期間

平成19年7月1日～平成19年7月20日

◆回収状況

配布数	500通
回収数	143通
回収率	28.6%

◆その他

比率は全て百分率で表し、小数点第二位を四捨五入して算出した。
複数回答のある集計については、百分比の合計が100%にならない場合もある。
以下の文章中、百分率の差を「ポイント」と表す。

結 果 の 概 要

◆回答者の属性

このたび実施したアンケートにおいては、無作為抽出による町民500人に協力を依頼したところ、28.6%の回答を得ることが出来ました。

回答者の属性を見ると、まず男女別では、女性が55.9%、男性が43.4%という内訳になり、女性の方が12.5ポイント意識・関心が高い結果になった。

また、年齢による回答者の割合では、40歳代が回答者全体の25%を超え、70歳以上以外は十数パーセントと全体的に平均して回答が得られたと思われる。

結婚については、回答者の対象を20歳以上としたため、結婚しているが全体の75%を超える結果となった。

職業は、自営及び勤めに出ている人は、全体の70%を超えているが、男性は事業主やフルタイム・常勤となっている人が高い確率なのに対し、女性は、家族従業員やパートタイム・臨時雇用が高い確率となっており、女性は男性より常勤として勤めている人が少ない結果となっている。

家族構成では、一世代世帯と二世帯世帯が36.4%と同率の値となっており、三世帯以上の世帯は17.5%と2割に満たない結果となっており、核家族化が懸念される。

回答者の家族に未就学児や70歳以上の高齢者がいるかどうかについては、「両方いない」家族が半数を超えているが、どちらかがいる家族については、「未就学児いる」14.0%に対し、「70歳以上の高齢者がいる」は22.4%と少子高齢化が懸念される。

◆男女平等について

社会生活の中で男女平等の現状を把握するため、8つの分野において調査を行なった。

また、男女平等の実現のために必要なことについても伺った。

「家庭の中」及び「学校教育の場」については、『平等となっている』と回答した人が最も多い結果となっているが、『女性が優遇されている（どちらかといえばも込み）』に対し、『男性が優遇されている（どちらかといえばも込み）』は女性の割合を大きく上回る結果となっている。

また、その他の項目「職場の中、地域活動の中、政治・経済の場、法律や制度の上、社会通念・習慣・しきたりなど、社会全体」については、『男性が優遇されている（どちらかといえばも込み）』がそれぞれ半数近い割合を占め、中には大半を占める項目もあった。

次いで、多かったのが『平等となっている』で、『女性が優遇されている（どちらかといえばも込み）』については、高い割合を占める項目は一つもなかった。

各項目共通して言えるのは、男性は男性自身が、女性は男性が、社会生活の中で優遇されているという意識があるものと思われる。

なお、男女平等の実現に必要な主な三項目として、「男性が女性の社会的地位向上に関して理解をもち協力すること」、「女性が自分たちのあり方に対して問題意識と自覚を持つこと」、「差別的な社会通念やしきたりをなくすこと」となっているが、総体的に、男性・女性ともに、男女平等に対する意識を高める必要があると思われる。

◆家庭・子育てについて

「男性は仕事、女性は家事」という考え方に、男性・女性ともに、性別にとらわれず仕事や家事を行なうと良い。とする意識が高かった。

子育てについて、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方に、自身が育てられた経験と自身が育てた（いない人もいと仮定して。）経験について、調査したところ、男女別で見ると、女性より男性の方がより強く「男らしく」と育てられてきており、自身の子どもにもそうあってほしいと望んでいるようであるが、全体で見ると「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方は微減ではあるが減っているものの、自分が育てられた考え方は、自分の子どもに継承されていることが伺えた。

また、近年生まれる子供が少なくなってきたことについては、子育て（保育）にかかる経済的負担が大きく、育児と仕事を両立することが困難なためだと思われる。

配偶者（パートナー）がいる人対象に、家庭内での役割分担について十三項目の調査を行なった。十三項目中、「食事のしたく」「食事の後かたづけ、食器洗い」「そうじ」「ゴミ出し」「洗濯」「食品・日用品の買物」「乳児・幼児の世話」「老いた親の世話（介護）」「日常の家計の管理」については、主に女性が担い、「家の中の簡単な修理・修繕」「自治会などの地域活動」「高額商品や土地家屋の購入決定」については、主に男性が担っている状況が見て取れる。

なお、「乳児・幼児の世話」については、男女同じ程度担っている結果となっているが、総体的に家庭内では女性が負担する割合が大きい状況にあるといえる。

この状況を踏まえ、各項目について、配偶者（パートナー）が相手に望む考えを、各項目ごと調査を行なったが、全項目とも、半数以上の割合を占める形で「現状の分担でよい」という結果になった。

しかし、次いで多かったのが、「配偶者（パートナー）に分担してほしい」という回答で、男性よりも女性に多く見られた。これは、家庭内で女性に対する役割分担が大きいためと思われる。

次に、男性が家事や子育てに参加するためには、「家族間の話し合い」が最も多い意見となり、家族内での意識づくりが必要と思われる。

また、社会的な部分では、子育てについての特別休暇制度や男女の役割についての習慣などの見直しを、必要と感じている結果となっている。

◆就労について

女性が働くことについては、男女ともに賛成意見が多く「女性は職業を持たない方がよい」は1%未満という結果であった。

しかし、女性が結婚・出産後に働き続けることや、再就職するためには、「保育施設や保健サービスの充実」や「家族の理解や協力」が必要であるという意見が最も多く、就労については、子育て問題と併せて考えていく必要があると思われる。

次に、働いている方のみに職場における男女平等についてアンケートをしたところ、総体（合計）では各項目で、ほぼ「平等になっている」と思っている。

しかし、「募集や採用」については、男女間で考えのバラツキが見られ、特に男性は男性自身が優遇されていると認識している。

また、男女ともに、男性が優遇されているとする割合が多かったのが、「賃金」や「昇進・昇格」についてで、男女ともに同じ認識ではあるが、職場においての男女平等ということであれば、男女間においてまだ、差があるものと思われる。

では、男女間に平等でない扱いがある場合とは、「女性は結婚や出産などで継続して働きにくい」「家事や育児、介護についての女性の負担が大きい」と2項目が大きな理由としてあげられている。

育児や介護に関する休業については、大半は両方ともなく、その理由として、両方とも「必要になったことがない」が最も多く、次いで、休暇の制度がない。仕事が忙しく休める状況にない。職場に休みにくい雰囲気があった。など、職場環境の課題があげられている。

女性が働きやすい職場づくりのため行政に求めるものとして、「職場の意識改革などについての企業に対する働きかけや指導」「仕事と家庭の両立支援に関する法制度の周知」「仕事と家庭の両立支援を推進した企業への補助制度」が高い確率であげられている。

また、男性も女性も仕事と家庭を両立するためには、「男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」「保育施設や保育時間の延長など保育サービスを充実させること」が必要だと思っている。

◆社会参画について

女性が社会活動に参加することについては、「好ましい」とする賛成意見は80%を超えているが、女性の半数以上が実際には社会活動に参加していない状況である。

これは、家族の協力や子ども等を一時的に預ってくれる施設などのサポート体制が整っていない状況や旧来の「女性は家にいて子育てを」という意識が依然として残っていることが、女性の参画を阻んでいる要因の一つであることが考えられる。

男女共同参画社会の実現に向けて、大きな課題である政策・方針決定の場や地域活動、社会活動の場に、社会の構成員の一人として女性の参画を積極的に進めていくには、町、企業、各関係機関、団体等が、まず女性の参画を推進し、サポート体制を充実するとともに女性自らが参画の意識を高める必要があると思われる。

◆女性の人権について

女性に対する人権侵害であり、今、大きな社会問題となっているドメスティック・バイオレンス【DV】（配偶者や身近なパートナーからの暴力）やセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）などについて、実態を把握するために調査を行なったが、実際に身近で見聞きしたことがないと回答したのは41.1%で、半数以上は何かしら見聞きしたことがあるという結果になった。

また、「ことは自体知らない」としたのは0%で、社会的認知度が高いといえる。

実体験として、ドメスティック・バイオレンス【DV】では、「殴る蹴るなどの身体的暴力」や「ののしり、脅迫などの精神的暴力」が最も多く、その際の対応として、何かしらの行動や相談をしている人が大半を占めるなか、「じっと耐えている」と回答した人が2割を占める結果となった。

セクシュアル・ハラスメントでは、直接経験した人や職場で経験した人がいると回答した人は、24.8%と全体の4分の1を占める結果となった。

こうした女性に対する人権侵害を、あらゆる分野からなくすためには、嫌なことは嫌と意思表示ができる環境や意識づくりを進めるとともに、苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の実現が望まれる。

◆行政について

男女共同参画社会の形成に向けて、男女共同参画に関わる国の法律が制定されている。

今回、中標津町において男女共同参画政策を推進していきたいと考え、当町の男女共同参画に関する知識や現状を把握し、男女共同参画を推進するための条例や数値目標などを掲げた計画の必要性についてアンケートしたところ、50%以上が必要と感じている。

また、男女共同参画社会を実現するために、行政に望むものとして「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」「介護サービスの充実」「再就職に役立つ学習機会や相談事業など女性の就労支援」などがあげられている。

しかし、「男女雇用機会均等法」や「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV法）」など自分の身に直接関わる法律の認知度は比較的高いが、理念的内容である「男女共同参画社会基本法」などの認知度は低く、「知らない」と回答した人が大半を占めている。

このような現状を踏まえ、今後の啓発のあり方や内容、方法等を検討し、中標津町として地域の実情に沿った事業推進を図る必要があると考える。



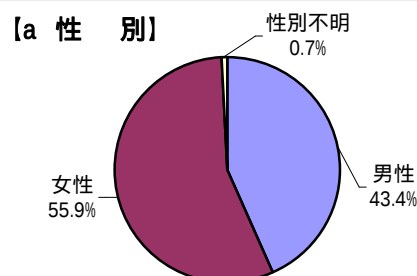
回答者の属性

a 性別 及び b 年齢

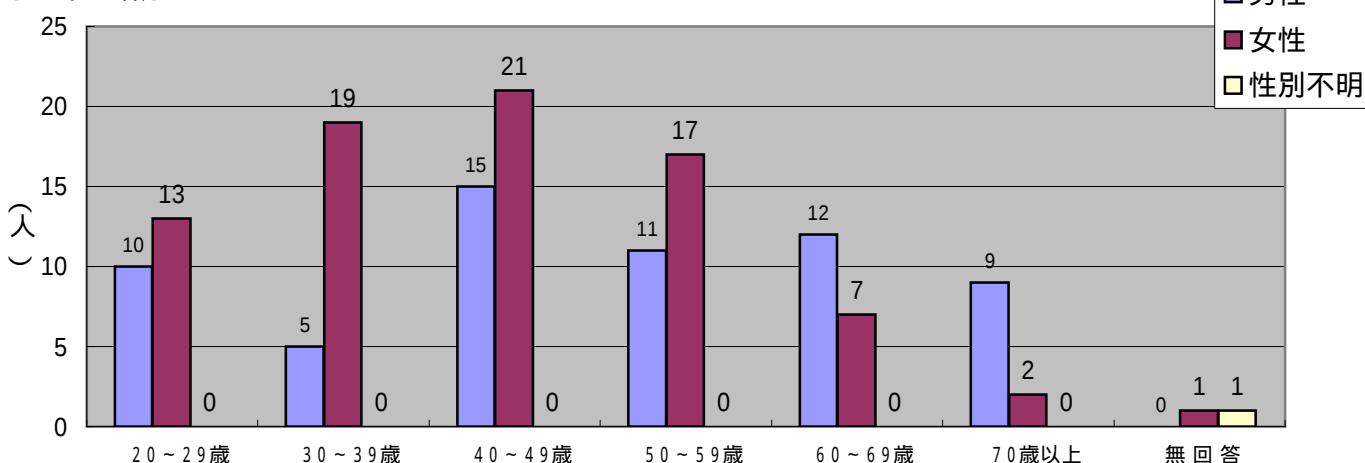
回答者性別構成は男性62名(43.4%)、女性80名(55.9%)、性別不明1名(0.7%)となっています。

年代構成については、「40～49歳」が36名(25.2%)で最も多く、次いで「50～59歳」が28名(19.6%)、「30～39歳」が24名(16.8%)、「20～29歳」が23名(16.1%)、「60～69歳」が19名(13.3%)、「70歳以上」が11名(7.7%)となっています。

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	人 数	割 合	人 数	割 合	人 数	割 合	人 数	割 合
20～29歳	10	16.1	13	16.3	0	0.0	23	16.1
30～39歳	5	8.1	19	23.8	0	0.0	24	16.8
40～49歳	15	24.2	21	26.3	0	0.0	36	25.2
50～59歳	11	17.7	17	21.3	0	0.0	28	19.6
60～69歳	12	19.4	7	8.8	0	0.0	19	13.3
70歳以上	9	14.5	2	2.5	0	0.0	11	7.7
無 回 答	0	0.0	1	1.3	1	100.0	2	1.4
合 計	62		80		1		143	



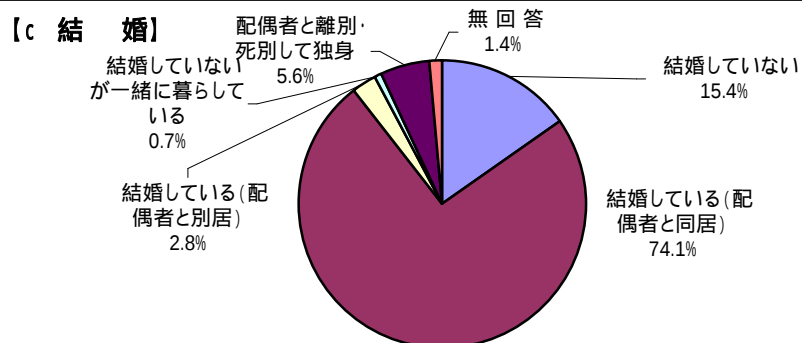
【b 年 齢】



c 結婚

結婚している方が、同居・別居合わせて76.9%を占めています。

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回 答 数	割 合	回 答 数	割 合	回 答 数	割 合	回 答 数	割 合
結婚していない	11	17.7	11	13.8	0	0.0	22	15.4
結婚している(配偶者と同居)	46	74.2	60	75.0	0	0.0	106	74.1
結婚している(配偶者と別居)	2	3.2	2	2.5	0	0.0	4	2.8
結婚していないが一緒に暮らしている	1	1.6	0	0.0	0	0.0	1	0.7
配偶者と離別・死別して独身	2	3.2	6	7.5	0	0.0	8	5.6
無 回 答	0	0.0	1	1.3	1	100.0	2	1.4
合 計	62		80		1		143	

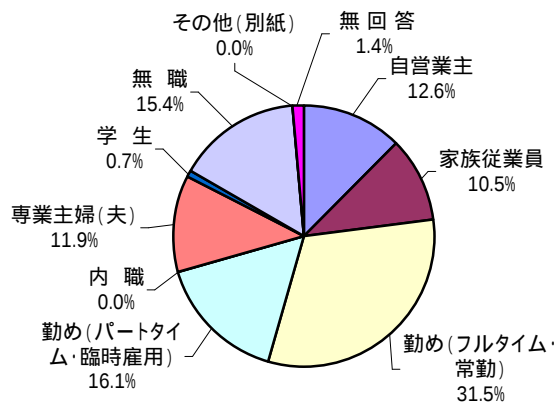


d 職業

職業は、雇用(勤め、内職)されている方が47.6%と約半分を占めています。次いで自営業主・家族従業員の23.1%となっています。

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計		備 考
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
自営業主	11	17.7	7	8.8	0	0.0	18	12.6	自営
家族従業員	3	4.8	12	15.0	0	0.0	15	10.5	
勤め(フルタイム・常勤)	29	46.8	16	20.0	0	0.0	45	31.5	勤め
勤め(パートタイム・臨時雇用)	6	9.7	17	21.3	0	0.0	23	16.1	
内 職	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
専業主婦(夫)	0	0.0	17	21.3	0	0.0	17	11.9	
学 生	0	0.0	1	1.3	0	0.0	1	0.7	
無 職	13	21.0	9	11.3	0	0.0	22	15.4	
その他(別紙)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
無 回 答	0	0.0	1	1.3	1	100.0	2	1.4	
合 計	62		80		1		143		

【d 職 業】

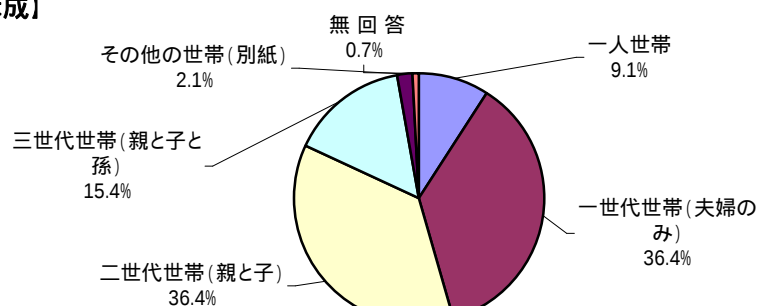


e 家族構成

家族構成は、同率で一世代世帯(夫婦だけ)、二世代世帯(親と子)の52名(36.4%)となっています。

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
一人世帯	7	11.3	6	7.5	0	0.0	13	9.1
一世代世帯(夫婦のみ)	22	35.5	30	37.5	0	0.0	52	36.4
二世代世帯(親と子)	23	37.1	29	36.3	0	0.0	52	36.4
三世代世帯(親と子と孫)	8	12.9	14	17.5	0	0.0	22	15.4
その他の世帯(別紙)	2	3.2	1	1.3	0	0.0	3	2.1
無 回 答	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1	0.7
合 計	62		80		1		143	

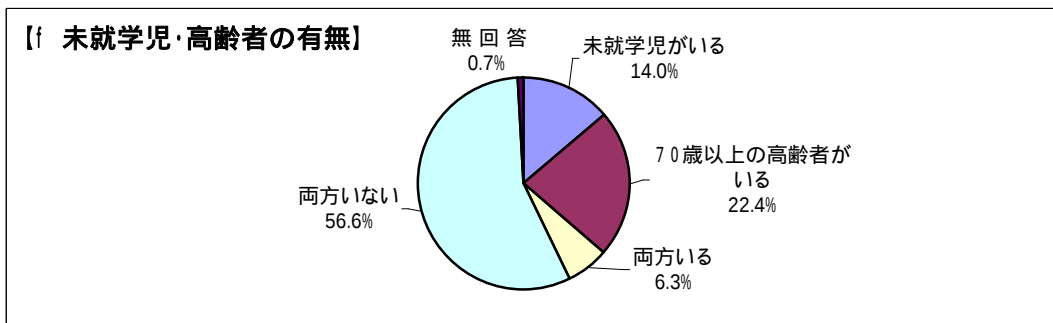
【e 家族構成】



f 未就学児・高齢者の有無

未就学児、70歳以上の高齢者がいるかどうかについては、「両方いない」家庭が半数を超えています。

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
未就学児がいる	8	12.9	12	15.0	0	0.0	20	14.0
70歳以上の高齢者がいる	15	24.2	17	21.3	0	0.0	32	22.4
両方いる	7	11.3	2	2.5	0	0.0	9	6.3
両方いない	32	51.6	49	61.3	0	0.0	81	56.6
無 回 答	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1	0.7
合 計	62		80		1		143	

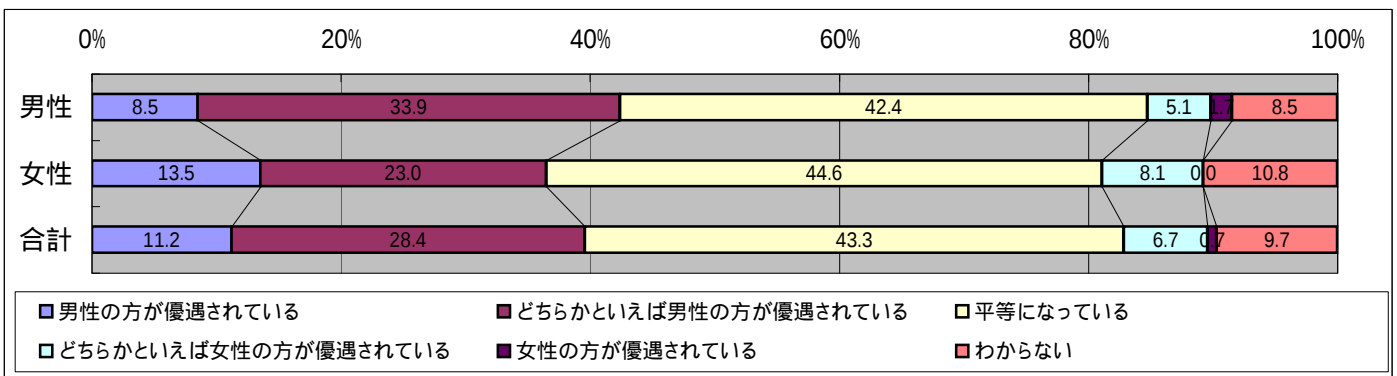


男女平等について

Q1 あなたは、 から の分野で、現在、男女の地位が平等になっていると思いますか。(1つずつ)

項 目		い男 性の 方が 優遇 されて	のど ち が ら 優 か 遇 と い え ば い 男 性	平 等 に な っ て い る	のど ち が ら 優 か 遇 と い え ば い 女 性	い女 性 の 方 が 優 遇 されて	わ か ら ない
家庭の中で	男性	5	20	25	3	1	5
	女性	10	17	33	6	0	8
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	15	38	58	9	1	13
	割合	11.2%	28.4%	43.3%	6.7%	0.7%	9.7%

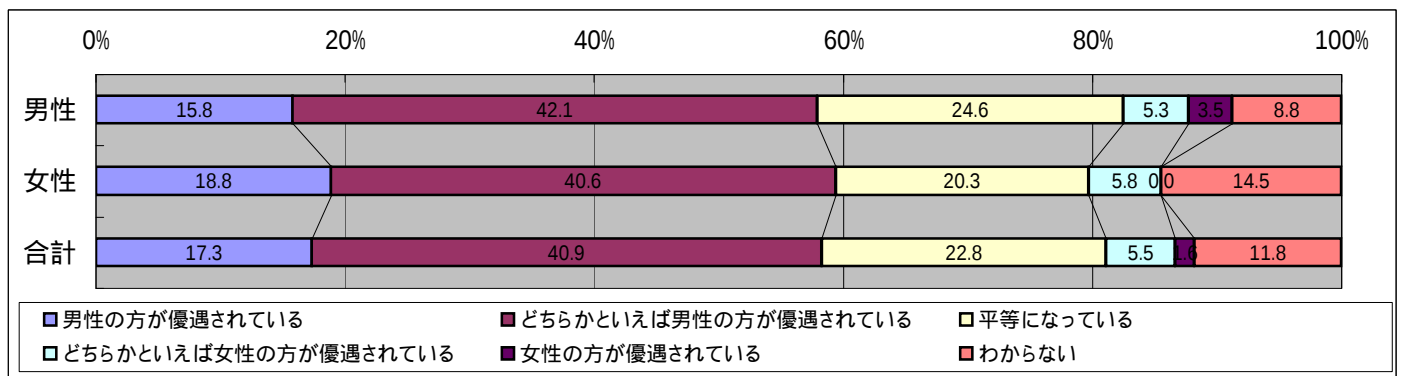
(N= 134)



家庭の中で、男女の地位は「平等とになっている」が43.3%で最も多いが、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」が7.4%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は39.6%と、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」の割合を大きく上回っている。

項 目		い 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	い 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い
職場の中で	男性	9	24	14	3	2	5
	女性	13	28	14	4	0	10
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	22	52	29	7	2	15
	割合	17.3%	40.9%	22.8%	5.5%	1.6%	11.8%

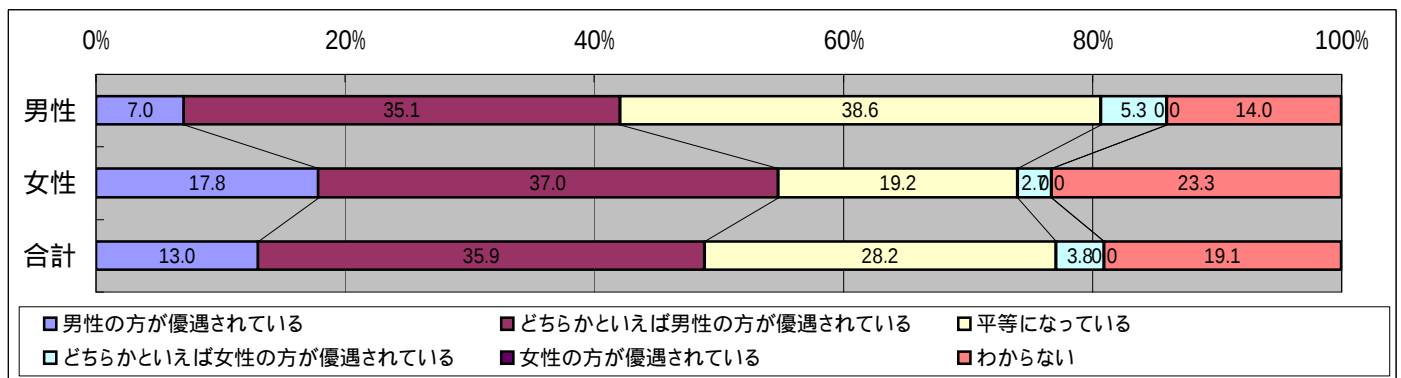
(N = 127)



職場の中で、男女の地位は「平等となっている」が22.8%となっており、「男性の方が優遇されている(どちらかといえば込み)」は58.2%と、約6割を占める割合となった。

項 目		い 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	い 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い
地域活動の中で	男性	4	20	22	3	0	8
	女性	13	27	14	2	0	17
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	17	47	37	5	0	25
	割合	13.0%	35.9%	28.2%	3.8%	0.0%	19.1%

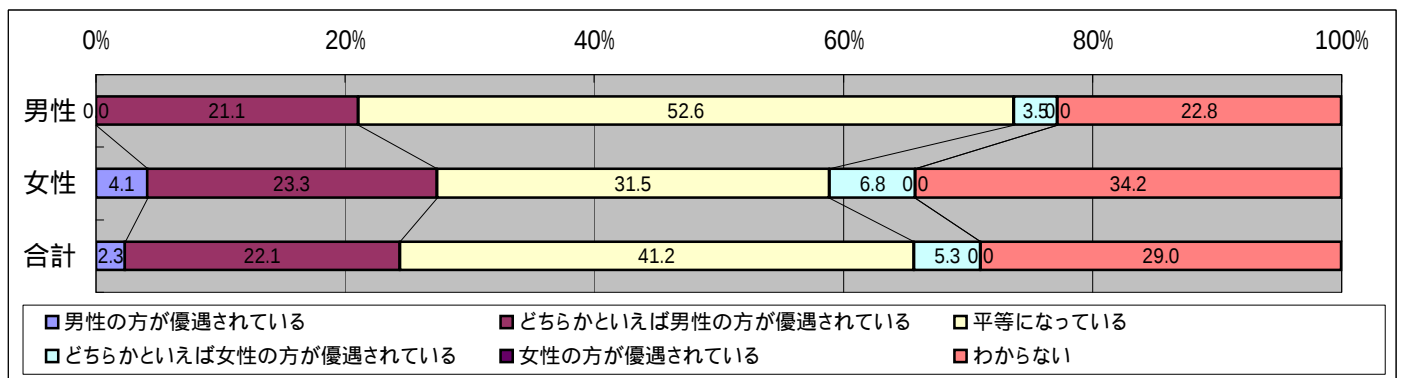
(N = 131)



地域活動の中で、男女の地位は「平等となっている」が28.2%となっており、「男性の方が優遇されている(どちらかといえば込み)」は48.9%と、過半数を占める割合となった。

項 目		い 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 男 性	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性	い 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い
学校教育の場で	男性	0	12	30	2	0	13
	女性	3	17	23	5	0	25
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	3	29	54	7	0	38
	割合	2.3%	22.1%	41.2%	5.3%	0.0%	29.0%

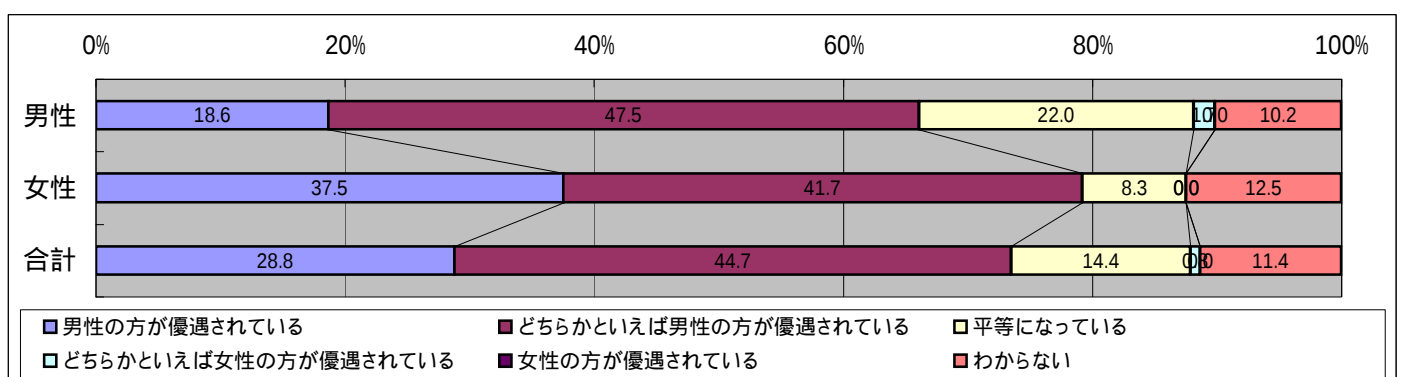
(N= 131)



学校教育の場で、男女の地位は「平等となっている」が41.2%で最も多いが、「女性が優遇されている(どちらかといえども込み)」が5.3%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえども込み)」は24.4%と、「女性が優遇されている(どちらかといえども込み)」の割合を大きく上回っている。

項 目		い 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 男 性	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性	い 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い
政治・経済の場で	男性	11	28	13	1	0	6
	女性	27	30	6	0	0	9
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	38	59	19	1	0	15
	割合	28.8%	44.7%	14.4%	0.8%	0.0%	11.4%

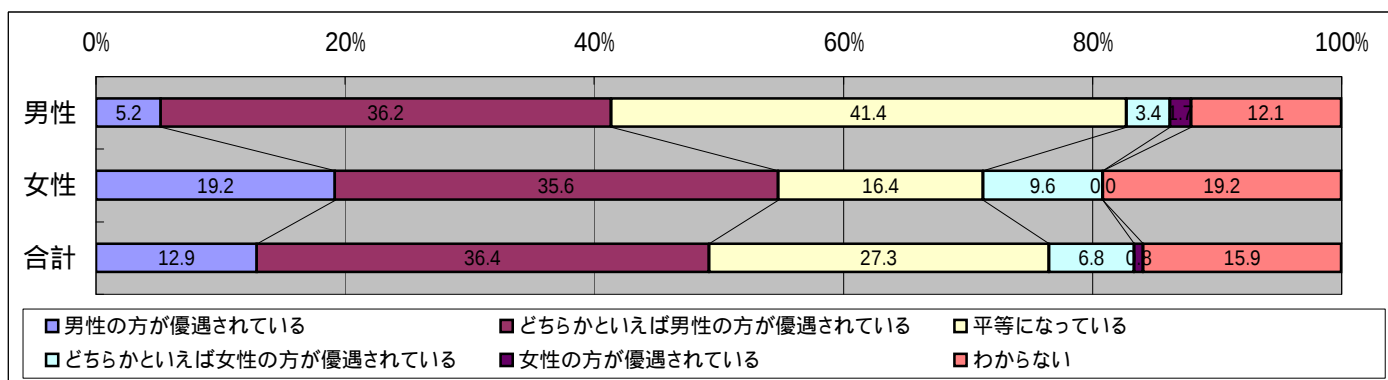
(N= 132)



政治・経済の場で、「男性の方が優遇されている(どちらかといえども込み)」は73.5%と大半を占める割合となった。

項 目		い 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	い 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い
法律や制度の上で	男性	3	21	24	2	1	7
	女性	14	26	12	7	0	14
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	17	48	36	9	1	21
	割合	12.9%	36.4%	27.3%	6.8%	0.8%	15.9%

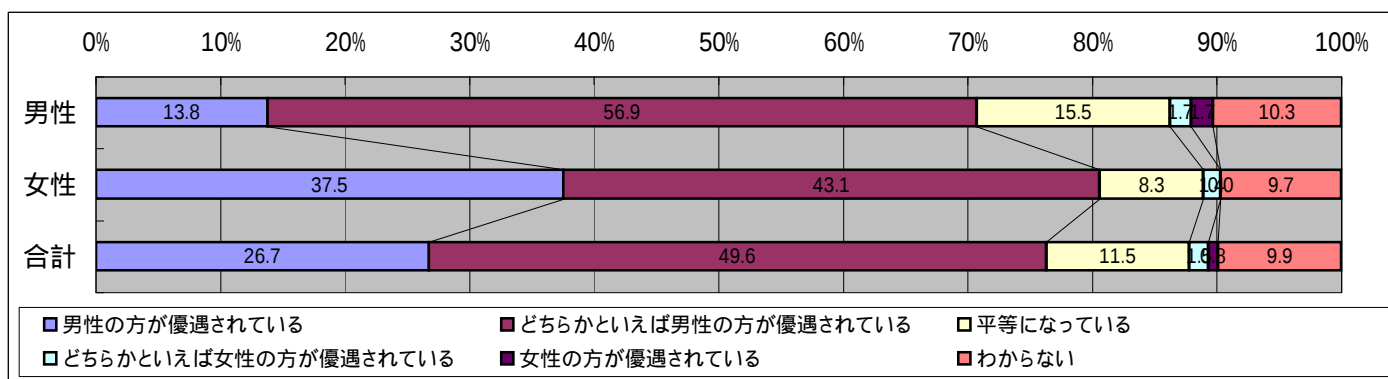
(N= 132)



法律や制度の上で、男女の地位は「平等となっている」が27.3%となっており、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は49.3%と、過半数を占める割合となった。

項 目		い 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	ど ち ら か と い え ば 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	い 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い
社会通念・習慣・しきたりなどで	男性	8	33	9	1	1	6
	女性	27	31	6	1	0	7
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	35	65	15	2	1	13
	割合	26.7%	49.6%	11.5%	1.5%	0.8%	9.9%

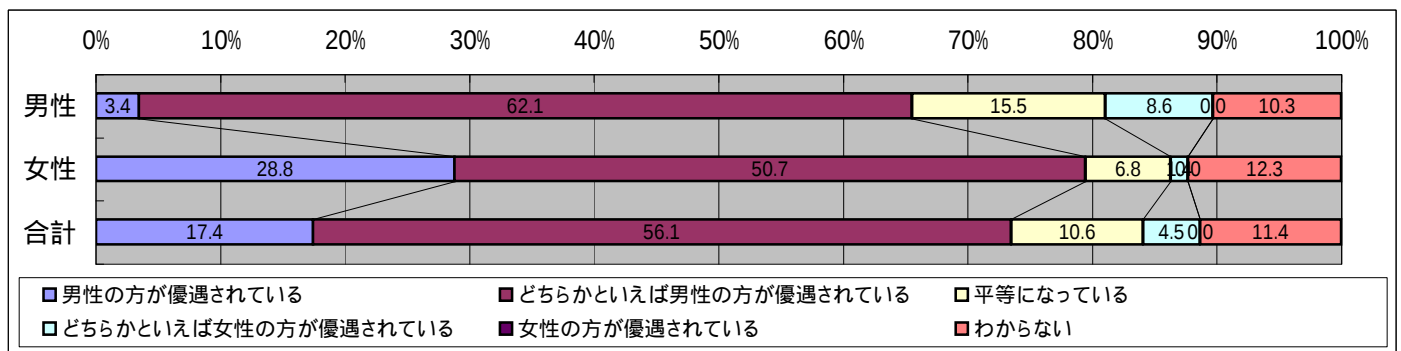
(N= 131)



社会通念・習慣・しきたりなどで、男女の地位は「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は76.3%と大半を占める割合となった。

項 目		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
社会全体では	男性	2	36	9	5	0	6
	女性	21	37	5	1	0	9
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	23	74	14	6	0	15
	割合	17.4%	56.1%	10.6%	4.5%	0.0%	11.4%

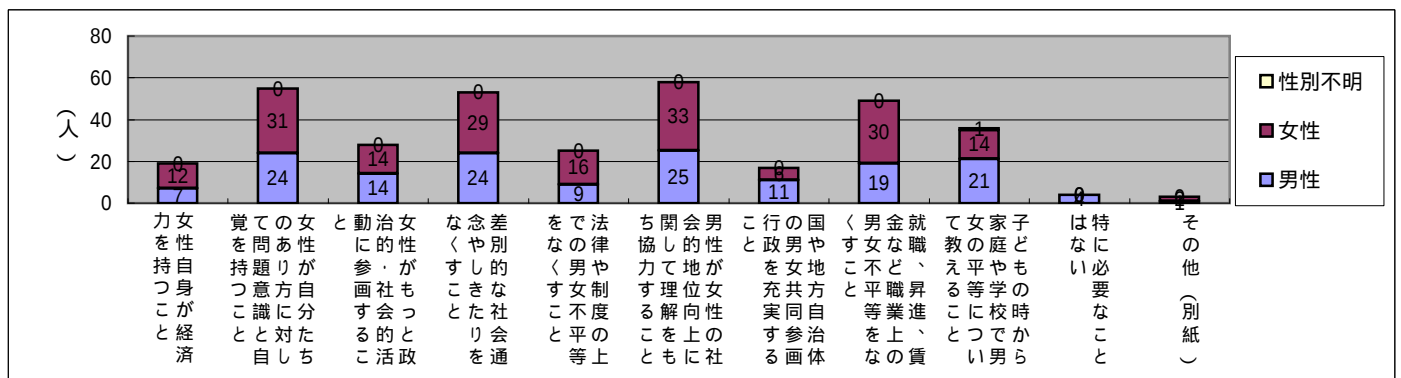
(N= 132)



社会全体では、男女の地位は「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は73.5%と大半を占める割合となった。

Q2 男女平等の実現のために、今後どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
女性自身が経済力を持つこと	7	4.4	12	6.4	0	0.0	19	5.5
女性が自分たちのあり方に対して問題意識と自覚を持つこと	24	15.1	31	16.6	0	0.0	55	15.9
女性がもっと政治的・社会的活動に参画すること	14	8.8	14	7.5	0	0.0	28	8.1
差別的な社会通念やしきたりをなくすこと	24	15.1	29	15.5	0	0.0	53	15.3
法律や制度の上での男女不平等をなくすこと	9	5.7	16	8.6	0	0.0	25	7.2
男性が女性の社会的地位向上に関して理解をもち協力すること	25	15.7	33	17.6	0	0.0	58	16.7
国や地方自治体の男女共同参画行政を充実すること	11	6.9	6	3.2	0	0.0	17	4.9
就職、昇進、賃金など職業上の男女不平等をなくすこと	19	11.9	30	16.0	0	0.0	49	14.1
子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教えること	21	13.2	14	7.5	1	100.0	36	10.4
特に必要なことはない	4	2.5	0	0.0	0	0.0	4	1.2
その他(別紙)	1	0.6	2	1.1	0	0.0	3	0.9
合 計	159		187		1		347	

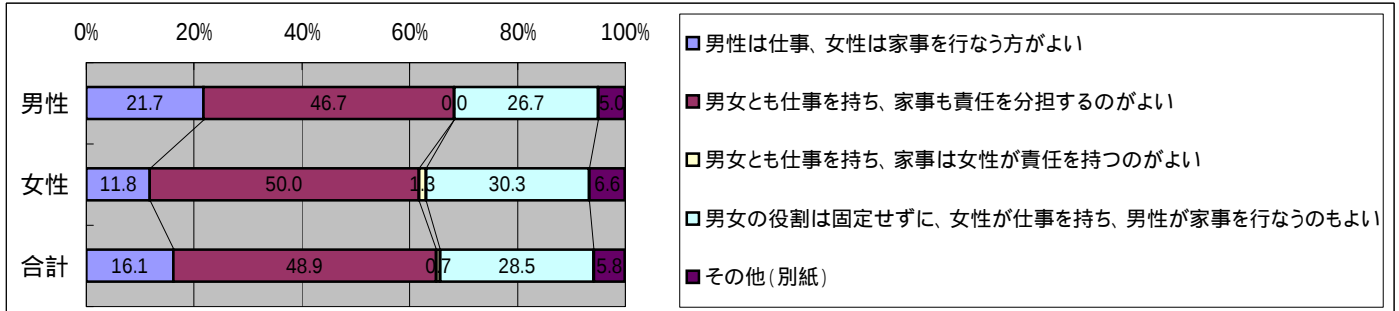


男女平等のために必要なこととして、最も多かったのが「男性が女性の社会的地位向上に関して理解をもち協力すること」58件(16.7%)、次いで「女性が自分たちのあり方に対して問題意識と自覚を持つこと」55件(15.9%)、「差別的な社会通念やしきたりをなくすこと」53件(15.3%)と、必要と感じる主な3つは以上の結果となった。

家庭・子育てについて

Q3 「男性は仕事、女性は家事」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(1つ)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性は仕事、女性は家事を行なう方がよい	13	21.7	9	11.8	0	0.0	22	16.1
男女とも仕事を持ち、家事も責任を分担するのがよい	28	46.7	38	50.0	1	100.0	67	48.9
男女とも仕事を持ち、家事は女性が責任を持つのがよい	0	0.0	1	1.3	0	0.0	1	0.7
男女の役割は固定せずに、女性が仕事を持ち、男性が家事を行なうのもよい	16	26.7	23	30.3	0	0.0	39	28.5
その他(別紙)	3	5.0	5	6.6	0	0.0	8	5.8
合 計	60		76		1		137	



男女ともに、「男女とも仕事を持ち、家事も責任を分担するのがよい」が高い割合となり、合計でも半数を占める割合となっている。

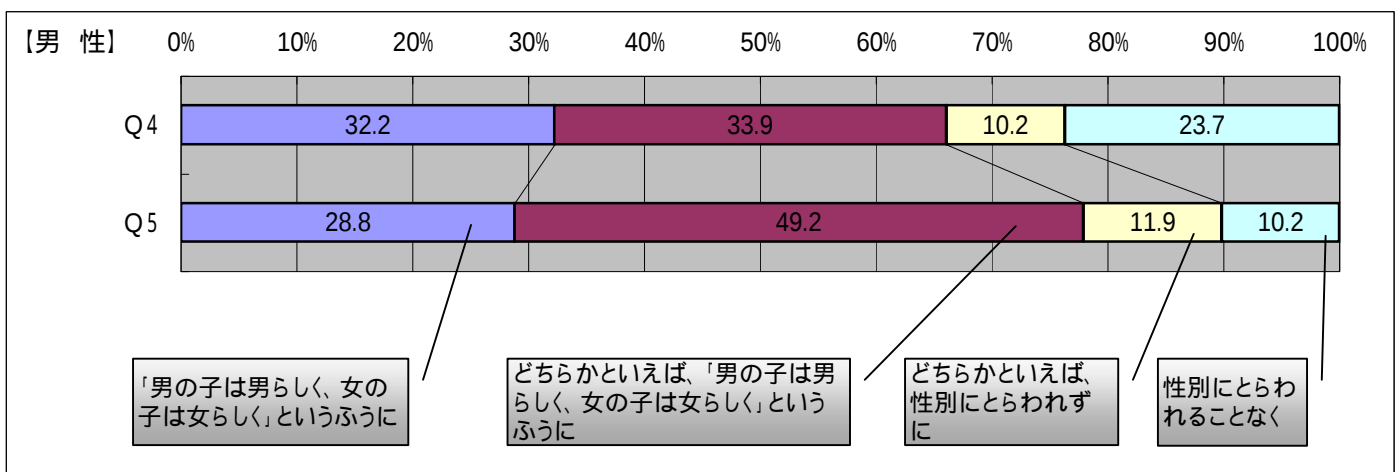
Q4 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方がありますが、あなた自身はどう育てられましたか。(1つ)

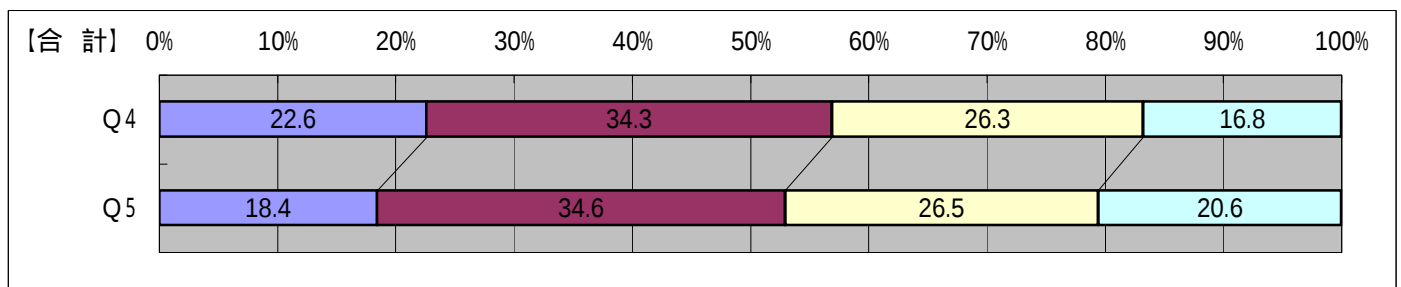
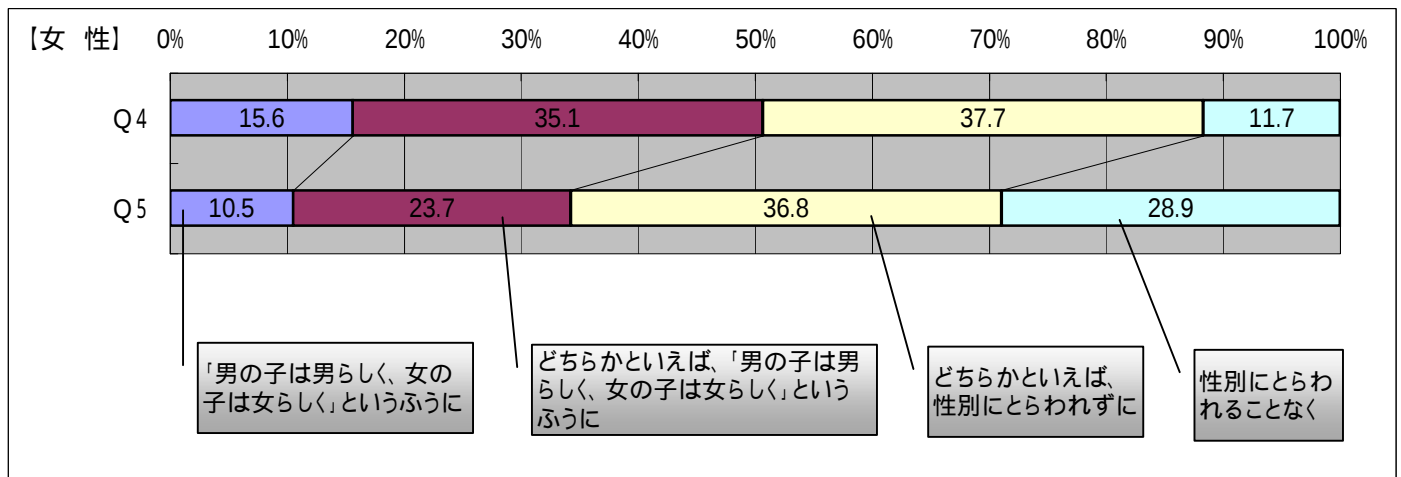
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに	19	32.2	12	15.6	0	0.0	31	22.6
どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに	20	33.9	27	35.1	0	0.0	47	34.3
どちらかといえば、性別にとらわれずに	6	10.2	29	37.7	1	100.0	36	26.3
性別にとらわれることなく	14	23.7	9	11.7	0	0.0	23	16.8
合 計	59		77		1		137	

Q5 では、ご自分の子どもに対してはどう育てたいと思いますか。

お子様がいらっしゃる場合も、いと仮定してお答えください。(2つ)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに	17	28.8	8	10.5	0	0.0	25	18.4
どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに	29	49.2	18	23.7	0	0.0	47	34.6
どちらかといえば、性別にとらわれずに	7	11.9	28	36.8	1	100.0	36	26.5
性別にとらわれることなく	6	10.2	22	28.9	0	0.0	28	20.6
合 計	59		76		1		136	



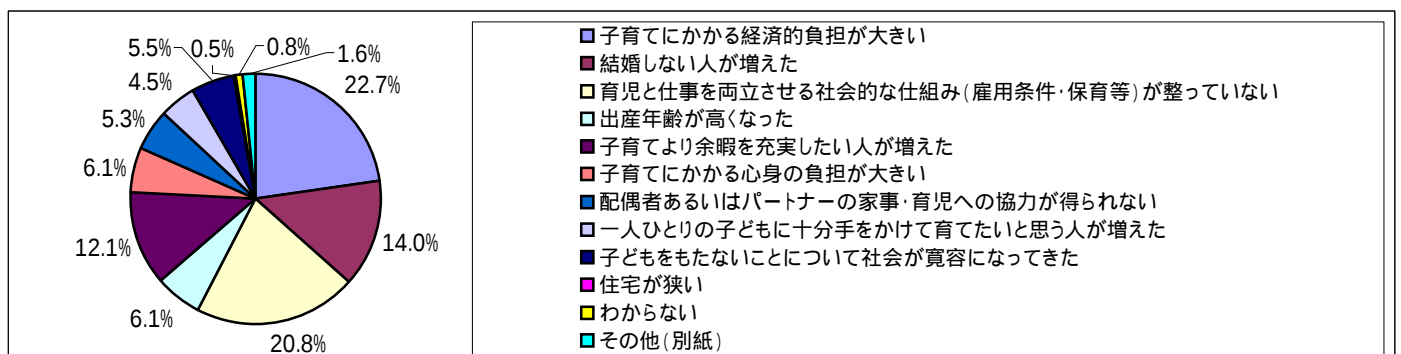


男女別で見ると、女性より男性の方がより強く「男らしく」と育てられてきており、自身の子どもにもそうあってほしいと望んでいるようである。

また、全体で見ると「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方は、微減ではあるが減っているものの、自分が育てられた考え方は、自分の子どもに継承されていることが伺える。

Q6 近年生まれる子どもの数が少なくなってきましたが、あなたはその原因は何だと思えますか。(3つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
子育てにかかる経済的負担が大きい	41	24.6	44	21.1	1	33.3	86	22.7
結婚しない人が増えた	26	15.6	27	12.9	0	0.0	53	14.0
育児と仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない	32	19.2	47	22.5	0	0.0	79	20.8
出産年齢が高くなった	10	6.0	13	6.2	0	0.0	23	6.1
子育てより余暇を充実したい人が増えた	18	10.8	28	13.4	0	0.0	46	12.1
子育てにかかる心身の負担が大きい	12	7.2	10	4.8	1	33.3	23	6.1
配偶者あるいはパートナーの家事・育児への協力が得られない	5	3.0	14	6.7	1	33.3	20	5.3
一人ひとりの子どもに十分手をかけて育てたいと思う人が増えた	5	3.0	12	5.7	0	0.0	17	4.5
子どもをもたないことについて社会が寛容になってきた	13	7.8	8	3.8	0	0.0	21	5.5
住宅が狭い	1	0.6	1	0.5	0	0.0	2	0.5
わからない	2	1.2	1	0.5	0	0.0	3	0.8
その他(別紙)	2	1.2	4	1.9	0	0.0	6	1.6
合 計	167		209		3		379	

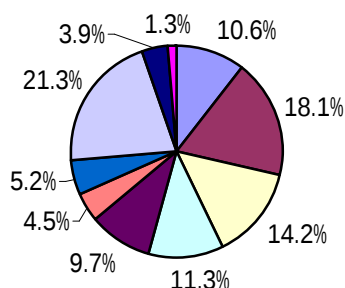


最も多かった理由が「子育てにかかる経済的負担が大きい」86件(22.7%)、次いで「育児と仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない」79件(20.8%)、「結婚しない人が増えた」53件(14.0%)と、少子化の原因と感じる主な3つは以上の結果となった。

Q7 現在の保育などのサービスで不便や不満に感じることはどのようなことですか。(3つ以内)

なお、お子様のいない方、また、すでに養育が終了している方は過去の経験やイメージでお答えください。

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
預けられる時間が短い	13	9.4	20	11.8	0	0.0	33	10.6
急な用事や残業などのときに対応してもらえない	23	16.7	32	18.9	1	33.3	56	18.1
子どもが病気のときには預かってもらえない	17	12.3	27	16.0	0	0.0	44	14.2
土・日や夏休みなどに子どもの行き場(遊び場)がない	12	8.7	22	13.0	1	33.3	35	11.3
自宅などから身近なところにサービスを受けられる施設がない	18	13.0	12	7.1	0	0.0	30	9.7
子育てや子育て支援に関する情報が少ない	6	4.3	8	4.7	0	0.0	14	4.5
子育てや子育て支援の相談窓口が少ない	7	5.1	9	5.3	0	0.0	16	5.2
費用が高い	30	21.7	35	20.7	1	33.3	66	21.3
特にない	8	5.8	4	2.4	0	0.0	12	3.9
その他(別紙)	4	2.9	0	0.0	0	0.0	4	1.3
合 計	138		169		3		310	



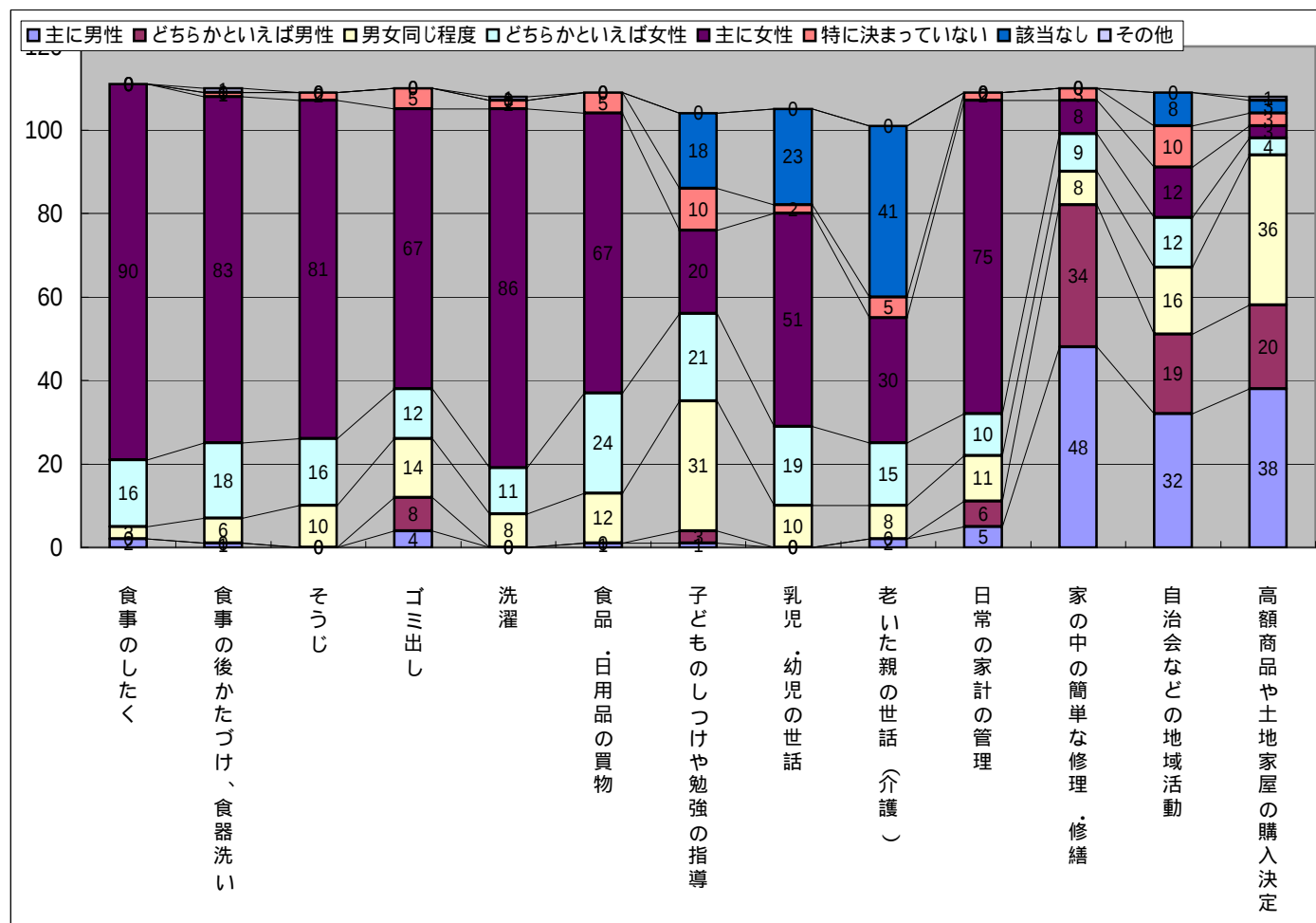
- 預けられる時間が短い
- 急な用事や残業などのときに対応してもらえない
- 子どもが病気のときには預かってもらえない
- 土・日や夏休みなどに子どもの行き場(遊び場)がない
- 自宅などから身近なところにサービスを受けられる施設がない
- 子育てや子育て支援に関する情報が少ない
- 子育てや子育て支援の相談窓口が少ない
- 費用が高い
- 特にない
- その他(別紙)

最も多く感じていることは「費用が高い」66件(21.3%)、次いで「急な用事や残業などのときに対応してもらえない」56件(18.1%)、「子どもが病気のときには預かってもらえない」44件(14.2%)と、主な3つは以上の結果となった。

Q8 配偶者あるいはパートナーがいる方のみにお聞きます。

現在、あなたの家では、次の から について男女のどちらが担っていますか。(1つずつ)

項 目	主に男性	どちらかといえば男性	男女同じ程度	どちらかといえば女性	主に女性	特に決まっていない	該当なし	その他
食事のしたく	2	0	3	16	90	0	0	0
食事の後かたづけ、食器洗い	1	0	6	18	83	1	0	1
そうじ	0	0	10	16	81	2	0	0
ゴミ出し	4	8	14	12	67	5	0	0
洗濯	0	0	8	11	86	2	0	1
食品・日用品の買物	1	0	12	24	67	5	0	0
子どものしつけや勉強の指導	1	3	31	21	20	10	18	0
乳児・幼児の世話	0	0	10	19	51	2	23	0
老いた親の世話(介護)	2	0	8	15	30	5	41	0
日常の家計の管理	5	6	11	10	75	2	0	0
家の中の簡単な修理・修繕	48	34	8	9	8	3	0	0
自治会などの地域活動	32	19	16	12	12	10	8	0
高額商品や土地家屋の購入決定	38	20	36	4	3	3	3	1

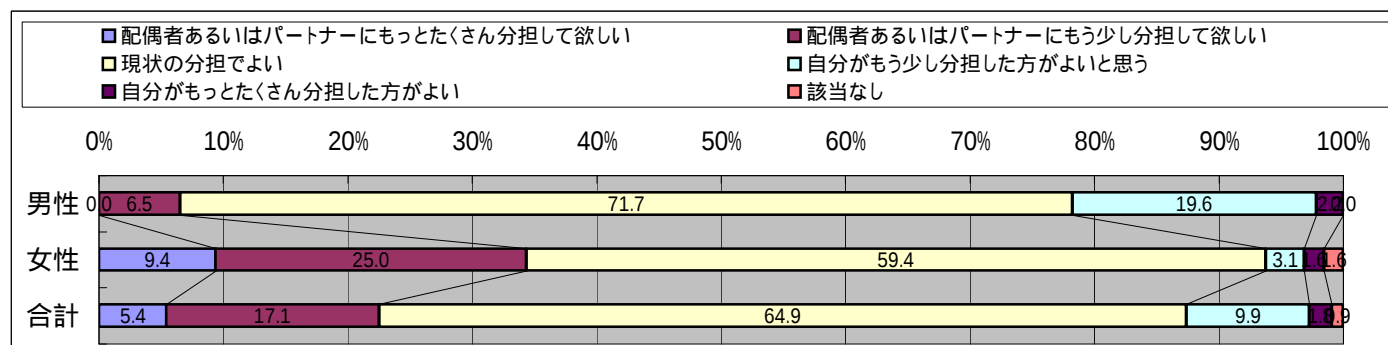


～、～の項目については、「主に女性」が大半を占め、～の項目については、男女ともに概ね同率となっているが、～の項目については、「主に男性」が担っている形となっている。

Q9 配偶者あるいはパートナーがいる方のみにお聞きます。家庭内の役割分担についての考え（1つずつ）

項 目		配偶者あるいはパートナーにもっとたくさん分担して欲しい	配偶者あるいはパートナーにもう少し分担して欲しい	現状の分担でよい	自分がもう少し少しく分担した方がよいと思う	自分がもっとたくさん分担した方がよい	該当なし
食事のしたく	男性	0	3	33	9	1	0
	女性	6	16	38	2	1	1
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	6	19	72	11	2	1
	割合	5.4%	17.1%	64.9%	9.9%	1.8%	0.9%

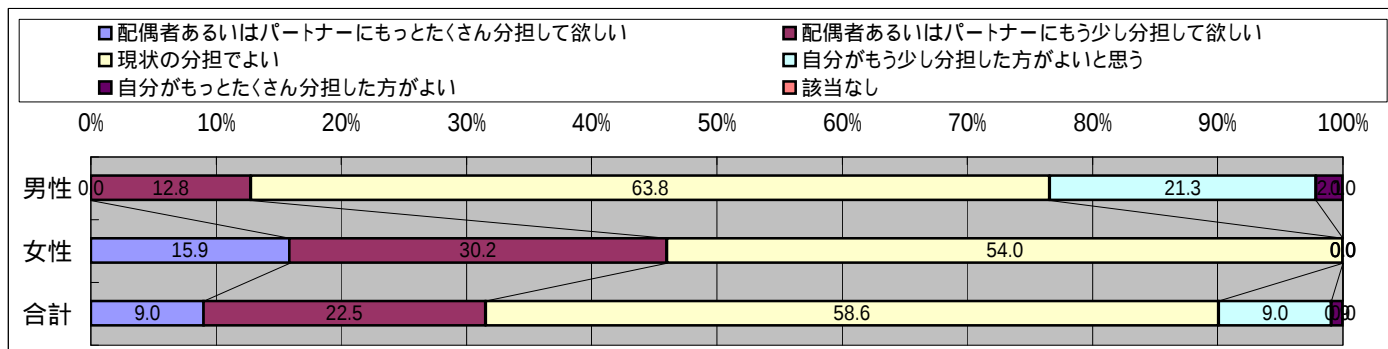
(N= 111)



男女とも、「現状の分担でよい」が大半を占める割合となっているが、女性は男性に対して「分担して欲しい」割合が3割を超える結果となっている。

項 目		分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	該 当 な し
食事の後かたづけ、食器洗い	男性	0	6	30	10	1	0		
	女性	10	19	34	0	0	0		
	性別不明	0	0	1	0	0	0		
	合計	10	25	65	10	1	0		
	割合	9.0%	22.5%	58.6%	9.0%	0.9%	0.0%		

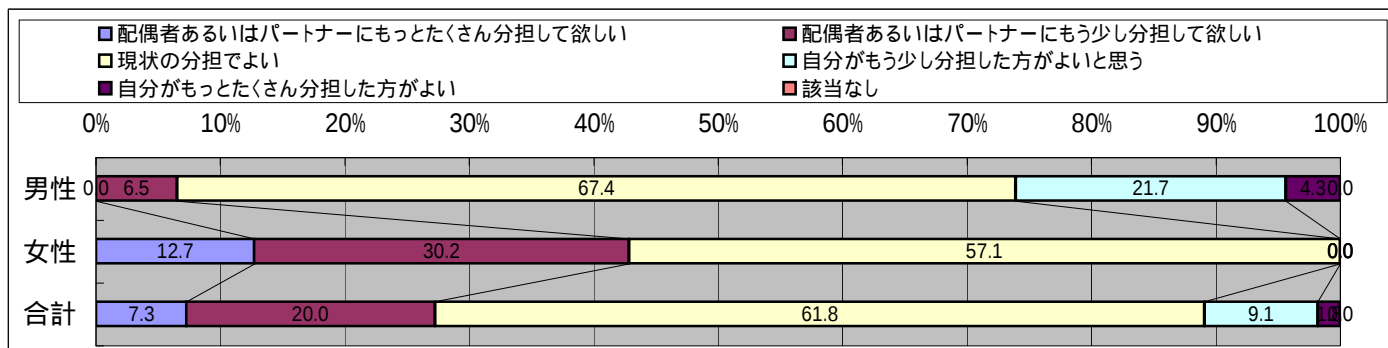
(N = 111)



男女とも、「現状の分担でよい」が過半数以上を占める割合となっているが、女性は男性に対して「分担して欲しい」割合が概ね半数を占める結果となっている。また、全体でも「配偶者に分担して欲しい」が3割を超える結果となっている。

項 目		分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	該 当 な し
そうじ	男性	0	3	31	10	2	0		
	女性	8	19	36	0	0	0		
	性別不明	0	0	1	0	0	0		
	合計	8	22	68	10	2	0		
	割合	7.3%	20.0%	61.8%	9.1%	1.8%	0.0%		

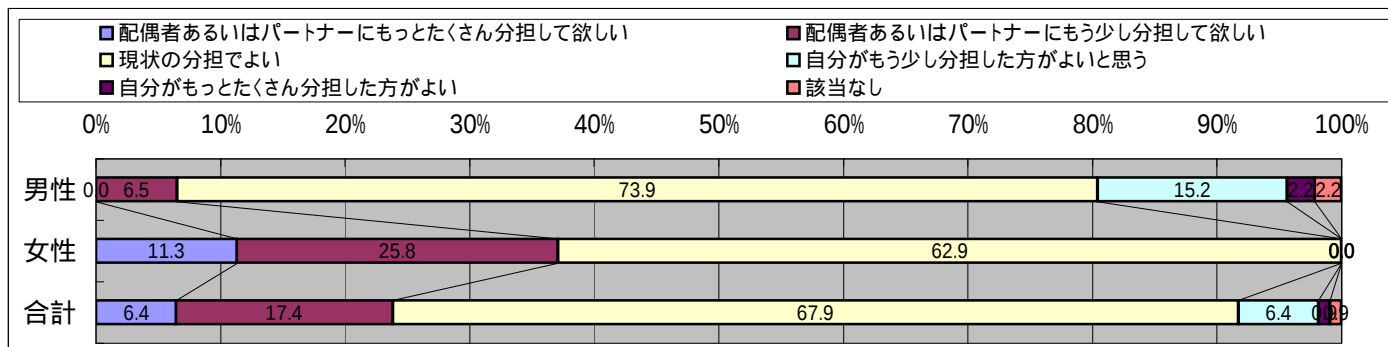
(N = 110)



男女とも、「現状の分担でよい」が過半数以上を占める割合となっているが、女性は男性に対して「分担して欲しい」割合が4割強を占める結果となっている。また、全体でも「配偶者に分担して欲しい」が3割弱となる結果となっている。

項 目		分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	該 当 な し
ゴミ出し	男性	0	3	34	7	1	1
	女性	7	16	39	0	0	0
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	7	19	74	7	1	1
	割合	6.4%	17.4%	67.9%	6.4%	0.9%	0.9%

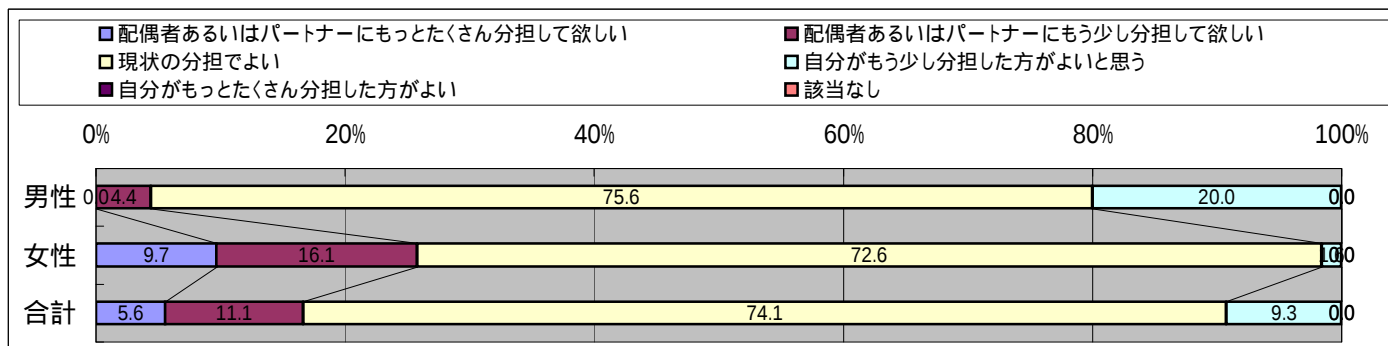
(N= 109)



男女とも、「現状の分担でよい」が大半を占める割合となっているが、女性は男性に対して「分担して欲しい」割合が4割弱を占める結果となっている。

項 目		分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	該 当 な し
洗濯	男性	0	2	34	9	0	0
	女性	6	10	45	1	0	0
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	6	12	80	10	0	0
	割合	5.6%	11.1%	74.1%	9.3%	0.0%	0.0%

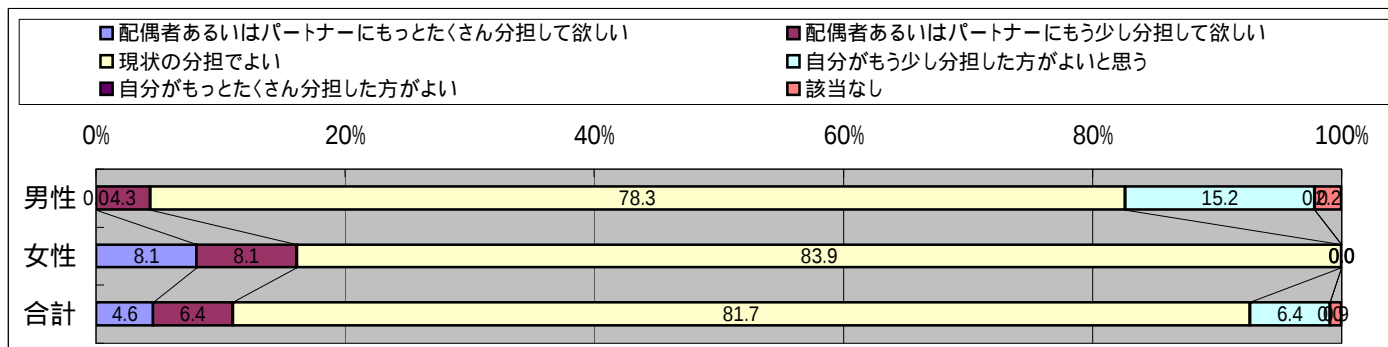
(N= 108)



男女とも、「現状の分担でよい」が大半を占める割合となった。

項 目		配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し 分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が も う 少 し 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	自 分 が も う 少 し 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	該 当 な し
食品・日用品の買物	男性	0	2	36	7	0	1
	女性	5	5	52	0	0	0
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	5	7	89	7	0	1
	割合	4.6%	6.4%	81.7%	6.4%	0.0%	0.9%

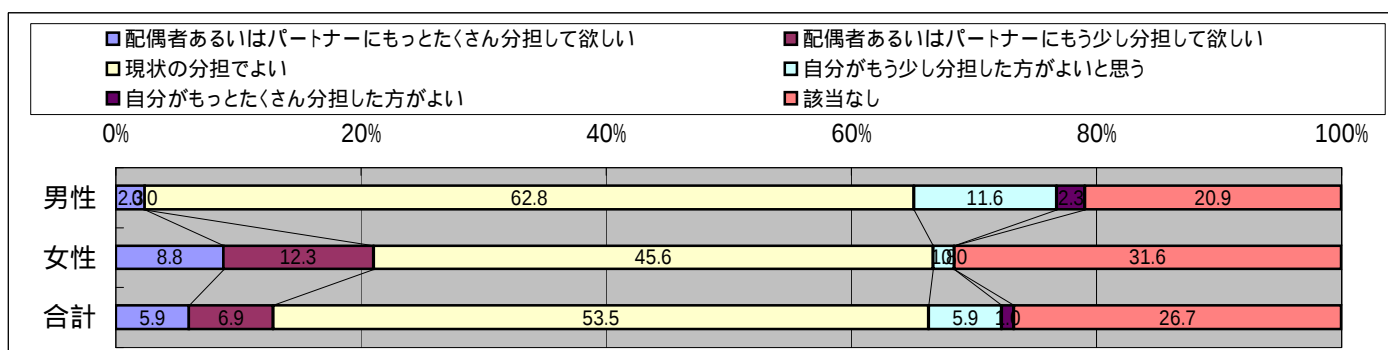
(N= 109)



男女とも、「現状の分担でよい」が大半を占める割合となっている。

項 目		配偶者あるいはパートナーにもう少し分担したい	配偶者あるいはパートナーにもう少し分担したい	現状の分担でよい	自分がもう少し分担した方がよいと思う	自分がもっとたくさん分担した方がよい	該当なし
子どもの勉強(教育)の指導	男性	1	0	27	5	1	9
	女性	5	7	26	1	0	18
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	6	7	54	6	1	27
	割合	5.9%	6.9%	53.5%	5.9%	1.0%	26.7%

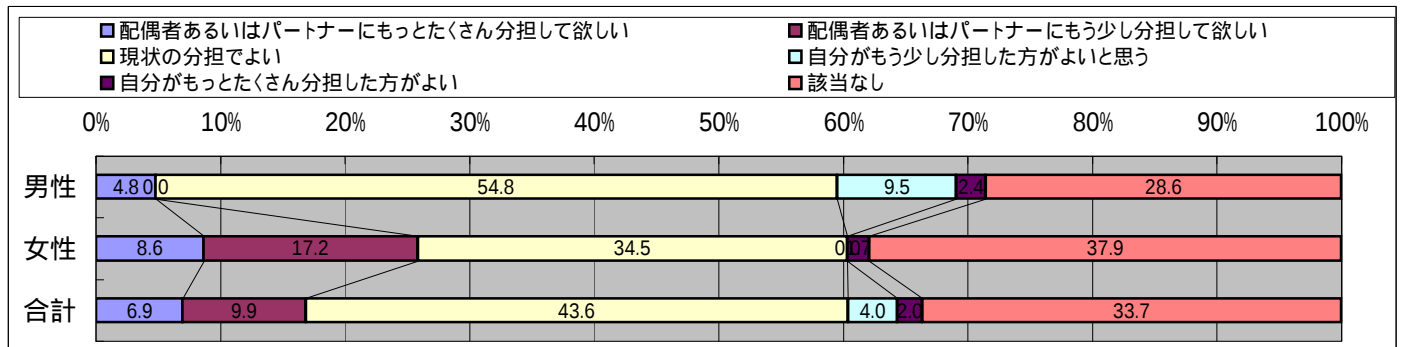
(N= 101)



男女とも、「現状の分担でよい」が過半数を占める割合となっているが、女性は男性に対して「分担して欲しい」割合が2割強を占める結果となっている。

項 目		分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	該 当 な し
乳児・幼児の世話	男性	2	0	23	4	1	12
	女性	5	10	20	0	1	22
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	7	10	44	4	2	34
	割合	6.9%	9.9%	43.6%	4.0%	2.0%	33.7%

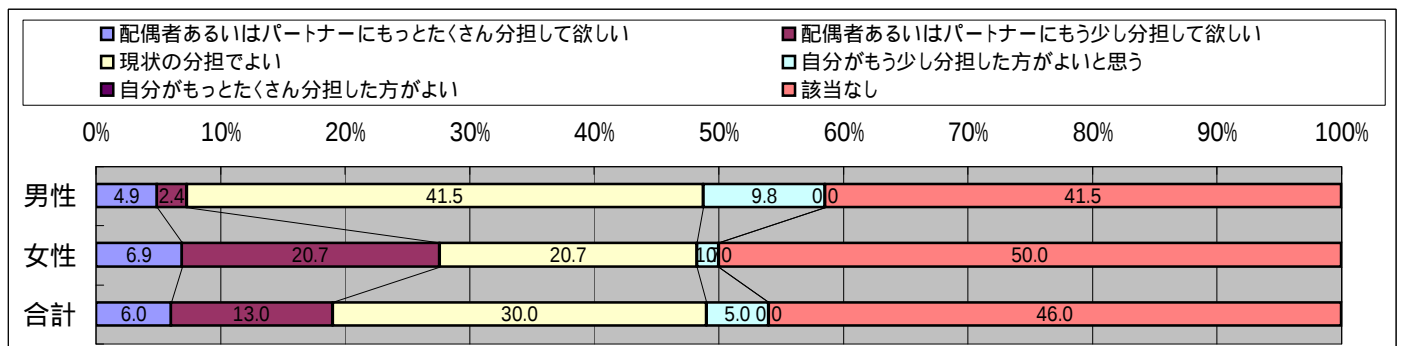
(N= 101)



全体で「該当なし」が高い割合を占めているが、「該当なし」を除けば、男女とも、「現状の分担でよい」が過半数以上となる。また、女性は男性に対して「分担して欲しい」割合が3割を超える結果となっている。

項 目		分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う 少 し は 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	自 分 が も う 少 し は 分 担 し た 方 が よ い と 思 う	該 当 な し
老いた親の世話(介護)	男性	2	1	17	4	0	17
	女性	4	12	12	1	0	29
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	6	13	30	5	0	46
	割合	6.0%	13.0%	30.0%	5.0%	0.0%	46.0%

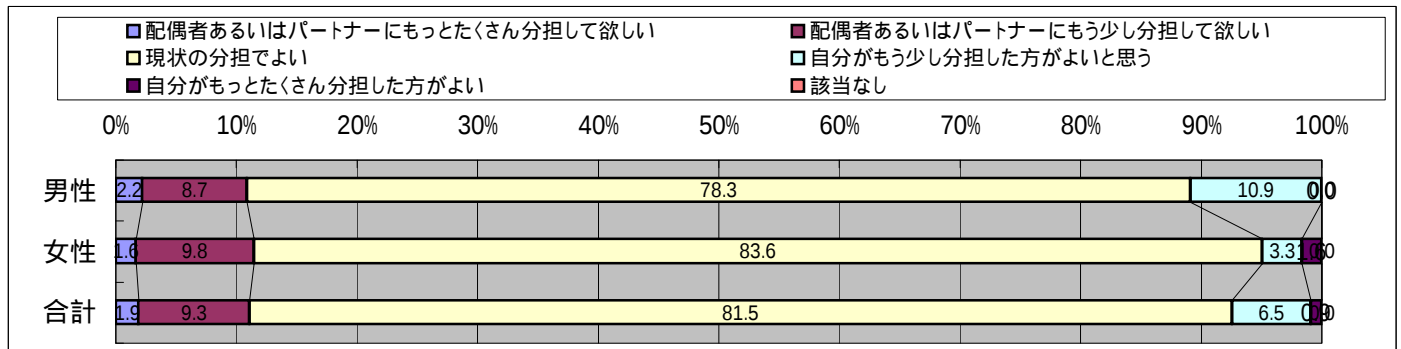
(N= 100)



全体で「該当なし」が半数近い割合を占めているが、「該当なし」を除けば、男性は、「現状の分担でよい」が大半を占めているのに対し、女性は半数以上「分担して欲しい」と思う結果となっている。

項 目		配偶者あるいはパートナーにもっとたくさん分担して欲しい	配偶者あるいはパートナーにもう少し分担して欲しい	現状の分担でよい	自分がもう少しと思う	自分がもっとたくさん分担した方がよい	該当なし
日常の家計の管理	男性	1	4	36	5	0	0
	女性	1	6	51	2	1	0
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	2	10	88	7	1	0
	割合	1.9%	9.3%	81.5%	6.5%	0.9%	0.0%

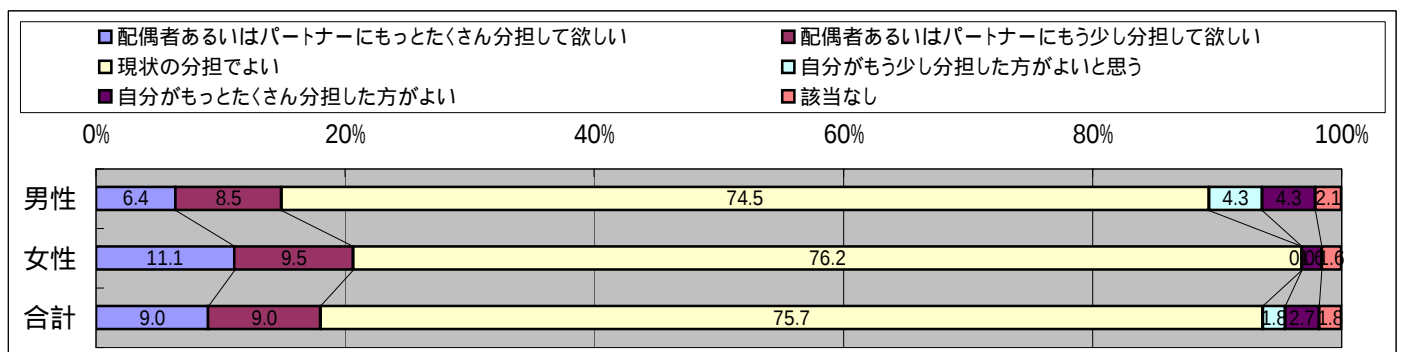
(N = 108)



男女とも、「現状の分担でよい」が大半を占める割合となっている。

項 目		配偶者あるいはパートナーにもっとたくさん分担して欲しい	配偶者あるいはパートナーにもう少し分担して欲しい	現状の分担でよい	自分がもう少しと思う	自分がもっとたくさん分担した方がよい	該当なし
家の中の簡単な修理・修繕	男性	3	4	35	2	2	1
	女性	7	6	48	0	1	1
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	10	10	84	2	3	2
	割合	9.0%	9.0%	75.7%	1.8%	2.7%	1.8%

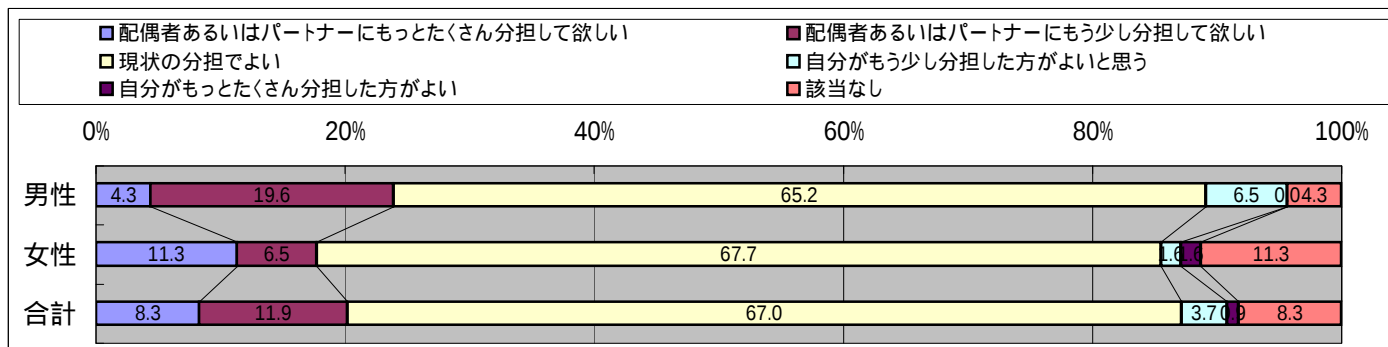
(N = 111)



男女とも、「現状の分担でよい」が大半を占める割合となっている。

項 目		配偶者あるいはパートナーにもう少し負担したい	配偶者あるいはパートナーにもう少し負担したい	現状の負担でよい	自分がもう少し負担した方がよいと思う	自分がもっとたくさん負担した方がよい	該当なし
自治会などの地域活動	男性	2	9	30	3	0	2
	女性	7	4	42	1	1	7
	性別不明	0	0	1	0	0	0
	合計	9	13	73	4	1	9
	割合	8.3%	11.9%	67.0%	3.7%	0.9%	8.3%

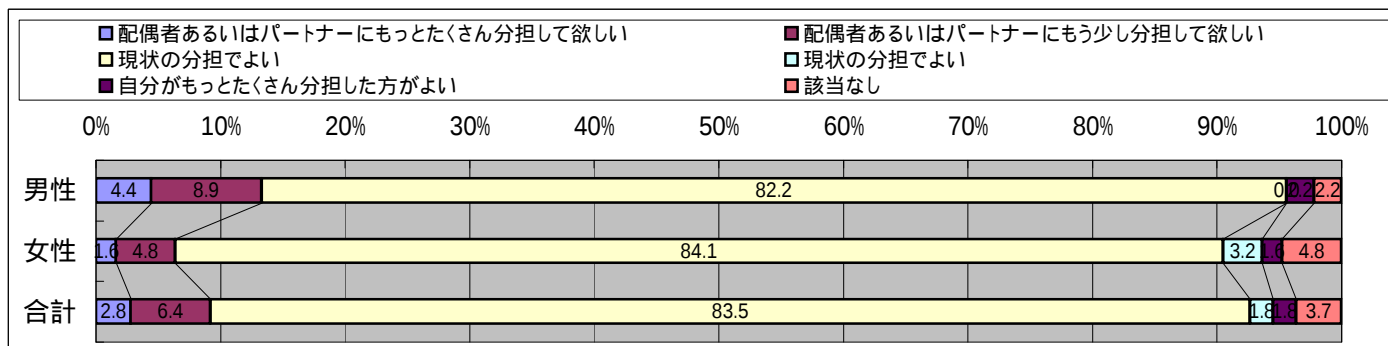
(N = 109)



男女とも、「現状の分担でよい」が過半数以上を占める割合となっているが、男性は女性に対して「分担して欲しい」割合が2割強を占める結果となっている。また、全体でも「配偶者に分担して欲しい」が2割となる結果となっている。

項 目		分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う し う 少 し 分 担 し て 欲 し い	配 偶 者 あ る い は パ ー ト ナ ー に も う し う 少 し 分 担 し て 欲 し い	現 状 の 分 担 で よ い	自 分 が よ い と 思 う 分 担 し た 方 が よ い	自 分 が も う と た く さ ん 分 担 し た 方 が よ い	該 当 な し
高額商品や土地家屋の購入決定	男性	2	4	37	0	1	1	
	女性	1	3	53	2	1	3	
	性別不明	0	0	1	0	0	0	
	合計	3	7	91	2	2	4	
	割合	2.8%	6.4%	83.5%	1.8%	1.8%	3.7%	

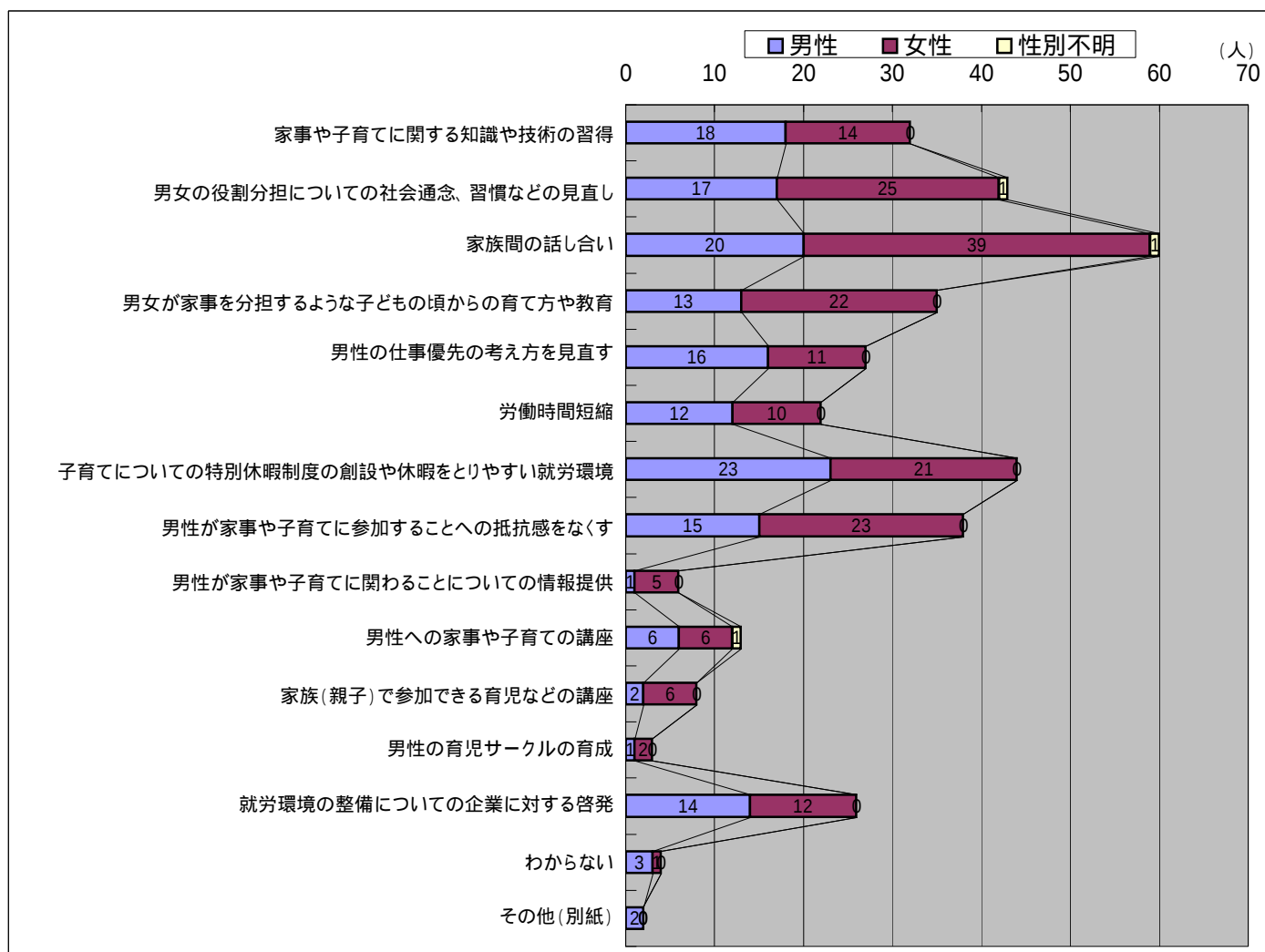
(N = 109)



男女とも、「現状の分担でよい」が大半を占める割合となっている。

Q10 あなたは、男性が家事や子育てに参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
家事や子育てに関する知識や技術の習得	18	11.0	14	7.1	0	0.0	32	8.8
男女の役割分担についての社会通念、習慣などの見直し	17	10.4	25	12.7	1	33.3	43	11.8
家族間の話し合い	20	12.3	39	19.8	1	33.3	60	16.5
男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育	13	8.0	22	11.2	0	0.0	35	9.6
男性の仕事優先の考え方を見直す	16	9.8	11	5.6	0	0.0	27	7.4
労働時間短縮	12	7.4	10	5.1	0	0.0	22	6.1
子育てについての特別休暇制度の創設や休暇をとりやすい就労環境	23	14.1	21	10.7	0	0.0	44	12.1
男性が家事や子育てに参加することへの抵抗感をなくす	15	9.2	23	11.7	0	0.0	38	10.5
男性が家事や子育てに関わることについての情報提供	1	0.6	5	2.5	0	0.0	6	1.7
男性への家事や子育ての講座	6	3.7	6	3.0	1	33.3	13	3.6
家族(親子)で参加できる育児などの講座	2	1.2	6	3.0	0	0.0	8	2.2
男性の育児サークルの育成	1	0.6	2	1.0	0	0.0	3	0.8
就労環境の整備についての企業に対する啓発	14	8.6	12	6.1	0	0.0	26	7.2
わからない	3	1.8	1	0.5	0	0.0	4	1.1
その他(別紙)	2	1.2	0	0.0	0	0.0	2	0.6
合 計	163		197		3		363	

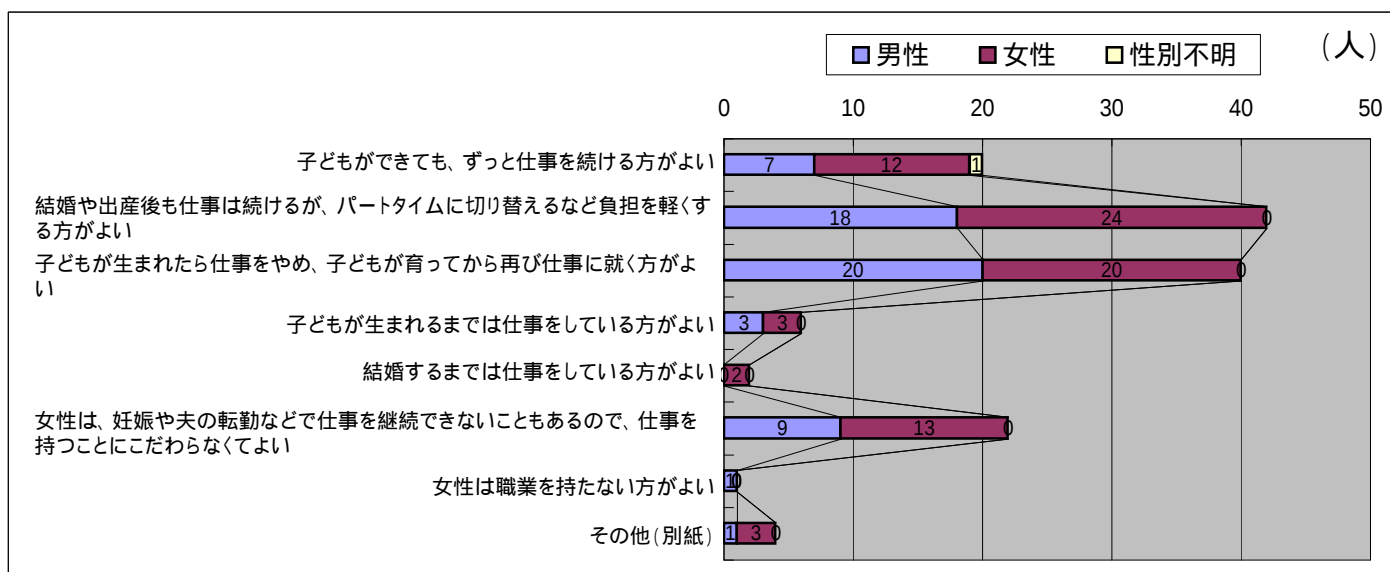


男性が家事や子育てに参加するため必要だと思うこととして、最も多かったのが「家族間の話し合い」60件(16.5%)、次いで「子育てについての特別休暇制度の創設や休暇をとりやすい就労環境」44件(12.1%)、「男女の役割分担についての社会通念、習慣などの見直し」43件(11.8%)と、必要と感じる主な3つは以上の結果となった。

就労について

Q11 あなたは、女性の働き方についてどのように思いますか。(1つ)

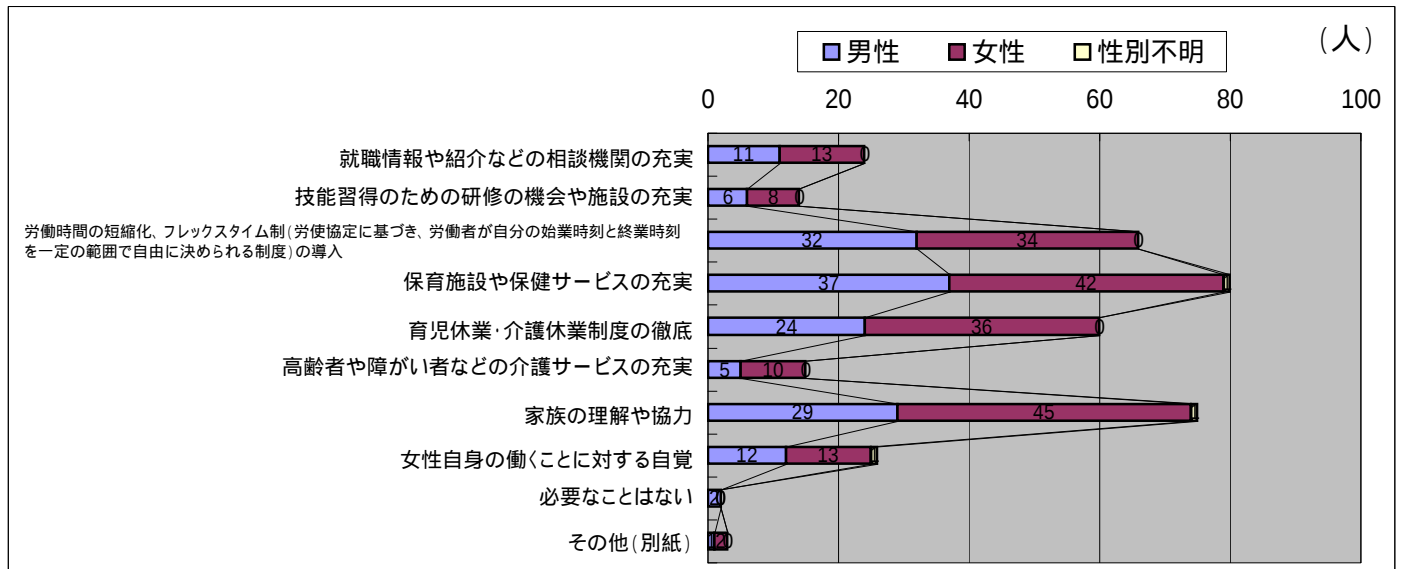
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい	7	11.9	12	15.6	1	100.0	20	14.6
結婚や出産後も仕事は続けるが、パートタイムに切り替えるなど負担を軽くする方がよい	18	30.5	24	31.2	0	0.0	42	30.7
子どもが生まれたら仕事をやめ、子どもが育ってから再び仕事に就く方がよい	20	33.9	20	26.0	0	0.0	40	29.2
子どもが生まれるまでは仕事をしている方がよい	3	5.1	3	3.9	0	0.0	6	4.4
結婚するまでは仕事をしている方がよい	0	0.0	2	2.6	0	0.0	2	1.5
女性は、妊娠や夫の転勤などで仕事を継続できないこともあるので、仕事を持つことにこだわらなくてよい	9	15.3	13	16.9	0	0.0	22	16.1
女性は職業を持たない方がよい	1	1.7	0	0.0	0	0.0	1	0.7
その他(別紙)	1	1.7	3	3.9	0	0.0	4	2.9
合 計	59		77		1		137	



女性の働き方について、「結婚や出産後も仕事は続けるが、パートタイムに切り替えるなど負担を軽くする方がよい」42件(30.7%)、「子どもが生まれたら仕事をやめ、子どもが育ってから再び仕事に就く方がよい」40件(29.2%)が高い割合を占めている。

Q12 女性が結婚・出産後も働き続けられるための環境整備では、どんな事が必要だと思いますか。(3つ以内)

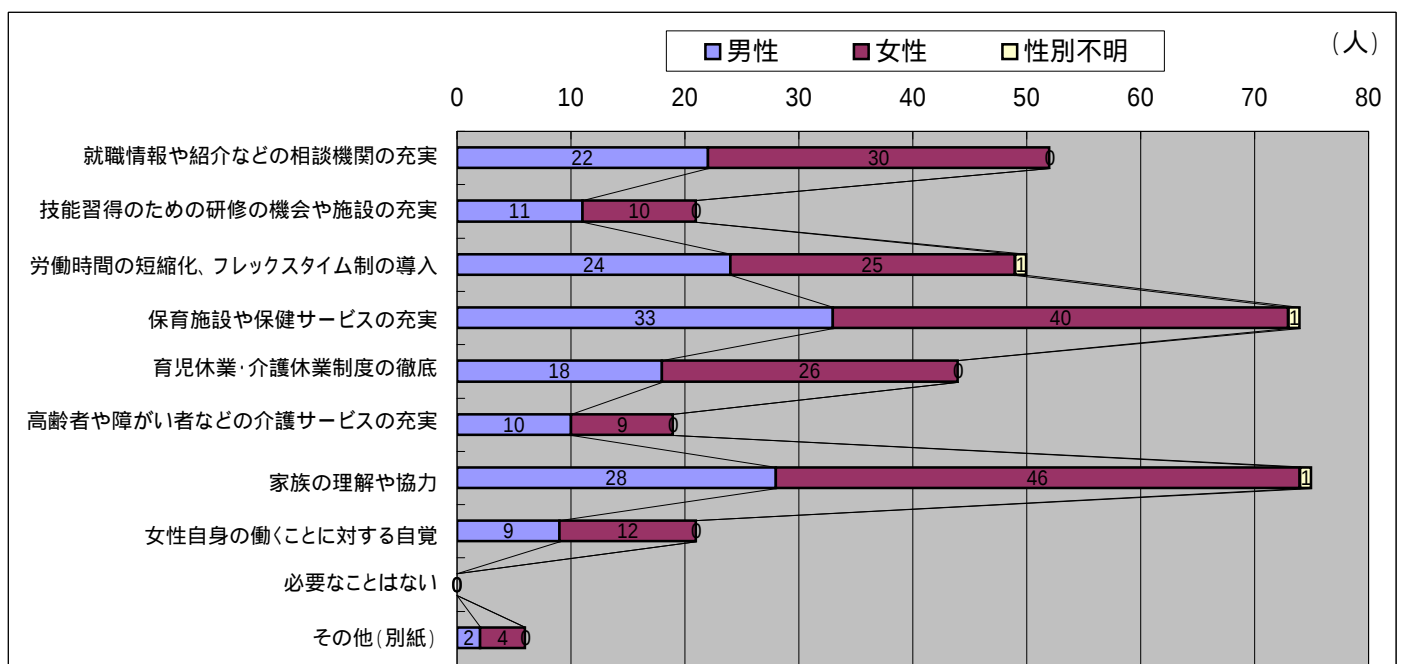
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
就職情報や紹介などの相談機関の充実	11	6.9	13	6.4	0	0.0	24	6.6
技能習得のための研修の機会や施設の充実	6	3.8	8	3.9	0	0.0	14	3.8
労働時間の短縮化、フレックスタイム制(労使協定に基づき、労働者が自分の始業時刻と終業時刻を一定の範囲で自由に決められる制度)の導入	32	20.1	34	16.7	0	0.0	66	18.1
保育施設や保健サービスの充実	37	23.3	42	20.7	1	33.3	80	21.9
育児休業・介護休業制度の徹底	24	15.1	36	17.7	0	0.0	60	16.4
高齢者や障がい者などの介護サービスの充実	5	3.1	10	4.9	0	0.0	15	4.1
家族の理解や協力	29	18.2	45	22.2	1	33.3	75	20.5
女性自身の働くことに対する自覚	12	7.5	13	6.4	1	33.3	26	7.1
必要なことはない	2	1.3	0	0.0	0	0.0	2	0.5
その他(別紙)	1	0.6	2	1.0	0	0.0	3	0.8
合 計	159		203		3		365	



最も多かった理由が「保育施設や保健サービスの充実」80件(21.9%)、次いで「家族の理解や協力」75件(20.5%)、「労働時間の短縮化、フレックスタイム制(労使協定に基づき、労働者が自分の始業時刻と終業時刻を一定の範囲で自由に決められる制度)の導入」66件(18.1%)、「育児休業・介護休業制度の徹底」60件(16.4%)と、女性が結婚・出産後も働き続けられるための環境整備では、必要と感じている主な内容は以上の結果となった。

Q13 また、女性が再就職するためには、どんなことが必要だと思いますか。(3つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
就職情報や紹介などの相談機関の充実	22	14.0	30	14.9	0	0.0	52	14.4
技能習得のための研修の機会や施設の充実	11	7.0	10	5.0	0	0.0	21	5.8
労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	24	15.3	25	12.4	1	33.3	50	13.8
保育施設や保健サービスの充実	33	21.0	40	19.8	1	33.3	74	20.4
育児休業・介護休業制度の徹底	18	11.5	26	12.9	0	0.0	44	12.2
高齢者や障がい者などの介護サービスの充実	10	6.4	9	4.5	0	0.0	19	5.2
家族の理解や協力	28	17.8	46	22.8	1	33.3	75	20.7
女性自身の働くことに対する自覚	9	5.7	12	5.9	0	0.0	21	5.8
必要なことはない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他(別紙)	2	1.3	4	2.0	0	0.0	6	1.7
合 計	157		202		3		362	



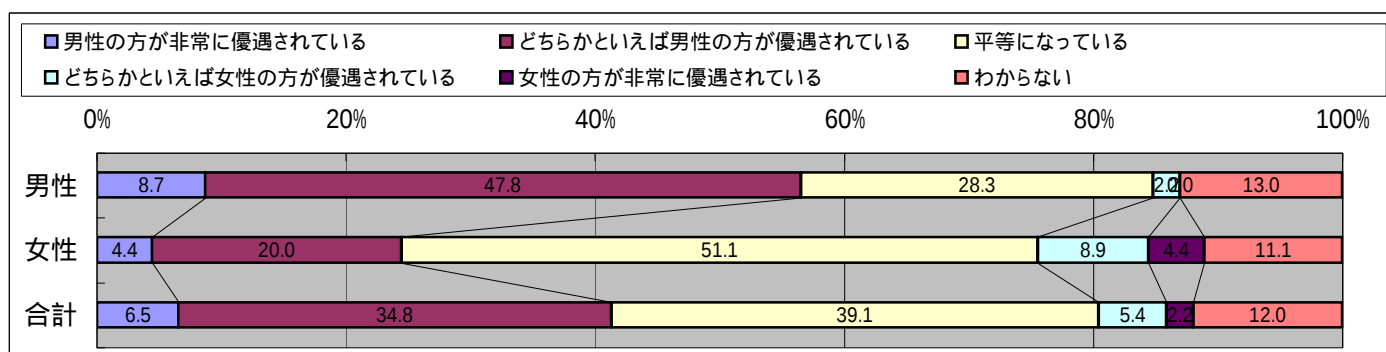
女性が再就職するため必要と感じる項目として、男女ともに「家族の理解や協力」75件(20.7%)、「保育施設や保健サービスの充実」74件(20.4%)が、高い割合を占める結果となった。

Q14 働いている方のみお答えください。

あなたの職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。～の項目について、(1つずつ)

項 目		男性の方が非常に優遇	どちらが優遇されれば男性	平等になっている	どちらが優遇されれば女性	女性の方が非常に優遇	わからない
募集や採用	男性	4	22	13	1	0	6
	女性	2	9	23	4	2	5
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	6	32	36	5	2	11
	割合	6.5%	34.8%	39.1%	5.4%	2.2%	12.0%

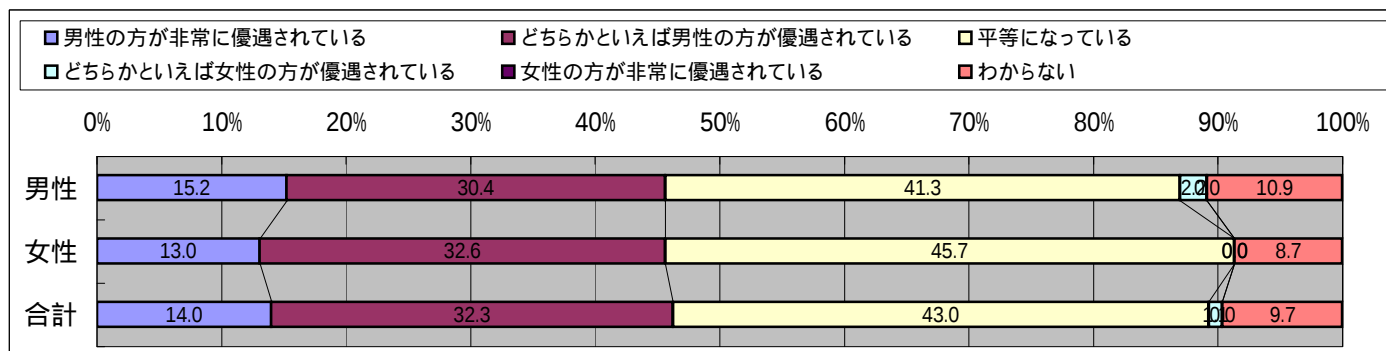
(N= 92)



職場での『募集や採用』の男女の扱いは、「平等になっている」が39.1%で最も多いが、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」が7.6%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は41.3%と、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」の割合を大きく上回っている。

項 目		男性の方が非常に優遇	どちらが優遇されれば男性	平等になっている	どちらが優遇されれば女性	女性の方が非常に優遇	わからない
賃金	男性	7	14	19	1	0	5
	女性	6	15	21	0	0	4
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	13	30	40	1	0	9
	割合	14.0%	32.3%	43.0%	1.1%	0.0%	9.7%

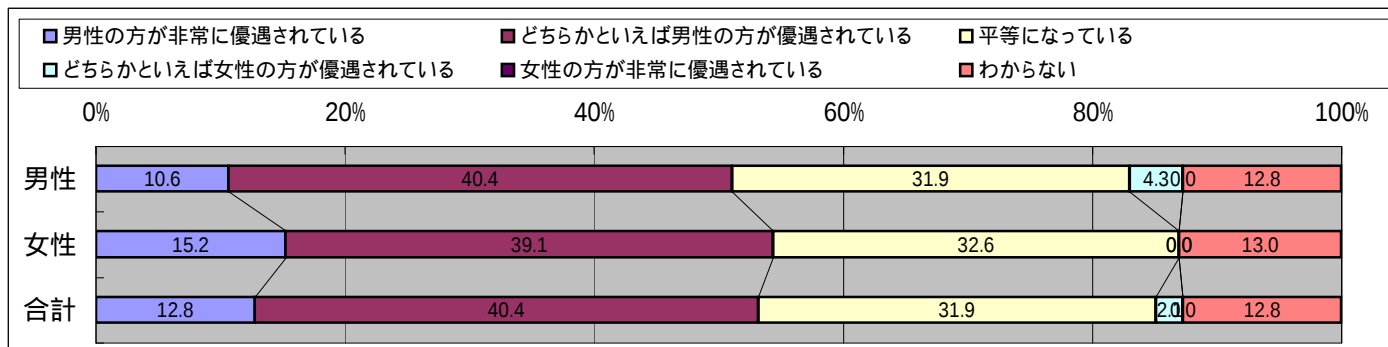
(N= 93)



職場での『賃金』の男女の扱いは、「平等になっている」が43.0%で最も多いが、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」が1.1%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は46.3%と、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」の割合を大きく上回っている。

項 目		男性の方が非常に優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が非常に優遇	わからない
昇進・昇格	男性	5	19	15	2	0	6
	女性	7	18	15	0	0	6
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	12	38	30	2	0	12
	割合	12.8%	40.4%	31.9%	2.1%	0.0%	12.8%

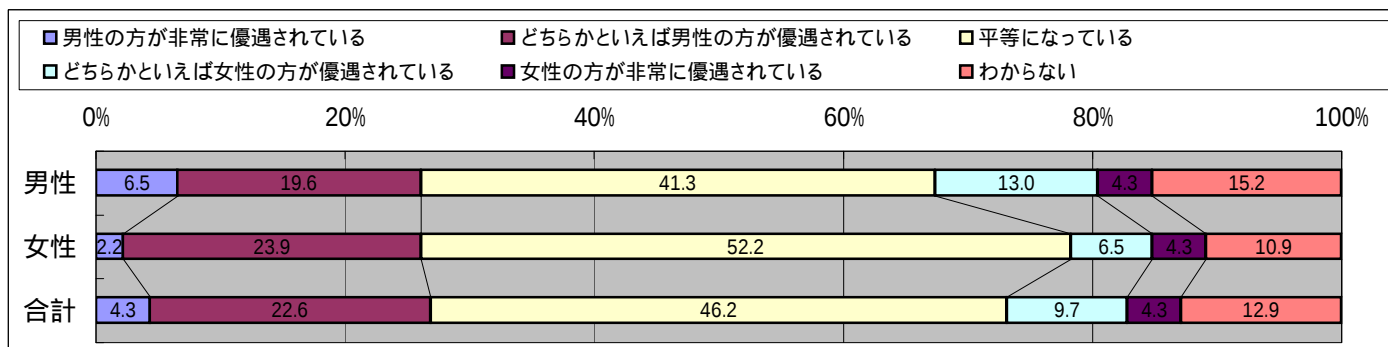
(N= 94)



職場での『昇進・昇格』の男女の扱いは、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は53.2%で最も多く、「平等とになっている」と回答したのは31.9%を占める割合となっている。

項 目		男性の方が非常に優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が非常に優遇	わからない
仕事内容	男性	3	9	19	6	2	7
	女性	1	11	24	3	2	5
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	4	21	43	9	4	12
	割合	4.3%	22.6%	46.2%	9.7%	4.3%	12.9%

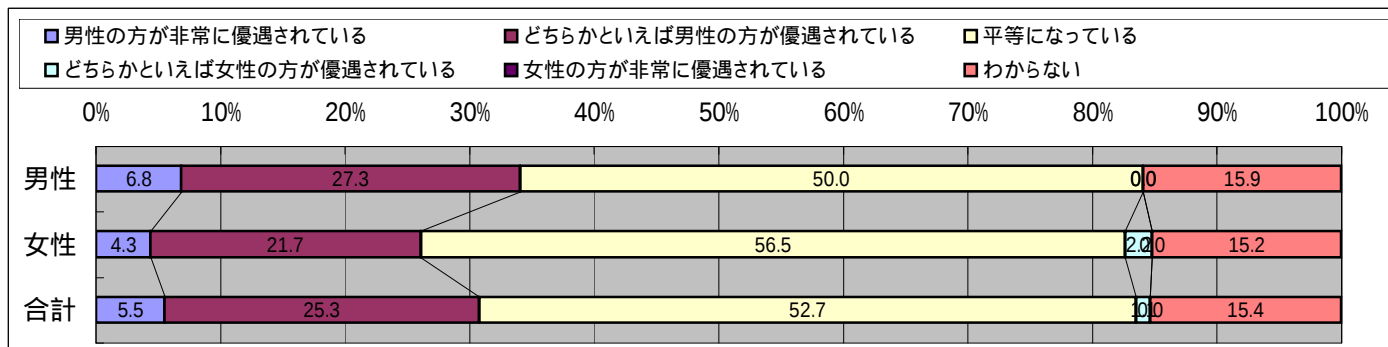
(N= 93)



職場での『仕事内容』の男女の扱いは、「平等とになっている」が46.2%で最も多いいが、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」が14.0%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は26.9%と、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」の倍近くの割合を占めている。

項 目		男性の方が非常に優遇	どちらかといえば男性	平等になっている	どちらかといえば女性	女性の方が非常に優遇	わからない
教育訓練・研修	男性	3	12	22	0	0	7
	女性	2	10	26	1	0	7
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	5	23	48	1	0	14
	割合	5.5%	25.3%	52.7%	1.1%	0.0%	15.4%

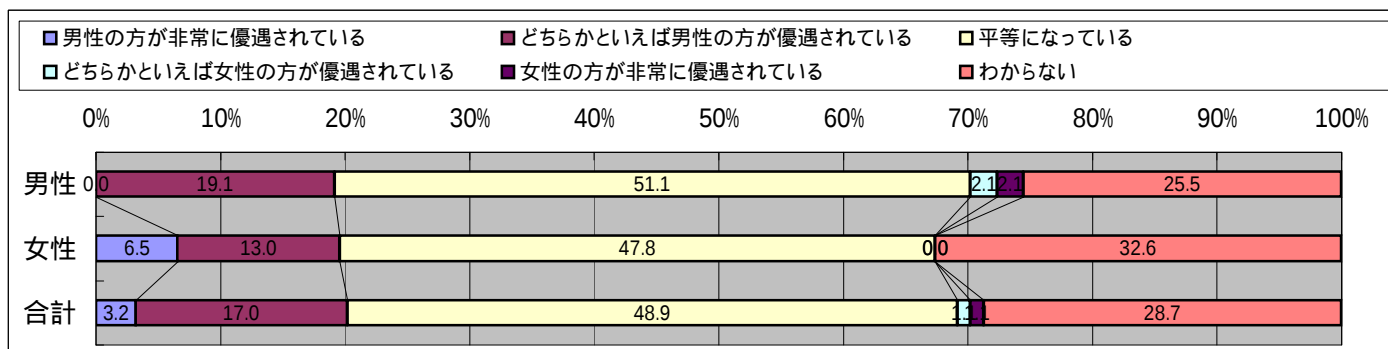
(N= 91)



職場での『教育訓練・研修』の男女の扱いは、「平等とになっている」が52.7%で最も多いが、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」が1.1%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は30.8%と、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」の割合を大きく上回っている。

項 目		男性の方が非常に優遇	どちらかといえば男性	平等になっている	どちらかといえば女性	女性の方が非常に優遇	わからない
退職・解雇	男性	0	9	24	1	1	12
	女性	3	6	22	0	0	15
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	3	16	46	1	1	27
	割合	3.2%	17.0%	48.9%	1.1%	1.1%	28.7%

(N= 94)

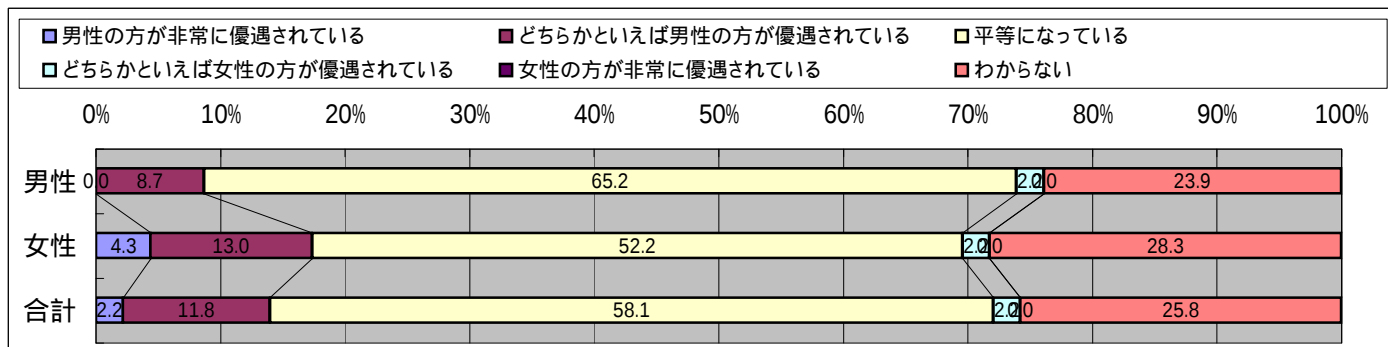


職場での『退職・解雇』の男女の扱いは、「平等とになっている」が48.9%で最も多いが、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」が1.1%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は20.2%と、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」の割合を大きく上回っている。

また、「わからない」と回答した割合は28.7%と約3割を占めている。

項 目		男性の方が非常に優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が非常に優遇	わからない
福利厚生	男性	0	4	30	1	0	11
	女性	2	6	24	1	0	13
	性別不明	0	1	0	0	0	0
	合計	2	11	54	2	0	24
	割合	2.2%	11.8%	58.1%	2.2%	0.0%	25.8%

(N= 93)

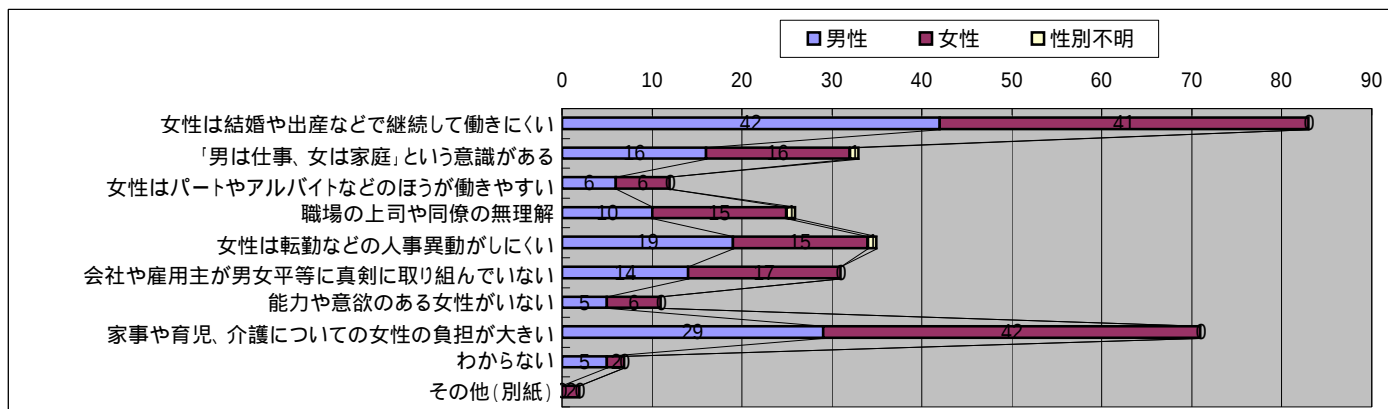


職場での『福利厚生』の男女の扱いは、「平等とになっている」が58.1%で最も多いが、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」が2.2%に対し、「男性の方が優遇されている(どちらかといえばも込み)」は14.0%と、「女性が優遇されている(どちらかといえばも込み)」の割合を大きく上回っている。

また、「わからない」と回答した割合は25.8%と全体の4分の1を占めている。

Q15 男女間に平等でない扱いがある場合、どのような理由からだと思いますか。(3つ以内)

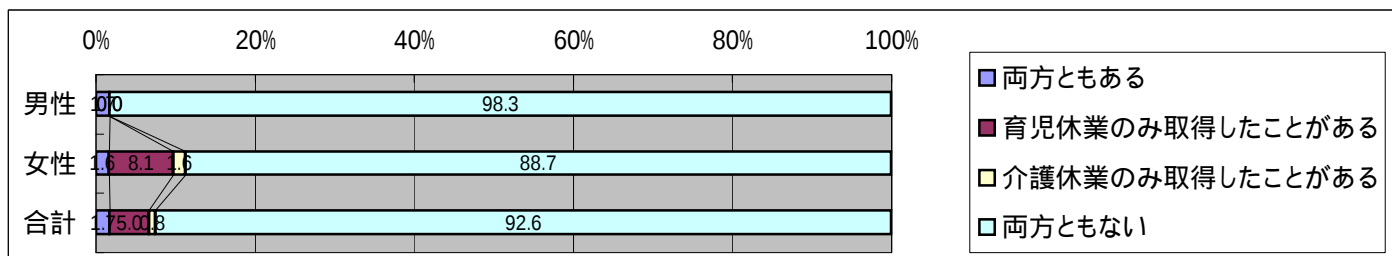
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
女性は結婚や出産などで継続して働きにくい	42	28.8	41	25.3	0	0.0	83	26.7
「男は仕事、女は家庭」という意識がある	16	11.0	16	9.9	1	33.3	33	10.6
女性はパートやアルバイトなどのほうが働きやすい	6	4.1	6	3.7	0	0.0	12	3.9
職場の上司や同僚の無理解	10	6.8	15	9.3	1	33.3	26	8.4
女性は転勤などの人事異動がしにくい	19	13.0	15	9.3	1	33.3	35	11.3
会社や雇用主が男女平等に真剣に取り組んでいない	14	9.6	17	10.5	0	0.0	31	10.0
能力や意欲のある女性が少ない	5	3.4	6	3.7	0	0.0	11	3.5
家事や育児、介護についての女性の負担が大きい	29	19.9	42	25.9	0	0.0	71	22.8
わからない	5	3.4	2	1.2	0	0.0	7	2.3
その他(別紙)	0	0.0	2	1.2	0	0.0	2	0.6
合 計	146		162		3		311	



男女ともに「女性は結婚や出産などで継続して働きにくい」83件(26.7%)、「家事や育児、介護についての女性の負担が大きい」71件(22.8%)が、高い割合を占める結果となった。

Q16 育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(1つ)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
両方ともある	1	1.7	1	1.6	0	0.0	2	1.7
育児休業のみ取得したことがある	0	0.0	5	8.1	1	100.0	6	5.0
介護休業のみ取得したことがある	0	0.0	1	1.6	0	0.0	1	0.8
両方ともない	57	98.3	55	88.7	0	0.0	112	92.6
合 計	58		62		1		121	



大半が「両方ともない」を占める結果となった。

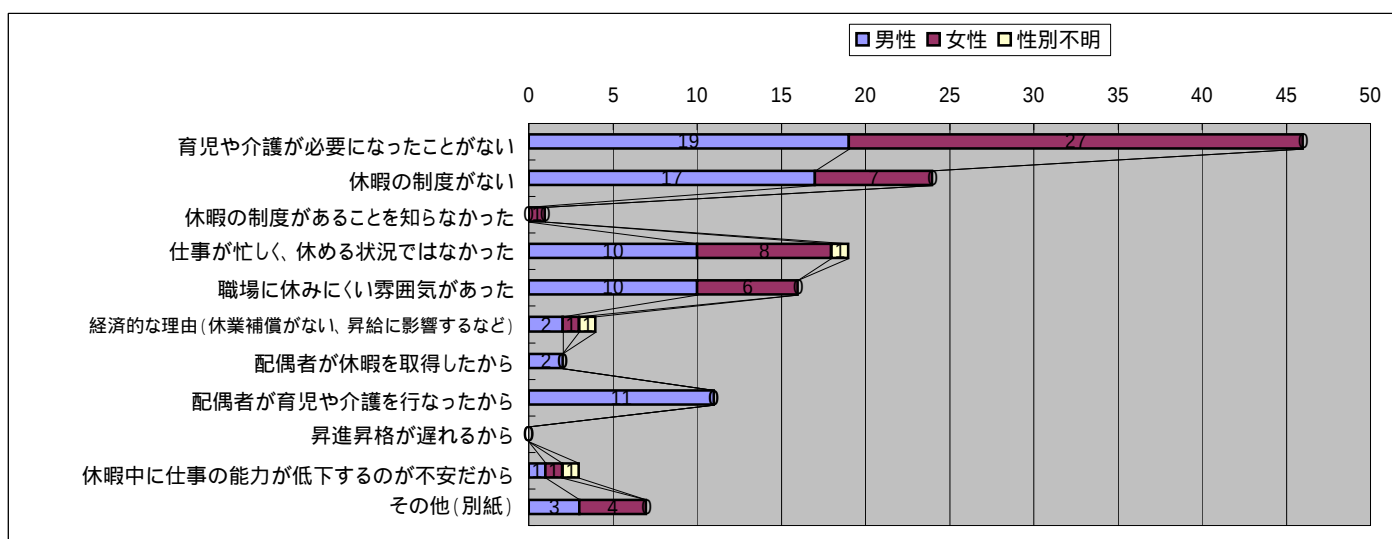
Q17 Q16で「2～4」と答えた方にお尋ねします。

休暇を取得したことがないのはどのような理由からですか。

取得したことがない休暇について、育児休業及び介護休業それぞれ。(あてはまるもの全て)

【育児休業分】

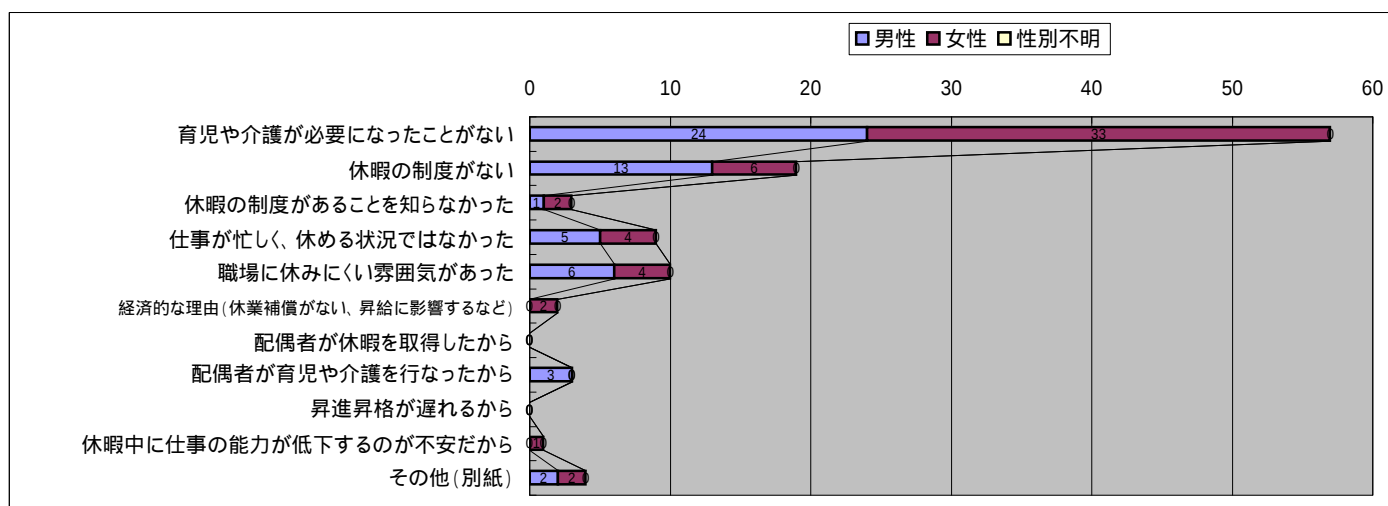
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
育児や介護が必要になったことがない	19	25.3	27	49.1	0	0.0	46	34.6
休暇の制度がない	17	22.7	7	12.7	0	0.0	24	18.0
休暇の制度があることを知らなかった	0	0.0	1	1.8	0	0.0	1	0.8
仕事が忙しく、休める状況ではなかった	10	13.3	8	14.5	1	33.3	19	14.3
職場に休みにくい雰囲気があった	10	13.3	6	10.9	0	0.0	16	12.0
経済的な理由(休業補償がない、昇給に影響するなど)	2	2.7	1	1.8	1	33.3	4	3.0
配偶者が休暇を取得したから	2	2.7	0	0.0	0	0.0	2	1.5
配偶者が育児や介護を行なったから	11	14.7	0	0.0	0	0.0	11	8.3
昇進昇格が遅れるから	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
休暇中に仕事の能力が低下するのが不安だから	1	1.3	1	1.8	1	33.3	3	2.3
その他(別紙)	3	4.0	4	7.3	0	0.0	7	5.3
合 計	75		55		3		133	



「育児や介護が必要になったことがない」が46件(34.6%)で最も多いが、次いで、「休暇の制度がない」24件(18.0%)、「仕事が忙しく、休める状況ではなかった」19件(14.3%)、「職場に休みにくい雰囲気があった」16件(12.0%)が主な理由となっている。

【介護休業分】

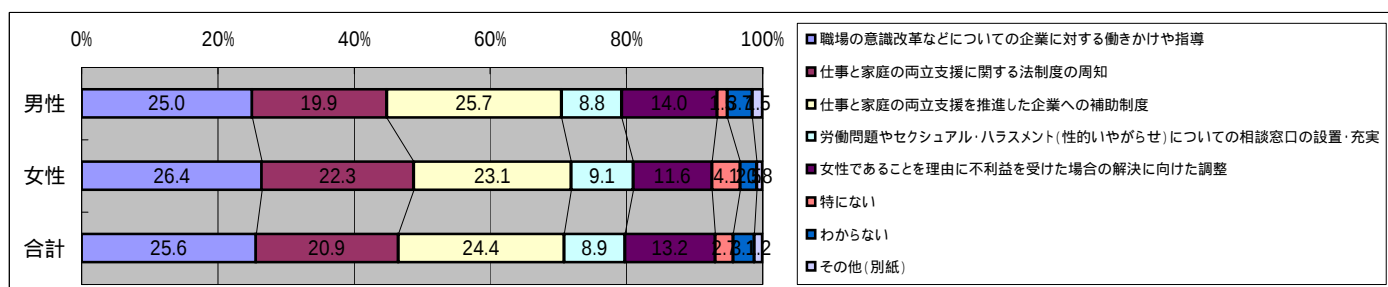
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
育児や介護が必要になったことがない	24	44.4	33	61.1	0	0.0	57	52.8
休暇の制度がない	13	24.1	6	11.1	0	0.0	19	17.6
休暇の制度があることを知らなかった	1	1.9	2	3.7	0	0.0	3	2.8
仕事が忙しく、休める状況ではなかった	5	9.3	4	7.4	0	0.0	9	8.3
職場に休みにくい雰囲気があった	6	11.1	4	7.4	0	0.0	10	9.3
経済的な理由(休業補償がない、昇給に影響するなど)	0	0.0	2	3.7	0	0.0	2	1.9
配偶者が休暇を取得したから	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
配偶者が育児や介護を行なったから	3	5.6	0	0.0	0	0.0	3	2.8
昇進昇格が遅れるから	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
休暇中に仕事の能力が低下するのが不安だから	0	0.0	1	1.9	0	0.0	1	0.9
その他(別紙)	2	3.7	2	3.7	0	0.0	4	3.7
合 計	54		54		0		108	



「育児や介護が必要になったことがない」が57件(52.8%)と過半数を占める結果となっているが、「休暇の制度がない」19件(17.6%)、「職場に休みにくい雰囲気があった」10件(9.3%)「仕事が忙しく、休める状況ではなかった」9件(8.3%)が主な理由となっている。

Q18 女性が働きやすい職場づくりのために、どのようなことを行政がすべきだと思いますか。(3つ以内)

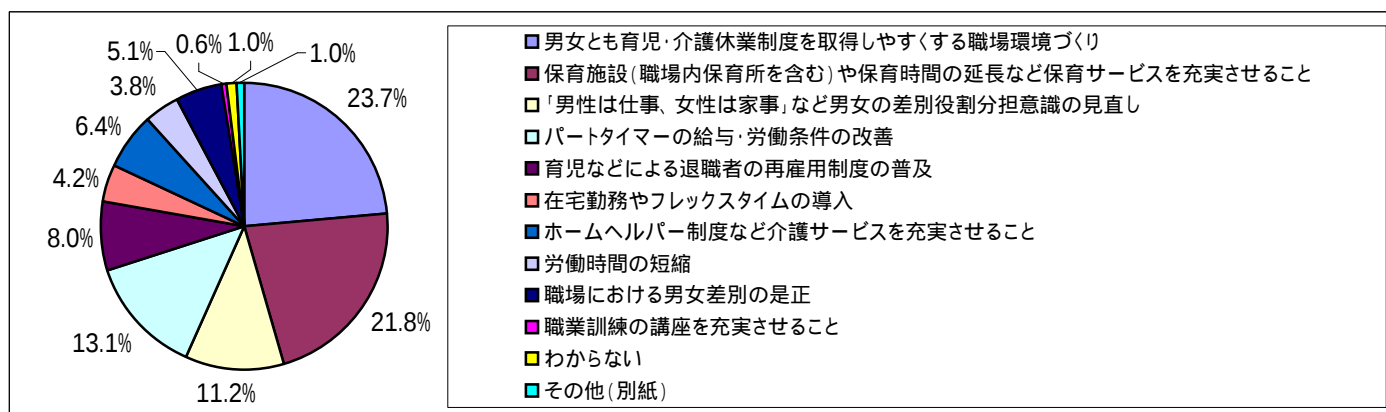
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
職場の意識改革などについての企業に対する働きかけや指導	34	25.0	32	26.4	0	0.0	66	25.6
仕事と家庭の両立支援に関する法制度の周知	27	19.9	27	22.3	0	0.0	54	20.9
仕事と家庭の両立支援を推進した企業への補助制度	35	25.7	28	23.1	0	0.0	63	24.4
労働問題やセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)についての相談窓口の設置・充実	12	8.8	11	9.1	0	0.0	23	8.9
女性であることを理由に不利益を受けた場合の解決に向けた調整	19	14.0	14	11.6	1	100.0	34	13.2
特にない	2	1.5	5	4.1	0	0.0	7	2.7
わからない	5	3.7	3	2.5	0	0.0	8	3.1
その他(別紙)	2	1.5	1	0.8	0	0.0	3	1.2
合 計	136		121		1		258	



「職場の意識改革などについての企業に対する働きかけや指導」が66件(25.6%)で最も多く、次いで、「仕事と家庭の両立支援を推進した企業への補助制度」63件(24.4%)、「仕事と家庭の両立支援に関する法制度の周知」54件(20.9%)となっている。

Q19 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり	37	25.0	36	22.4	1	33.3	74	23.7
保育施設(職場内保育所を含む)や保育時間の延長など保育サービスを充実させること	35	23.6	32	19.9	1	33.3	68	21.8
「男性は仕事、女性は家事」など男女の差別役割分担意識の見直し	20	13.5	15	9.3	0	0.0	35	11.2
パートタイマーの給与・労働条件の改善	18	12.2	22	13.7	1	33.3	41	13.1
育児などによる退職者の再雇用制度の普及	9	6.1	16	9.9	0	0.0	25	8.0
在宅勤務やフレックスタイムの導入	5	3.4	8	5.0	0	0.0	13	4.2
ホームヘルパー制度など介護サービスを充実させること	8	5.4	12	7.5	0	0.0	20	6.4
労働時間の短縮	5	3.4	7	4.3	0	0.0	12	3.8
職場における男女差別の是正	8	5.4	8	5.0	0	0.0	16	5.1
職業訓練の講座を充実させること	0	0.0	2	1.2	0	0.0	2	0.6
わからない	2	1.4	1	0.6	0	0.0	3	1.0
その他(別紙)	1	0.7	2	1.2	0	0.0	3	1.0
合 計	148		161		3		312	

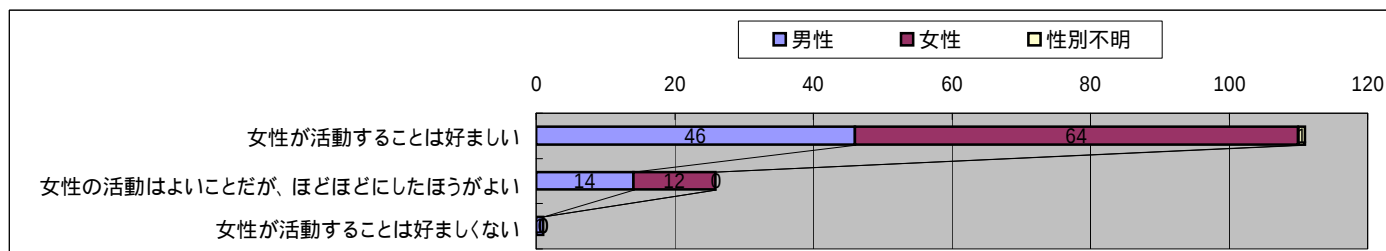


「男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」が74件(23.7%)で最も多く、次いで、「保育施設(職場内保育所を含む)や保育時間の延長など保育サービスを充実させること」68件(21.8%)、「パートタイマーの給与・労働条件の改善」41件(13.1%)、「「男性は仕事、女性は家事」など男女の差別役割分担意識の見直し」35件(11.2%)となっている。

社会参画について

Q20 あなたは、女性が職業以外のことで地域や社会のために活動することをどう思いますか。(1つ)

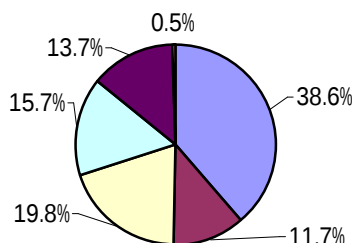
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
女性が活動することは好ましい	46	75.4	64	84.2	1	100.0	111	80.4
女性の活動はよいことだが、ほどほどにしたほうがよい	14	23.0	12	15.8	0	0.0	26	18.8
女性が活動することは好ましくない	1	1.6	0	0.0	0	0.0	1	0.7
合 計	61		76		1		138	



「女性が活動することは好ましい」が111件(80.4%)と8割を超える結果となった。

Q21 Q20で1を選んだ方にお聞きます。「女性が活動することは好ましい」とお考えになる理由は何ですか。(2つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
社会にできることにより視野を深めることができるから	33	41.8	42	36.2	1	50	76	38.6
能力・技能・資格が活かせるから	9	11.4	14	12.1	0	0	23	11.7
地域や社会のために役立つから	15	19.0	24	20.7	0	0	39	19.8
人間関係が広がるから	15	19.0	16	13.8	0	0	31	15.7
気分転換ができて、体や精神のためにもよいから	7	8.9	19	16.4	1	50	27	13.7
その他(別紙)	0	0.0	1	0.9	0	0	1	0.5
合 計	79		116		2		197	

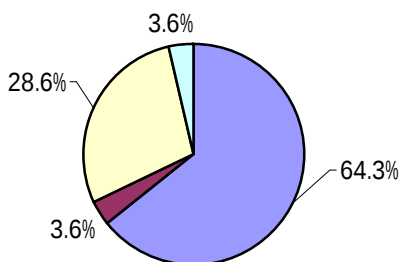


- 社会にできることにより視野を深めることができるから
- 能力・技能・資格が活かせるから
- 地域や社会のために役立つから
- 人間関係が広がるから
- 気分転換ができて、体や精神のためにもよいから
- その他(別紙)

「社会にできることにより視野を深めることができるから」が76件(38.6%)で最も多く、次いで「地域や社会のために役立つから」39件(19.8%)、「人間関係が広がるから」31件(15.7%)、「気分転換ができて、体や精神のためにもよいから」27件(13.7%)、「能力・技能・資格が活かせるから」23件(11.7%)となっている。

Q22 Q20で2・3を選んだ方にお聞きます。「ほどほどの活動」「好ましくない」とお考えになる理由は何ですか。(1つ)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
女性が外に出て活動すると、家事や育児がおろそかになるから	12	75.0	6	50.0	0	0.0	18	64.3
女性が外に出て活動することに関心を感じないから	1	6.3	0	0.0	0	0.0	1	3.6
女性が外にばかり出ていると、家の中が落ち着かないから	2	12.5	6	50.0	0	0.0	8	28.6
その他(別紙)	1	6.3	0	0.0	0	0.0	1	3.6
合 計	16		12		0		28	



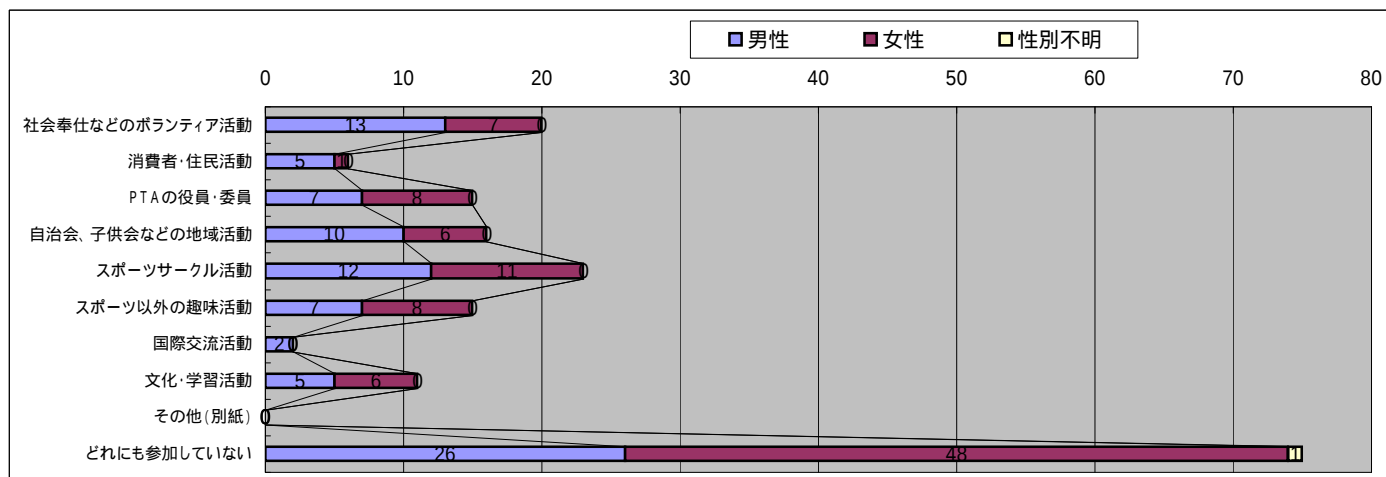
- 女性が外に出て活動すると、家事や育児がおろそかになるから
- 女性が外に出て活動することに関心を感じないから
- 女性が外にばかり出ていると、家の中が落ち着かないから
- その他(別紙)

「女性が外に出て活動すると、家事や育児がおろそかになるから」18件(64.3%)が過半数以上を占める割合となった。



Q23 あなたは現在どのような社会活動をなさっていますか。(あてはまるものを全て)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
社会奉仕などのボランティア活動	13	14.9	7	7.4	0	0.0	20	10.9
消費者・住民活動	5	5.7	1	1.1	0	0.0	6	3.3
PTAの役員・委員	7	8.0	8	8.4	0	0.0	15	8.2
自治会、子供会などの地域活動	10	11.5	6	6.3	0	0.0	16	8.7
スポーツサークル活動	12	13.8	11	11.6	0	0.0	23	12.6
スポーツ以外の趣味活動	7	8.0	8	8.4	0	0.0	15	8.2
国際交流活動	2	2.3	0	0.0	0	0.0	2	1.1
文化・学習活動	5	5.7	6	6.3	0	0.0	11	6.0
その他(別紙)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
どれにも参加していない	26	29.9	48	50.5	1	100.0	75	41.0
合 計	87		95		1		183	

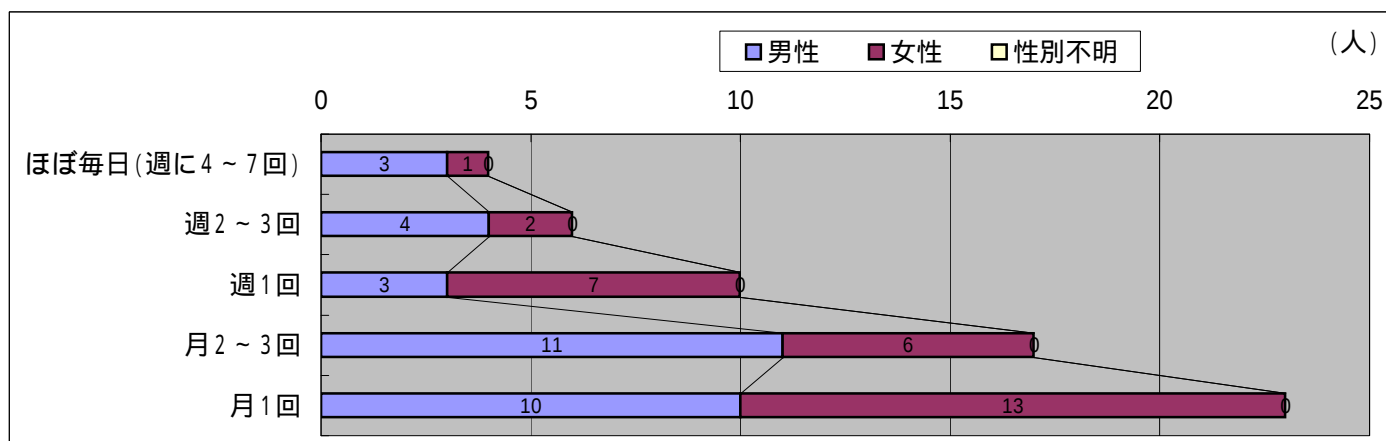


「どれにも参加していない」75件(41.0%)が男女ともに最も多く、全体の4割を超える結果となった。
活動している項目は「スポーツサークル活動」23件(12.6%)、「社会奉仕などのボランティア活動」20件(10.9%)の2項目が10%を超える結果となった。

Q24 Q23で1～9を選んだ方にお聞きます。

Q23で選んだ社会活動はどの程度なさっていますか。全ての活動を合せて(1つ)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ほぼ毎日(週に4～7回)	3	9.7	1	3.4	0	0.0	4	6.7
週2～3回	4	12.9	2	6.9	0	0.0	6	10.0
週1回	3	9.7	7	24.1	0	0.0	10	16.7
月2～3回	11	35.5	6	20.7	0	0.0	17	28.3
月1回	10	32.3	13	44.8	0	0.0	23	38.3
合 計	31		29		0		60	

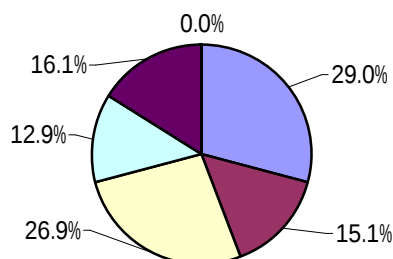


活動している方は、「月1回」が23人(38.3%)で最も多く、次いで「月2～3回」17人(28.3%)、「週1回」10人(16.7%)、「週2～3回」6人(10.0%)、「ほぼ毎日」4人(6.7%)となった。

Q25 Q23で1～9を選んだ方にお聞きます。

あなたが社会活動をしていく上で、必要としている情報は何か。(あてはまるものを全て)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
活動しているグループ等の存在、連絡方法	9	21.4	18	35.3	0	0.0	27	29.0
公共施設等の利用方法や事業の案内	7	16.7	7	13.7	0	0.0	14	15.1
活動内容や方法についての情報	10	23.8	15	29.4	0	0.0	25	26.9
講師や指導者の存在についての情報	6	14.3	6	11.8	0	0.0	12	12.9
特に必要な情報はない	10	23.8	5	9.8	0	0.0	15	16.1
その他(別紙)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	42		51		0		93	



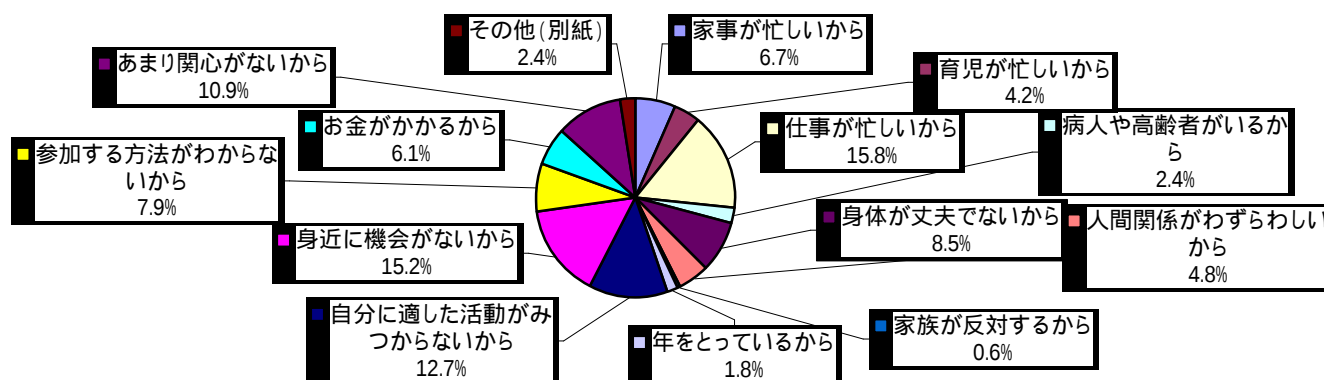
- 活動しているグループ等の存在、連絡方法
- 公共施設等の利用方法や事業の案内
- 活動内容や方法についての情報
- 講師や指導者の存在についての情報
- 特に必要な情報はない
- その他(別紙)

必要としている情報として「活動しているグループ等の存在、連絡方法」が27件(29.0%)で最も多く、次いで「活動内容や方法についての情報」25件(26.9%)となっている。一方、「特に必要な情報はない」は、15件(16.1%)となっている。

Q26 Q23で10を選んだ方にお聞きます。

あなたが社会活動に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものを全て)

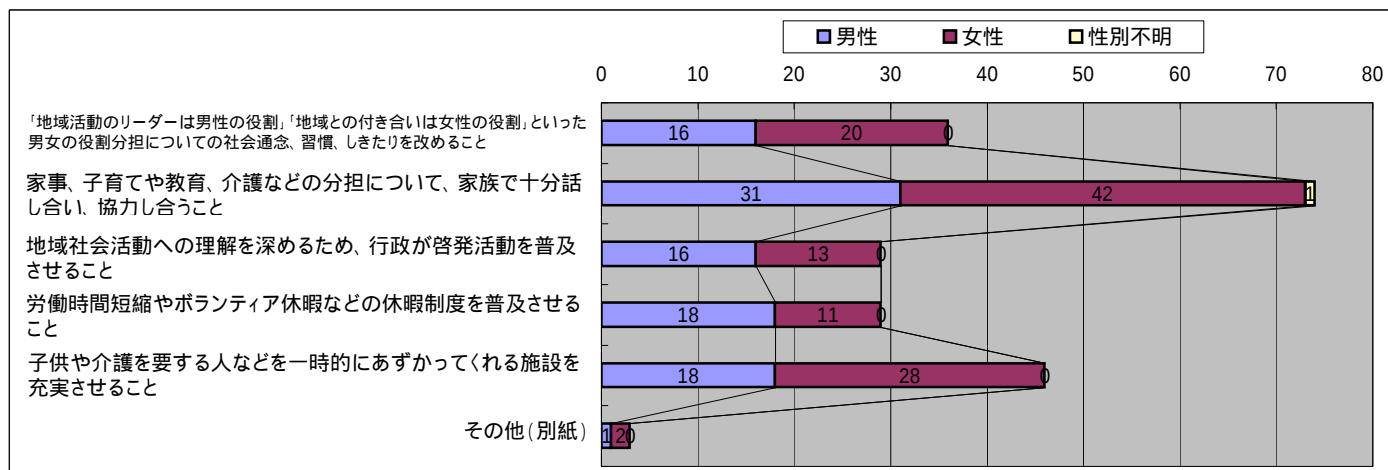
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
家事が忙しいから	2	4.1	9	8.0	0	0.0	11	6.7
育児が忙しいから	0	0.0	7	6.2	0	0.0	7	4.2
仕事が忙しいから	9	18.4	16	14.2	1	33.3	26	15.8
病人や高齢者がいるから	1	2.0	3	2.7	0	0.0	4	2.4
身体が丈夫でないから	7	14.3	7	6.2	0	0.0	14	8.5
人間関係がわずらわしいから	0	0.0	8	7.1	0	0.0	8	4.8
家族が反対するから	0	0.0	1	0.9	0	0.0	1	0.6
年をとっているから	3	6.1	0	0.0	0	0.0	3	1.8
自分に適した活動が見つからないから	8	16.3	12	10.6	1	33.3	21	12.7
身近に機会がないから	7	14.3	18	15.9	0	0.0	25	15.2
参加する方法がわからないから	2	4.1	11	9.7	0	0.0	13	7.9
お金がかかるから	3	6.1	6	5.3	1	33.3	10	6.1
あまり関心がないから	6	12.2	12	10.6	0	0.0	18	10.9
その他(別紙)	1	2.0	3	2.7	0	0.0	4	2.4
合 計	49		113		3		165	



「仕事が忙しいから」が26件(15.8%)で最も多く、次いで「身近に機会がないから」25件(15.2%)、「自分に適した活動が見つからないから」21件(12.7%)と、参加しない理由の主な3つは以上の結果となった。

Q27 女性も男性も、それぞれの個性や能力を活かし、より積極的に地域の団体やサークルの活動に参加できるようにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内)

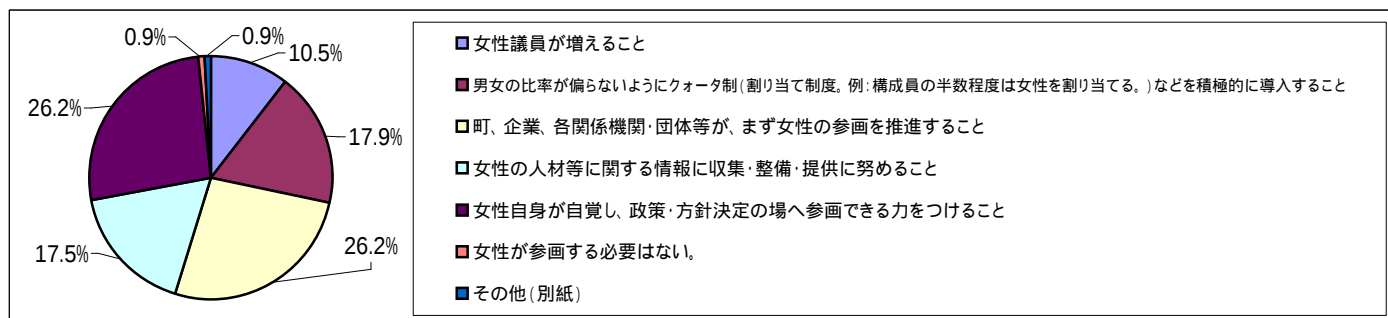
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
「地域活動のリーダーは男性の役割」「地域との付き合いは女性の役割」といった男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること	16	16.0	20	17.2	0	0.0	36	16.6
家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと	31	31.0	42	36.2	1	100.0	74	34.1
地域社会活動への理解を深めるため、行政が啓発活動を普及させること	16	16.0	13	11.2	0	0.0	29	13.4
労働時間短縮やボランティア休暇などの休暇制度を普及させること	18	18.0	11	9.5	0	0.0	29	13.4
子供や介護を要する人などを一時的にあずかってくれる施設を充実させること	18	18.0	28	24.1	0	0.0	46	21.2
その他(別紙)	1	1.0	2	1.7	0	0.0	3	1.4
合 計	100		116		1		217	



「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」が74件(34.1%)で最も多く、次いで「子供や介護を要する人などを一時的にあずかってくれる施設を充実させること」46件(21.2%)、「「地域活動のリーダーは男性の役割」「地域との付き合いは女性の役割」といった男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」36件(16.6%)と、必要と感じる主な3つは以上の結果となった。

Q28 政策・方針決定の場への女性の参画(企画の段階から参加すること)を進めるには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
女性議員が増えること	12	11.9	12	9.5	0	0.0	24	10.5
男女の比率が偏らないようにクォータ制(割り当て制度。例：構成員の半数程度は女性を割り当てる。)などを積極的に導入すること	15	14.9	25	19.8	1	50.0	41	17.9
町、企業、各関係機関・団体等が、まず女性の参画を推進すること	31	30.7	29	23.0	0	0.0	60	26.2
女性の人材等に関する情報に収集・整備・提供に努めること	13	12.9	26	20.6	1	50.0	40	17.5
女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること	27	26.7	33	26.2	0	0.0	60	26.2
女性が参画する必要はない。	2	2.0	0	0.0	0	0.0	2	0.9
その他(別紙)	1	1.0	1	0.8	0	0.0	2	0.9
合 計	101		126		2		229	

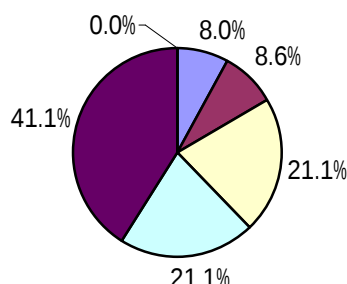


「町、企業、各関係機関・団体等が、まず女性の参画を推進すること」と、「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」は各60件(26.2%)で、同率で最も多く、次いで、「男女の比率が偏らないようにクォータ制(割り当て制度。例：構成員の半数程度は女性を割り当てる。)などを積極的に導入すること」41件(17.9%)と、「女性の人材等に関する情報に収集・整備・提供に努めること」40件(17.5%)は、ほぼ同率となっている。
必要と感じる主な項目は以上の結果となった。

女性の人権について

Q29 女性に対する暴力について感心が高まっていますが、次のことがらのうち、あなたの身近で実際に見聞きしたものがありますか。(該当するもの全て)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
女性に対する性暴力	5	7.5	8	7.5	1	50.0	14	8.0
売春、買春、援助交際	6	9.0	9	8.5	0	0.0	15	8.6
ドメスティック・バイオレンス(配偶者や身近なパートナーからの暴力)	11	16.4	26	24.5	0	0.0	37	21.1
職場・地域活動におけるセクシュアル・ハラスメント	13	19.4	23	21.7	1	50.0	37	21.1
見聞きしたことがない	32	47.8	40	37.7	0	0.0	72	41.1
その他(別紙)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	67		106		2		175	

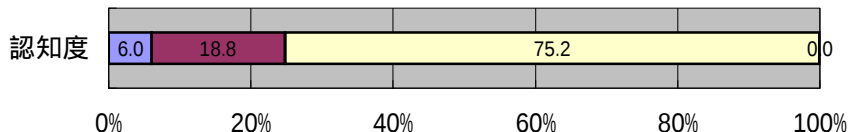


- 女性に対する性暴力
- 売春、買春、援助交際
- ドメスティック・バイオレンス(配偶者や身近なパートナーからの暴力)
- 職場・地域活動におけるセクシュアル・ハラスメント
- 見聞きしたことがない
- その他(別紙)

「見聞きしたことがない」が72件(41.1%)と4割を超えているが、「ドメスティック・バイオレンス(配偶者や身近なパートナーからの暴力)」、「職場・地域活動におけるセクシュアル・ハラスメント」が各37件(21.1%)と各2割を超える結果となった。

Q30 ドメスティック・バイオレンスが、社会問題となっていますが、あなたはどの程度ご存知ですか。(1つ)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自分が直接経験したことがある	1	1.8	7	9.2	0	0.0	8	6.0
自分の身の回りで経験した人がある	9	16.1	15	19.7	1	100.0	25	18.8
ことばや意味は知っているが、实例はない	46	82.1	54	71.1	0	0.0	100	75.2
ことば自体知らない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	56		76		1		133	



- 自分が直接経験したことがある
- 自分の身の回りで経験した人がある
- ことばや意味は知っているが、实例はない
- ことば自体知らない

「ことばや意味は知っているが、实例はない」が100件(75.2%)と全体の4分の3を占める割合となっているが、「自分が直接経験したことがある」、「自分の身の回りで経験した人がある」を合すると、33件(24.8%)と4分の1を占める割合となっている。

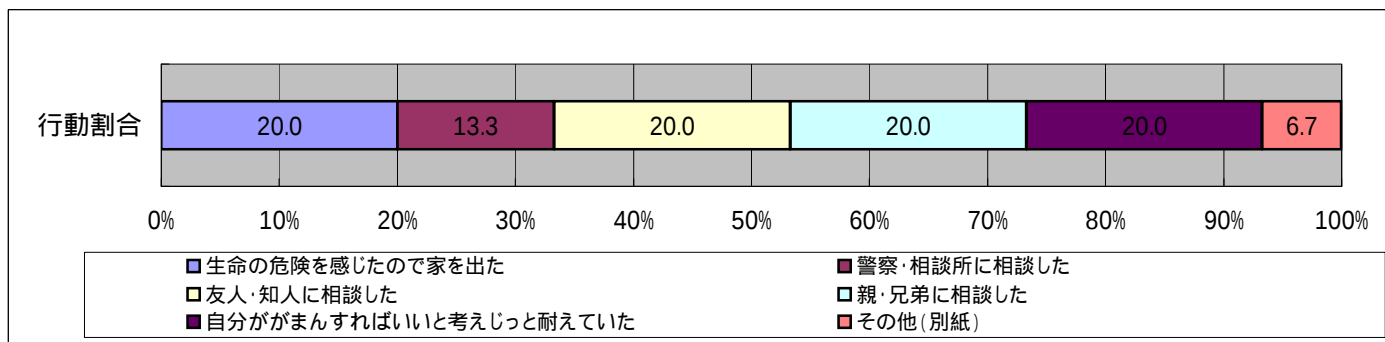
Q31 Q30で1を選んだ方にお聞きます。 どのような暴行を受けましたか。(該当するもの全て)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
殴る、蹴るなどの身体に対する暴力(身体的暴力)	1	100.0	5	35.7	0	0.0	6	40.0
ののしり、脅迫等のことばの暴力や外出などをさせてもらえない(精神的暴力)	0	0.0	6	42.9	0	0.0	6	40.0
性的な行為を強要(性的暴力)	0	0.0	2	14.3	0	0.0	2	13.3
その他(別紙)	0	0.0	1	7.1	0	0.0	1	6.7
合 計	1		14		0		15	

「殴る、蹴るなどの身体に対する暴力(身体的暴力)」、「ののしり、脅迫等のことばの暴力や外出などをさせてもらえない(精神的暴力)」がともに、40.0%となっている。

Q32 Q30で1を選んだ方にお聞きます。 その時あなたはどうかしましたか。(該当するもの全て)

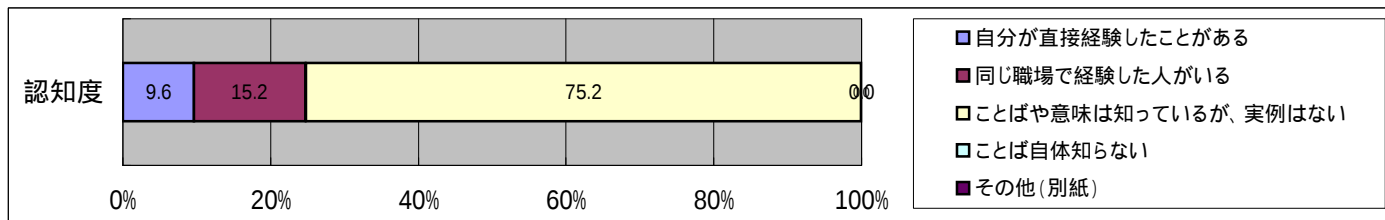
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
生命の危険を感じたので家を出た	0	0.0	3	21.4	0	0.0	3	20.0
警察・相談所に相談した	0	0.0	2	14.3	0	0.0	2	13.3
友人・知人に相談した	0	0.0	3	21.4	0	0.0	3	20.0
親・兄弟に相談した	0	0.0	3	21.4	0	0.0	3	20.0
自分ががまんすればいいと考えじっと耐えていた	1	100.0	2	14.3	0	0.0	3	20.0
その他(別紙)	0	0.0	1	7.1	0	0.0	1	6.7
合 計	1		14		0		15	



各項目、ほぼ同率で平均的な行動となっている。

Q33 職場におけるセクシュアル・ハラスメントを受けた経験や見聞きしたことがありますか。(該当するもの全て)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自分が直接経験したことがある	1	1.9	11	15.7	0	0.0	12	9.6
同じ職場で経験した人がある	8	14.8	11	15.7	0	0.0	19	15.2
ことばや意味は知っているが、実例はない	45	83.3	48	68.6	1	100.0	94	75.2
ことば自体知らない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他(別紙)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	54		70		1		125	

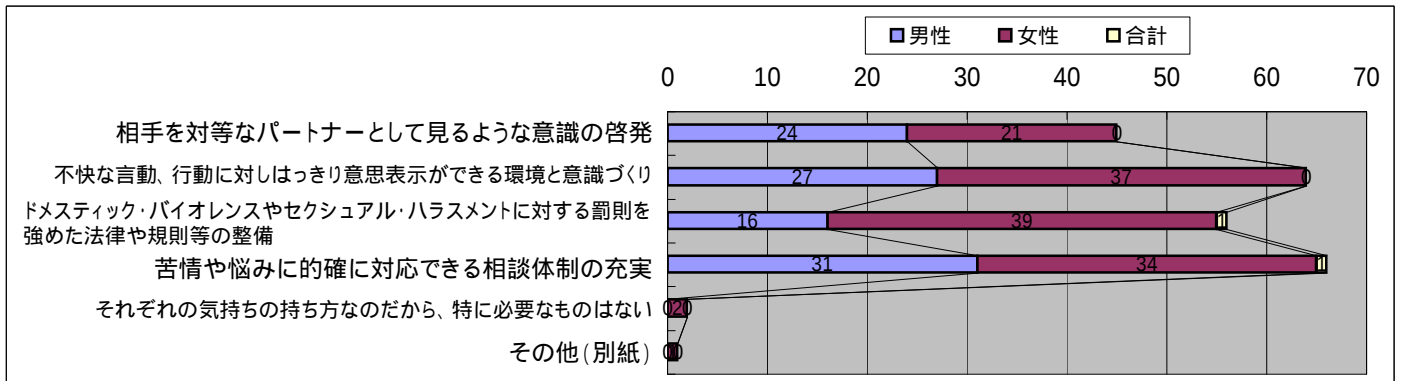


「ことばや意味は知っているが、実例はない」が94件(75.2%)と全体の4分の3を占める割合となっているが、「自分が直接経験したことがある」、「同じ職場で経験した人がある」を合すると、31件(24.8%)と4分の1を占める割合となっている。



Q34 ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなどの
人権侵害をあらゆる分野からなくすためにはどのようなことが必要だと思いますか。(3つ以内)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発	24	24.5	21	15.7	0	0.0	45	19.2
不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり	27	27.6	37	27.6	0	0.0	64	27.4
ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントに対する罰則を強めた法律や規則等の整備	16	16.3	39	29.1	1	50.0	56	23.9
苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実	31	31.6	34	25.4	1	50.0	66	28.2
それぞれの気持ちの持ち方なのだから、特に必要なものはない	0	0.0	2	1.5	0	0.0	2	0.9
その他(別紙)	0	0.0	1	0.7	0	0.0	1	0.4
合 計	98		134		2		234	

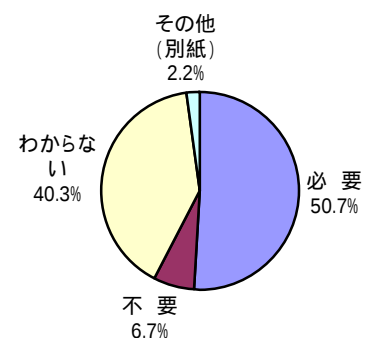


「苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実」が66件(28.2%)で最も多く、次いで「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」64件(27.4%)、「ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントに対する罰則を強めた法律や規則等の整備」56件(23.9%)、「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」45件(19.2%)となり、「それぞれの気持ちの持ち方なのだから、特に必要なものはない」としたものは、2件(0.9%)となった。

行政について

Q35 平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」を受け、中標津町では地域の実情に沿った男女共同参画政策を推進していきたいと考えています。他の自治体では男女共同参画を推進するための条例や数値目標などを掲げた計画を制定していますが、あなたは、中標津町にもそのようなものが必要だと思いますか。

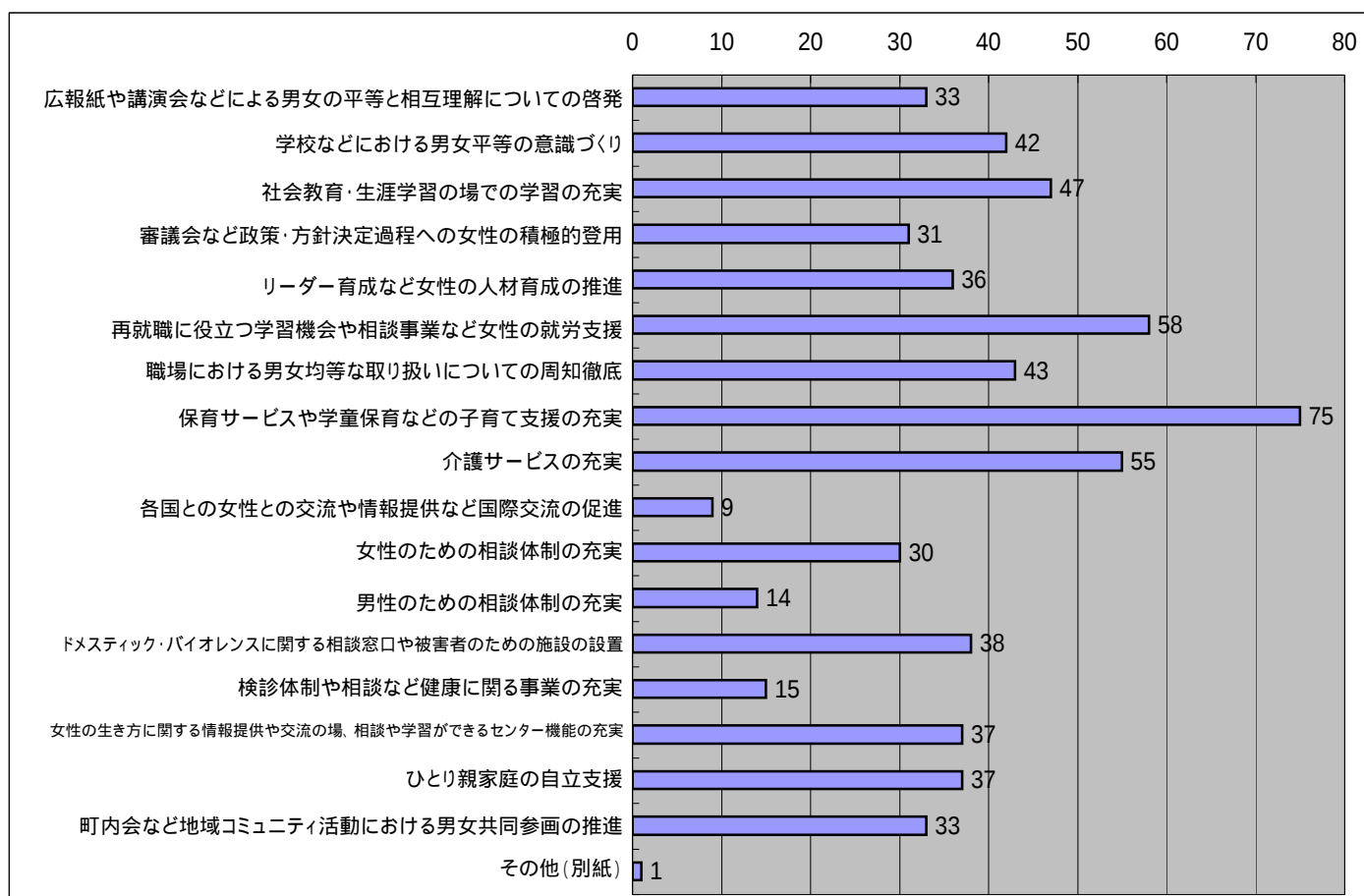
項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
必 要	29	50.0	38	50.7	1	100.0	68	50.7
不 要	6	10.3	3	4.0	0	0.0	9	6.7
わからない	20	34.5	34	45.3	0	0.0	54	40.3
その他(別紙)	3	5.2	0	0.0	0	0.0	3	2.2
合 計	58		75		1		134	



「必要」が68人(50.7%)と過半数を占める割合となった。また、一方で「わからない」とした人は54人(40.3%)と高い割合を占めている。

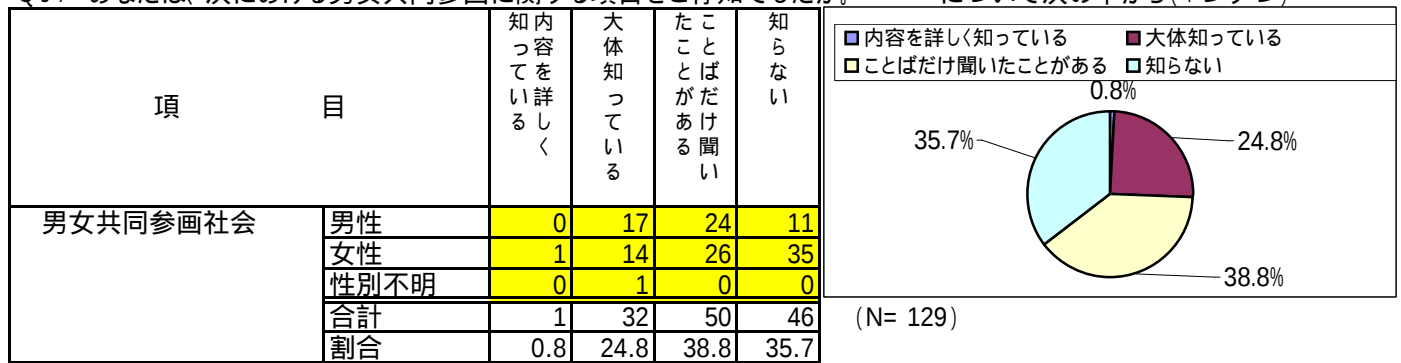
Q36 「男女共同参画社会」を実現していくために、中標津町の施策に望むものはなんですか。(あてはまるもの全て)

項 目	男 性		女 性		性別不明		合 計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発	20	7.4	12	3.4	1	16.7	33	5.2
学校などにおける男女平等の意識づくり	20	7.4	21	5.9	1	16.7	42	6.6
社会教育・生涯学習の場での学習の充実	21	7.7	26	7.3	0	0.0	47	7.4
審議会など政策・方針決定過程への女性の積極的登用	16	5.9	15	4.2	0	0.0	31	4.9
リーダー育成など女性の人材育成の推進	19	7.0	17	4.8	0	0.0	36	5.7
再就職に役立つ学習機会や相談事業など女性の就労支援	20	7.4	38	10.6	0	0.0	58	9.1
職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底	13	4.8	30	8.4	0	0.0	43	6.8
保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実	31	11.4	43	12.0	1	16.7	75	11.8
介護サービスの充実	16	5.9	38	10.6	1	16.7	55	8.7
各国との女性との交流や情報提供など国際交流の促進	4	1.5	5	1.4	0	0.0	9	1.4
女性のための相談体制の充実	18	6.6	12	3.4	0	0.0	30	4.7
男性のための相談体制の充実	10	3.7	4	1.1	0	0.0	14	2.2
ドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口や被害者のための施設の設置	13	4.8	25	7.0	0	0.0	38	6.0
検診体制や相談など健康に関する事業の充実	6	2.2	9	2.5	0	0.0	15	2.4
女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談や学習ができるセンター機能の充実	14	5.2	23	6.4	0	0.0	37	5.8
ひとり親家庭の自立支援	13	4.8	23	6.4	1	16.7	37	5.8
町内会など地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進	17	6.3	15	4.2	1	16.7	33	5.2
その他(別紙)	0	0.0	1	0.3	0	0.0	1	0.2
合 計	271		357		6		634	

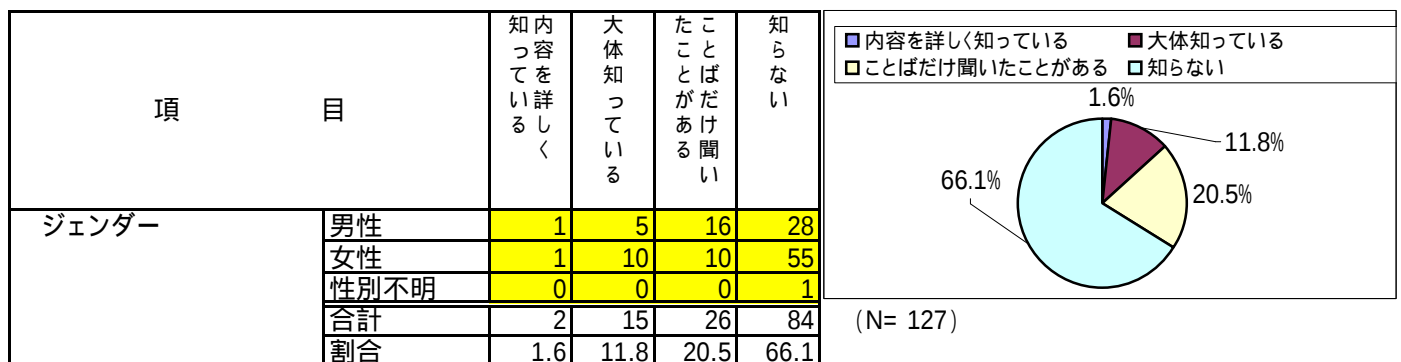


「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」が75件(11.8%)で最も多く、次いで、「再就職に役立つ学習機会や相談事業など女性の就労支援」58件(9.1%)、「介護サービスの充実」55件(8.7%)と、中標津町の施策に望む主な3つは以上の結果となった。

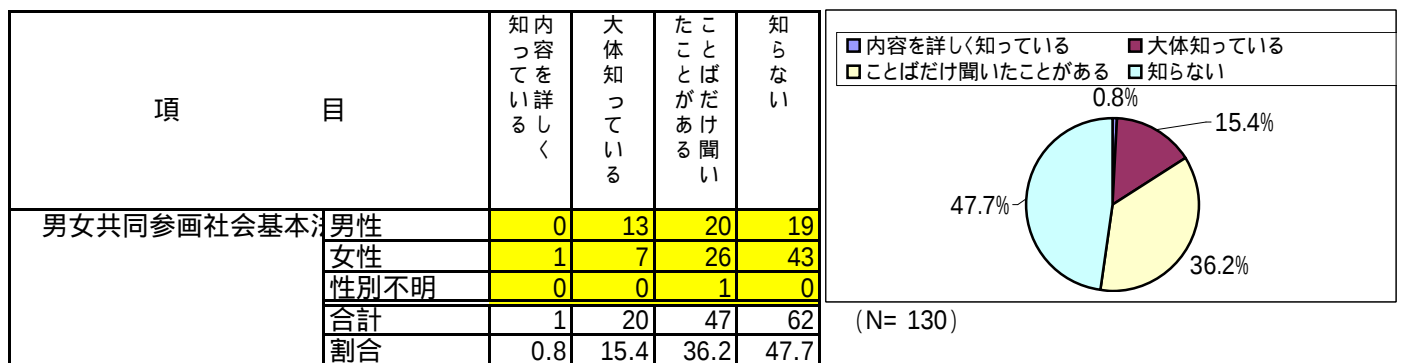
Q37 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する項目をご存知でしたか。 ～ について次の中から(1つずつ)



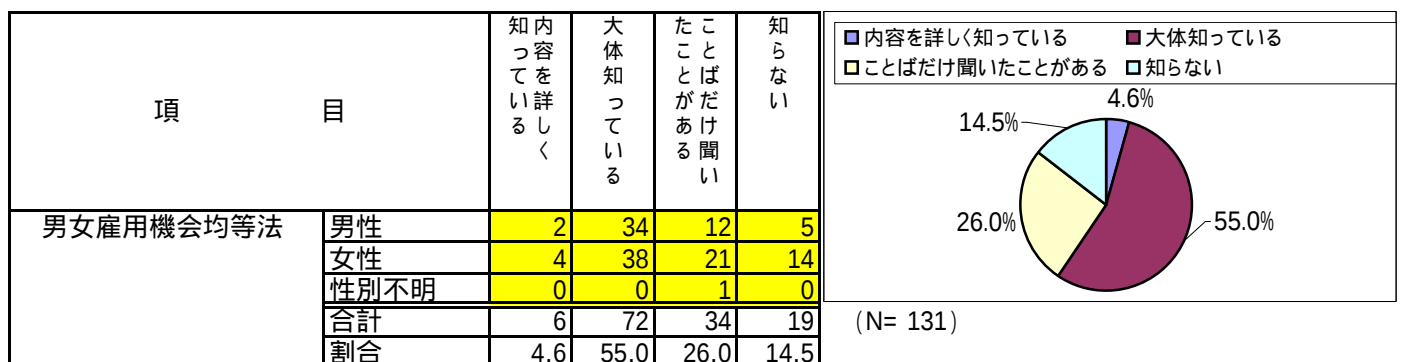
「ことばだけ聞いたことがある」が50件(38.8%)で最も多く、次いで、「知らない」が46件(35.7%)と、知っている人に対して知らない人(ことばだけ聞いたことがある込み)は、全体の4分の3を占める結果となっている。



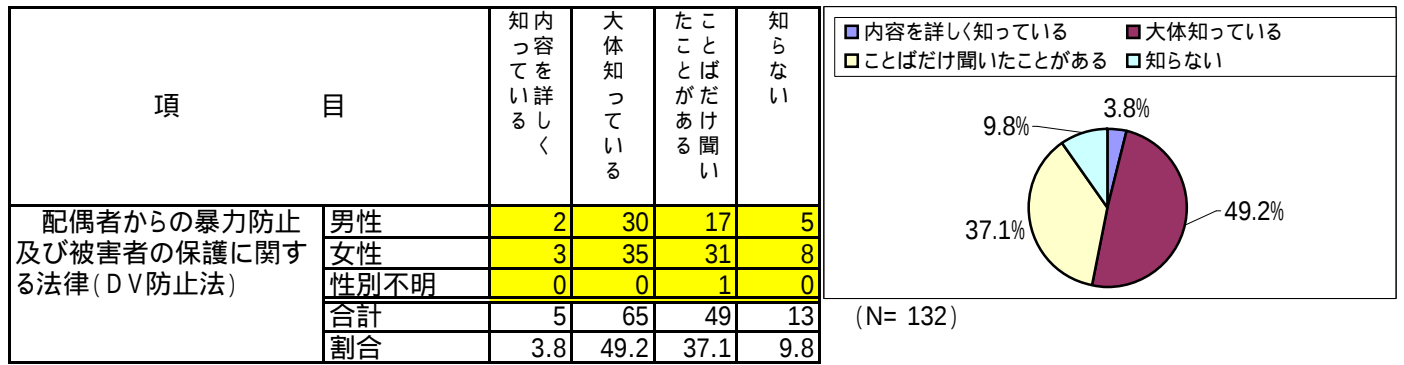
「知らない」が84件(66.1%)で最も多く、次いで、「ことばだけ聞いたことがある」が26件(20.5%)と、知らない人(ことばだけ聞いたことがある込み)が大半を占める結果となっている。



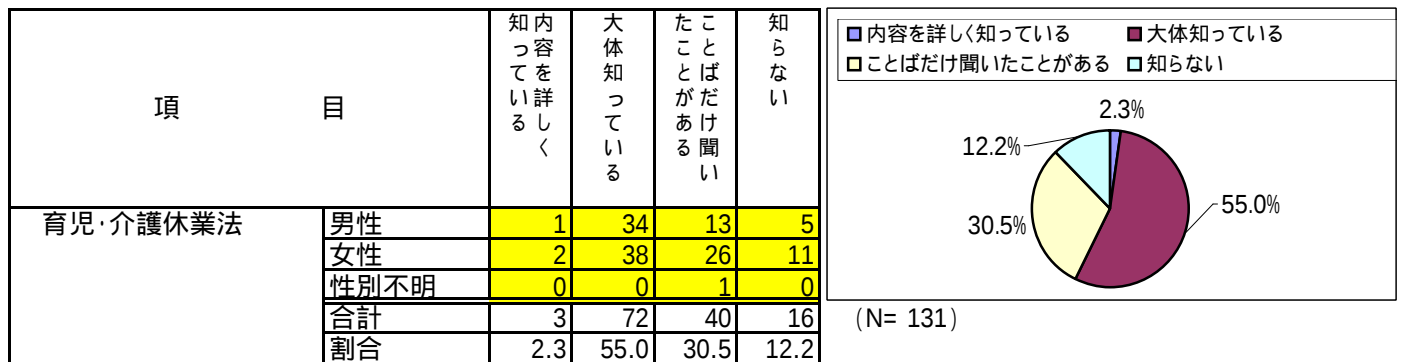
「知らない」が62件(47.7%)で最も多く、次いで、「ことばだけ聞いたことがある」が47件(36.2%)と、知らない人(ことばだけ聞いたことがある込み)が大半を占める結果となっている。



「大体知っている」が72件(55.0%)で最も多く、次いで、「ことばだけ聞いたことがある」が34件(26.0%)となっている。詳しく・大体知っている人は全体の6割を占める結果となっている。



「大体知っている」が65件(49.2%)で最も多く、次いで、「ことばだけ聞いたことがある」が49件(37.1%)となっている。
詳しく・大体知っている人は全体の過半数を超える結果となっている。



「大体知っている」が72件(55.0%)で最も多く、次いで、「ことばだけ聞いたことがある」が40件(30.5%)となっている。
詳しく・大体知っている人は全体の過半数を超える結果となっている。



その他の意見・要望

質問・回答等の内容と配置は、下記例のとおり。

【配置例】

質 問 内 容			
年 代 性 別	回 答 内 容		

回答者の属性

e あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。

50代男性	祖母と親と子（4世代）
-------	-------------

男女平等について

Q2 男女平等の実現のために、今後どのようなことが必要だと思いますか。

70代以上男性	男性と女性には、それぞれの特性が神からさずかっている。共同参画ということは特性を充分認識、理解して行なうもので、頭から何でも平等が同じと考えるは如何なものでしょう。人権はあくまで平等であることは言うまでもないことと思っています。
20代女性	子供を預けたり育てたりする上で、生活しやすい環境を作る。(経済的にも)
20代女性	国、地方公務員では女性の昇進が多い！ 一般の勤め人との差が国にかかわっている人間は自覚がないのでは？

家庭・子育てについて

Q3 「男性は仕事、女性は家事」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。

40代女性	子供の為には経済的に許せば、女性は家事をすべき、状況によって決めれば良いと思う。お互いに思いやりを持てば、何をどう分担しても良いと思う。
40代女性	得意な人が得意なことをすべき。
40代男性	それぞれの男女の考え方と思うし、それが会わなければ結婚しないだろう。また、離婚もあるし、どの意見も正しいと思うのが私の意見。
20代女性	本人たちの自由。まわりが固まった考えを押し付けていくことが問題。と思う。
70代以上男性	それぞれの家庭の事情や個人的な差異もある。基本的人権は無論平等である。相談して決めればよい。
40代女性	お互いに協力し合う。
20代女性	経済的に今は共働きでなければ、子供を持つと生活できないので家事も分担すべき。
20代男性	その人の好きなように。
20代女性	その家庭で違いがあるが、男が女がと決め付ける様な必要性はないと思う。

Q6 近年生まれる子どもの数が少なくなっていますが、あなたはその原因は何だと思いますか。	
40代女性	子供が欲しくても出来ない人が増えている。その原因はハッキリとはしないが、食生活の変化やこの社会システムが長く続いているのが影響していると思う。物質主義等により世界的には人口が増え自然減少がおこっている。
20代女性	結婚・子育てよりも自分自身が今を楽しみたい。と思う人が増えたから。
70代以上男性	生命をつなぐ本能が、如何に大切なものか忘れられている。人生の意味をもっと長いスパンで考えられる教育が大事だと思う。生物にとって最高の本能を理解させるべきだ。
40代女性	ホルモン異常や機能不全など受精や着床しづらい人が身近に増えました。原因はわかりませんが・・・。
40代男性	仕事を持つ女性が増えたから。
20代女性	犯罪の低年齢化、人間をつぶす事ばかり考える人間が多い時代、今の定年の世代、その子、その孫、犯罪率が高いと思いませんか？ こんな世の中で子供を産みたいとは思わない。

Q7 現在の保育などのサービスで不便や不満に感じることはどのようなことですか。 なお、お子様のいない方、また、すでに養育が終了している方は過去の経験やイメージでお答えください。	
40代女性	地元の保育所がなくなった。
40代男性	正直わからないです。私自身わからない事に反省しました。
40代男性	近くのへき地保育所が閉所となった。
30代男性	収入で保育料を決めないで欲しい。300万円の収入で27,000円は高すぎます。ラインを設けるのは仕方がないが、少しは弱者を助けて欲しいです。

Q8 配偶者あるいはパートナーがいる方のみにお聞きます。 現在、あなたの家では、次の①から⑬について男女のどちらが担っていますか。	
50代女性	⑬ 2人で相談して。
20代女性	⑨ 親はいますが、介護を必要としていません。
40代女性	② 子供
30代女性	⑤ 各自で

Q10 あなたは、男性が家事や子育てに参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。	
40代男性	就労環境が整備されるような地域社会、経済状況。
40代男性	女性が高額所得を得られるような経済環境が無い地域では男性の所得を維持向上せざるを得ず、男性が育児や家事に時間を使う事は難しいと思います。

就労につい

Q11 あなたは、女性の働き方についてどのように思いますか。

40代男性	各家庭において、子供が生まれた後の就労は考えれば良い。「仕事を続けた方が良い」とか「パートに切り替える」等は各々の問題である。
30代女性	女性の考え方に合わせて、仕事をする、しないが決められると良いと思います。
20代女性	経済状況による。余裕があればパート程度で負担を軽くしたい。
50代女性	女性だからどうしても働きたいと思う人と、そうでない人がいると思います。働きたい人には、働きやすいようにして欲しいと思っています。保育施設が近間にあるとか・・・。

Q12 女性が結婚・出産後も働き続けられるための環境整備では、どんな事が必要だと思いますか。

40代男性	地域経済の活性化。（新卒求人も足りないほどの景気の低迷を改善）
20代女性	仕事先の理解。協力。
30代女性	職場側の理解がなければ続けづらい。

Q13 また、女性が再就職するためには、どんなことが必要だと思いますか。

60代男性	5～10年後、同会社に優先雇用する制度を作る。
30代女性	企業の理解・協力等
40代男性	地域経済の活性化。（新卒求人も足りないほどの景気の低迷を改善）
20代女性	仕事先の理解。協力。
30代女性	企業の理解。
30代女性	職場の理解、小さい子がいると断られることが多い。

Q15 男女間に平等でない扱いがある場合、どのような理由からだと思いますか。

20代女性	仕事内容で男女の役割が何となく決まっている部分がある。
60代女性	女性の意識が希薄

Q17 Q16で「2～4」と答えた方にお尋ねします。

休暇を取得したことがないのはどのような理由からですか。取得したことがない休暇について、育児休業及び介護休業それぞれ回答。

30代女性	【育児休業】【介護休業】	まだ必要ないから
50代女性	【育児休業】	結婚後、退社したので。
60代男性	【育児休業】【介護休業】	妻との話し合いで日中は妻、夜は2人です。
50代女性	【育児休業】【介護休業】	自営のため
40代男性	【育児休業】【介護休業】	会社が潰れる
20代女性	【育児休業】	辞めたから。
50代男性	【育児休業】	保育施設があったため。

Q18 女性が働きやすい職場づくりのために、どのようなことを行政がすべきだと思いますか。	
40代女性	道内の経済が冷え込んでいる中、会社に色々な制度を国が押し付けても、男女の平等なんかありません。
40代男性	景気対策。
30代男性	本人にやる気がなければ意味がない。行政では解決できない民間の苦勞？

Q19 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。	
40代女性	町民へのサービス向上。 税金を頂いている意識はありますか？
40代男性	北海道の経済再生。
30代女性	毎年上がる国税を減らし、女性が働かないと生活出来ないという環境を変える事。 国の政治が変わらないと、いくら夫婦で働いていても税金のために働いているみたいなもの。 上が変わらないと私たちの生活も変わらないと思う。

社会参画について

Q21 Q20で1を選んだ方にお聞きします。 「女性が活動することは好ましい」とお考えになる理由は何ですか。	
30代女性	”女性”のみならず「人」として他の意見がある他の人と関わりを持つことは大切（有益）だから。

Q26 Q23で10を選んだ方にお聞きします。 あなたが社会活動に参加していない理由は何ですか。	
30代女性	フルタイムで（社員）働き、（残業も当然ある。）幼児がいて、子供が居て、夫が営業活動（自営）に忙しく、そのため、全く自分の家族以外のことに、目を向けるヒマが少しも無いから。
20代女性	免許が無く、近所に活動できる場がなかったため。
30代女性	中標津町に引越して来たばかりだから。
60代男性	3年前本州より移住し、全体がまだよく把握出来ていないため。

Q27 女性も男性も、それぞれの個性や能力を活かし、より積極的に地域の団体やサークルの活動に参加できるようにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。	
20代女性	地元出身の人間じゃないよそ者でも受け入れてくれること。
40代女性	社会活動も良いが、まずは、親戚付き合い、ご近所付き合いから始めるべきです。
40代男性	生活基盤の安定。

Q28 政策・方針決定の場への女性の参画（企画の段階から参加すること）を進めるには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。

60代男性	町、企業、各関係機関、団体などが同じ一人に役を割り当てないようにする。
20代女性	女性が参画するのは悪い事ではないが、男も女も人間性をもっと養うべきだ！

女性の人権について

Q31 Q30で1を選んだ方にお聞きします。 どのような暴行を受けましたか。

40代女性	批判すると即キレ、相談するにも話合いにもならない。
-------	---------------------------

Q32 Q30で1を選んだ方にお聞きします。 その時あなたはどうかしましたか。

50代女性	対抗した結果、家を出て行け！とか、こちらの欠点、失敗ごとなど、言葉の暴力が言い続けられた。
-------	---

Q34 ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためにはどのようなことが必要だと思いますか。

20代女性	女性を甘く見ている（バカにしている）男性がいる以上なくなる。
-------	--------------------------------

行政について

Q35 平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」を受け、中標津町では地域の実情に沿った男女共同参画政策を推進していきたいと考えています。他の自治体では男女共同参画を推進するための条例や数値目標などを掲げた計画を制定していますが、あなたは、中標津町にもそのようなものが必要だと思いますか。

60代男性	そもそも男女平等を言うなら50%が基本で考えるべき。
40代男性	条例や数値目標を作っても、それが町民に周知されて受け入れられるような体制作りが出来るか疑問がある。
40代男性	条例まで必要ないが、数値目標や推進活動は必要と考えます。
60代女性	その場、その時の共同参画のやり方など勉強すると、別に計画的に町でやる必要はない。

Q36 「男女共同参画社会」を実現していくために、中標津町の施策に望むものはなんですか。

50代女性	施策を望んでも、年金生活者にとっては、何も希望がない。 料金・税金が高くて、生活するのがやっとな人が多い。
-------	--

自由意見

Q38 中標津町では、女性も男性もお互いに手を取り合って尊重し、協力し、だれもが住みやすい街・住み続けたい街を目指しています。そこで最後に男女共同参画社会づくりに関して、ご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも結構ですので回答用紙にご記入ください。

30代男性	子育て支援の充実 児童デイサービスの利用料、もう少し町で負担して、金額を安くしてもいいのでは。
60代男性	このアンケートの主旨が良くわかりません。
50代女性	転勤族ですが、アパートの隣の人など知らなくて、少なくともアパート内の人たちが、顔がわかるようなことが出来るようになって欲しい。関係ないことかもしれませんが。
40代女性	大変良い企画ですが、多忙な毎日で参画する時間を持つことが難しいのでは・・・？と思います。大人がもっとゆとりのある生活を実現することが先なのでは？と考えます。
30代女性	そもそも男と女では生物学的に異なる生き物なのだから、そういう法律があるからといって、単純に共同とか平等ということに無理があると思っています。基本的には男は男、女は女でありその中で互いに尊重するというスタンス・考え方が重要だと思います。 行政が取り組んでもどうにもならないもので、本質的なことを町民・国民が勉強し、もっと一人ひとりが人として成長する必要があるでしょう。 個人の意見として、子供を産むことができる女性に男はどう逆立ちしても勝てないわけで、この考えたい無理があると思います。
20代男性	育児サービスや休暇制度の充実ですね！！
50代男性	まず、役場職員の仕事を男女にとらわれず平等に振り分け行なって、他企業のお手本と成る様に努力すること。
50代女性	男性と女性しかいないので、お互いに仲良く、お互いに認め合うという風習が町全体に無い感じがする。 女性を大切にしない社会は、滅びていきますよ！！ 女性の方も、もっと意識革命していく必要はあると思います。 身近な町内会活動に参加していくのが良いのではないのでしょうか。どの町内会運営でも人材を求めているのではないのでしょうか。
40代女性	女性でも男性でもなんでも良いです。思いやりのある人が増える事を希望します。給料もらうことだけとか、自分の子供だけとか、自分の地域だけ……。権利ばかり義務を果たさない人だらけです。 町職員の方々もプライドを持って、町民に対して良いこと、悪いことをはっきり意見してください。
20代女性	男性も女性も手を取り合って、一緒に環境良く笑っていられたら良いと思いますが、とにかく身近にいる者同士が話し合い環境良くしていかなければいけないと常々思います。そしてもっと地域や社会にとけこみやすい環境ができると良い。

60代男性	私は女性には女性にしか出来ない事があり女性に合った仕事が多く、男性には男性にしか出来ない事があり女性には無理な仕事をする適材適所が良いと思います。 男女でよく話し合っ進めるべきが我が家の円満で来た年月でした。 近年は男女で役職や給料の差別は無く能力次第で平等ではと男は言います。男女共同参画には積極的な女性より消極的な女性が多いので消極的な女性の意識改革が必要ではと私は感じております。
40代男性	町が行なう事は、えてして、役場の中だけの形式で終わってしまい、町民が理解していない事が多々あると思います。 本当に役立つものを作るのであれば、生の声を良く聞いて、システムを作っていく事が大事だと思います。
50代女性	正直に感じて、この制度は公務員、教員の為ではないでしょうか。中小企業で働いている人たちには大変難しい事です。 大手の会社がない中標津では、わがままな社員という事で働く事が厳しい様に感じてました。 その中で本当に良くしたいなら、子供は3歳くらいまで母親が育てる事が希望します。そのあとの預かる施設が充実させる事だと思ってます。
30代女性	親世代の意識を「男は男らしく女は女らしく」等、変えるのは非常に難しいので、自分の子供たちには、そういった考えを植え付けないように教えて行きたいと思う。
40代女性	男女共同参画の意味や内容がよく分かりません。言葉も難しいです。男女別に考えるよりは、その人個人の特技や、その人がやりたい事、その人しか出来ない事を伸ばしていける社会であって欲しいです。また、子供たちがやりたい仕事あこがれる仕事を紹介し体験を増やして欲しいです。
40代男性	男・女というくくり方で論ずるしかないと思いますが、特に女性には積極的な職場参画や社会参画を考える人もいれば、専業主婦が一番で面倒な事には参加しないという考えの人も多くいると思います。 逆に男は働かなければならないという義務意識だけで職についている人もいます。 共同参画への推進は良いが強制になってもNGだと思います。また、この景気が悪い中で、大企業がほとんど無い中標津で公務員が育児休暇や介護休暇をどれだけ取っているかという事に住民の反感が強い事も事実ですよ。 就労場所が確保されない不景気の中で、現実とかけ離れすぎた施策を推進しすぎると大ブーイングになるかもしれないので御注意を！！
20代女性	男女平等、共同社会を高らかに言っている女性がTVに出ているのを見ましたが、何事も行き過ぎないように、せっかくバランスが取れたと思ったときに、逆に傾いたら、また、同じことの繰り返しですから。
40代女性	結婚して長い間、家庭に入っていると、なかなか、たとえパートだとしても、やっていけるかなと、新しい事に挑戦するには勇気がいるものです。もっと身かまえず、なじんでいける。そんな社会になってほしいと思います。子供たちも社会人になり私自身も50才近くになり、あと、10年か15年間何か自分にも出来る事がないかな。とそんなことを考えております。
30代女性	保育施設の充実。 特に土・日・祝日の預り保育をしてくれる保育園の充実。そして、病児保育もしてくれる保育園の充実を望みます。 土・日・祝日に預ってくれる保育園がないだけで、女性の働く場所が狭まってくると思います。

60代男性	若い男女の職場が少なく、育てていく職場が少ない。即戦力にならなければ、会社もこまるためなのはわかるのだけれども・・・。
20代女性	今は共働きでなければ、これからの子育ては経済的に苦しい。保育所料金も高く、パート程度では、それだけで収入（女性の）はなくなってしまう為、常勤として働いていかなければ、これからは大変。 ”自宅での家事は女性の仕事”と昔からのイメージで、働きながらの家事と子育てなんて無理。精神的に追いやられている女性も多いと思う。 働きながら子育てしやすい環境をどんどん作っていかねば、出生率なんて上がらないに決まってる。まず、そこから見直さなければ職場や地域の女性参加なんて行きつかない。
40代女性	男女は生理的に（体力的に）同じではないので、全て同じ場所にたつ事が必要とは思えません。それぞれの立場が守られて、得意分野が発揮できるようになれば良いと思います。今は割りと女性も発言しやすいですが格差は感じます。 情報提供と女性が参加しやすい環境を望みます。 また、女性が勉強し、現場で充分役に立てる力をつける事が大切だと思います。
20代男性	全国平均から見て、賃金が低いのにに対し、家賃が高いように思う。その為、女性が働かざるを得ないが、子供を預ける費用が高い割に、男性以上に賃金が低いので考えものである。 自分自身、幼少のころ親が共働きだった為、母親の愛情不足を経験したので、自分の子には妻と子が一緒にいて愛情をたっぷりとそそいでほしい。
40代男性	私は男ですが、そんなに今、女性が暮らしにくい町なののでしょうか？ 男女共同、男女平等、女性参画等々・・・、女性をどんどん無理に引っ張り出そうとしている様な気がしました。 女性は女性らしく女性の出来ることを、そして、男性は男性らしく、それぞれがまさしく、お互いに手を取り合えば良いと思います。 本当の平等について、男も女も考えた方が良いのでは、全てにおいて、全てが平等であるべきかどうか疑問です。
70代以上男性	男女共同参画社会の確立は近代社会においては絶対に必要であり、本町の発展のためにも充実した施策が早急に努めるべきである。
20代男性	出産や育児、介護で職を離れていく人たちを多く見てきたが、職を離れてしまうがゆえに経済的に苦しくなるという話をよく耳にします。 家族だけではなく地域、行政のフォローで才能のある人たちが家事に手一杯になるのではなく両立しながら才能を発揮できるような環境を作りたいと願っています。
30代女性	子育て支援など、数年前から充実してきた感じはありますが、個々の事情にあった支援がまだまだ必要だと思います。 子育ては夫婦だけでは無理です。実家があれば頼る事も出来ますが、転勤の方が多い中標津では”ジジ・ババ”の役割の方がもっと必要だと思います。 また、経済的に厳しい今の世の中、実家の両親とも共働きで、頼る事も難しいと思います。 働きたい、社会に出たいと思っても、今一歩踏み出せずすごしてしまうこともあります。経済的負担も大きい子育て「産め」といわれてもこれでは迷ってしまうというのが本音です。
40代男性	「男女が同じ仕事、活動等を同様にこなすことが良し」とされてきている風潮がある様に思います。 男女それぞれの向き、不向きに合わせた作業等（家庭においても）をそれぞれが見極め、お互いが尊重し合うことが、まず、大切なことだと思います。

60代女性	年代別に男女間の認識に「ズレ」があるため、地道な活動、取り組みが必要と思われます。
60代女性	男女共同参画とは言葉では難しいが、自然に男と女が手を取り合うようすれば、共同の一つにつながっていくのではないかな。
60代女性	連絡は密に早めに心をかける事。 役所というのは一般民にとって、別の世界の事にしか思われません。もっと、一体化になれるように何らかの行動を興されたいと思います。
40代女性	家庭内における家族としての役割意識がない男は外で仕事さえしていれば良いと、偉いと信じ家事、育児は女がするものと思い込んでいる。 当然父親としての責任感もなく、無責任に怒鳴りつけたり、押さえ込もうとするだけ。 家族というものが分かっていない。 自治会、PTA参加にも無理解。 配偶者の仕事にも無協力。
50代女性	もっと年金者（年金生活者）に目を向けるべきだと思う。 中標津は生活に困っている人が多いと思います。
20代女性	尊重し協力し住みやすい街。今生まれ育児を始めた親に対し（男性も）人間性を最低のルール男も女も人間として人として、他人への感情、自分の子を見つめる事。今の社会は無くなっていると思います。 他人に対して悪い事をした子が親になる。いったいどんな子供が育つのか？私は恐ろしい！近所でコソコソその人の子は孫はどんな人間なのか見てみたい！

「中標津町男女共同参画に関するアンケート調査」のお願い

【アンケートご協力のお願い】

町民の皆さまには、日ごろより町政運営にご理解とご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

中標津町では、『第5期総合発展計画』基本目標の一つでもある「パートナーシップで進めるまちづくり」に取り組んでいますが、更に施策を推進するため、男女の性別にかかわらず、男女がそれぞれの個性と能力を、あらゆる分野で発揮することができる男女共同参画社会の実現が必要だと考えています。

平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」では国の緊要な課題とうたわれ、この基本法を受けて各自治体においてもさまざまな取り組みが進められています。

このような状況を踏まえ、中標津町における男女共同参画に関する意識や現状を把握し、今後の男女共同参画行政施策の参考資料とするためアンケートを実施することにいたしました。

そこで、住民基本台帳の中から20歳代～70歳代の方500人を無作為に抽出させていただきアンケート調査をお願いすることにいたしました。

お忙しいところ大変ご面倒をおかけいたしますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、アンケートにご協力いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

平成19年 7月

中標津町長 西 澤 雄 一

回答に際してのお願い

※皆さまのご意見を広くお聞きしたいので、あてはまる質問は全てお答えください。

※このアンケート調査は、無記名方式となっておりますが、あて名のご本人にご記入をお願いします。また、記入していただいた事項は統計以外の目的には使用いたしません。

※ご回答はあてはまる項目に○印を付けてください。

また、「その他」を選んだ場合は（ ）内に具体的に内容を記載してください。

※アンケートにご回答頂きましたら、記入頂いた本調査用紙を7月20日（金）までに、

同封しております返信用封筒に入れてご返送ください。（切手は不要です）

※調査の結果については、集計後、町ホームページ等で公表します。

お問合せ先

中標津町総務部企画課行財政改革推進係 TEL 73-3111(内線 327)

【男女共同参画社会とは】

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を負うべき社会を形成することと定義されています。

（平成11年6月に制定された男女共同参画社会基本法より）

【男女共同参画社会形成の必要性】

現在、少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化、家族形態の多様化など、急速に社会が変化しています。

このような社会情勢の変化に対応するためには、女性や男性が、その個性と能力を存分に発揮できる社会づくりが必要です。

もとより人は誰もが一人の人間として尊重され、伸びやかで充実した人生を送る権利があります。

「男女共同参画社会の形成」は、男女の人権が尊重され豊かで活力ある社会を実現し、女性も男性も自らの個性を発揮しながら生き生きと充実した生活を送ることを目指すものです。

【参 考】

1. フレックスタイム制とは
労使協定に基づき、労働者が自分の始業時刻と始業時刻を一定の範囲で自由に決められる制度
2. 育児休業の定義
原則として、子が1歳に達するまでの連続した期間の休業
3. 介護休業の定義
原則として、対象家族1人につき通算93日までの休業
4. セクシュアル・ハラスメント
性的いやがらせ。特に、職場などで女性に対して行われる性的、差別的な言動をいう。
5. 女性の参画
企画の段階から参加すること
6. クォータ制
割り当て制度。 例：構成員の半数程度は女性を割り当てる。
7. ドメスティック・バイオレンス
配偶者や恋人等親密な関係にある、又は、会った異性から振るわれる暴力
8. ジェンダー
社会的、文化的に形成される男女の差異。男らしさ、女らしさといった言葉で表現されるもので、生物上の雌雄を示すものと区別される。
9. 男女共同参画基本法
男女共同参画社会の形成についての基本理念を明らかにしてその方向を示し、将来に向かって国、地方公共団体及び国民の男女共同参画社会の形成に関する取組を総合的かつ計画的に推進するための法律
10. 男女雇用機会均等法
働く女性と男性との間にある雇用上の差別をなくすための法律
11. 配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律（ドメスティックバイオレンス防止法）
配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備することにより、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図るための法律
12. 育児・介護休業法
育児又は家族の介護を行う労働者の職業生活と家庭生活との両立が図られるよう支援することによって、その福祉を増進するとともに、あわせて我が国の経済及び社会の発展に資することを目的とする法律

“ご自身”について教えてください。

a あなたの性別を教えてください。

- 1 男性 2 女性

b あなたの年齢は次のどれに該当しますか。

- 1 20～29歳 2 30～39歳 3 40～49歳
4 50～59歳 5 60～69歳 6 70歳以上

c あなたは現在結婚していますか。

- 1 結婚していない
2 結婚している（配偶者と同居）
3 結婚している（配偶者と別居）
4 結婚していないが一緒に暮らしている
5 配偶者と離別・死別して独身

d あなたの職業は次のどれにあたりますか。

- 1 自営業主 2 家族従業員 3 勤め（フルタイム・常勤）
4 勤め（パートタイム・臨時雇用） 5 内 職 6 専業主婦（夫）
7 学 生 8 無 職 9 その他（ ）

e あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。

- 1 一人世帯 2 一世代世帯（夫婦のみ） 3 二世世代世帯（親と子）
4 三世世代世帯（親と子と孫） 5 その他の世帯（ ）

f あなたのお宅には、あなたを含め次に該当する方がいらっしゃいますか。

- 1 未就学児がいる
2 70歳以上の高齢者がいる
3 両方いる
4 両方いない

男女平等について

Q1 あなたは、①から⑧の分野で、現在、男女の地位が平等になっていると思いますか。
次の中から1つずつ選んでください。

項 目	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
①家庭の中で	1	2	3	4	5	6
②職場の中で	1	2	3	4	5	6
③地域活動の中で	1	2	3	4	5	6
④学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
⑤政治・経済の場で	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

Q2 男女平等の実現のために、今後どのようなことが必要だと思いますか。次の中から
あなたのお考えに近いものを3つ以内で選んでください。

- 1 女性自身が経済力を持つこと
- 2 女性が自分たちのあり方に対して問題意識と自覚を持つこと
- 3 女性がもっと政治的・社会的活動に参画すること
- 4 差別的な社会通念やしきたりをなくすこと
- 5 法律や制度の上での男女不平等をなくすこと
- 6 男性が女性の社会的地位向上に関して理解をもち協力すること
- 7 国や地方自治体の男女共同参画行政を充実すること
- 8 就職、昇進、賃金など職業上の男女不平等をなくすこと
- 9 子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教えること
- 10 特に必要なことはない
- 11 その他()

家庭・子育てについて

Q3 「男性は仕事、女性は家事」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 男性は仕事、女性は家事を行なう方がよい
- 2 男女とも仕事を持ち、家事も責任を分担するのがよい
- 3 男女とも仕事を持ち、家事は女性が責任を持つのがよい
- 4 男女の役割は固定せずに、女性が仕事を持ち、男性が家事を行なうのもよい
- 5 その他()

Q4 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考え方がありますが、あなた自身はどう育てられましたか。次の中から1つ選んでください。

- 1 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
- 2 どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
- 3 どちらかといえば、性別にとらわれずに
- 4 性別にとらわれることなく

Q5 では、ご自分の子どもに対してはどう育てたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。お子様がいらっしゃらない場合も、いると仮定してお答えください。

- 1 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
- 2 どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
- 3 どちらかといえば、性別にとらわれずに
- 4 性別にとらわれることなく

Q6 近年生まれる子どもの数が少なくなっていますが、あなたはその原因は何だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- 1 子育てにかかる経済的負担が大きい
- 2 結婚しない人が増えた
- 3 育児と仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない
- 4 出産年齢が高くなった
- 5 子育てより余暇を充実したい人が増えた
- 6 子育てにかかる心身の負担が大きい
- 7 配偶者あるいはパートナーの家事・育児への協力が得られない
- 8 一人ひとりの子どもに十分手をかけて育てたいと思う人が増えた
- 9 子どもをもたないことについて社会が寛容になってきた
- 10 住宅が狭い
- 11 わからない
- 12 その他()

Q7 現在の保育などのサービスで不便や不満に感じることはどのようなことですか。次の中から3つ以内で選んでください。

なお、お子様のいない方、また、すでに養育が終了している方は過去の経験やイメージでお答えください。

- 1 預けられる時間が短い
- 2 急な用事や残業などのときに対応してもらえない
- 3 子どもが病気のときには預かってもらえない
- 4 土・日や夏休みなどに子どもの行き場（遊び場）がない
- 5 自宅などから身近なところにサービスを受けられる施設がない
- 6 子育てや子育て支援に関する情報が少ない
- 7 子育てや子育て支援の相談窓口が少ない
- 8 費用が高い
- 9 特にない
- 10 その他（ ）

Q8 **配偶者あるいはパートナーがいる方のみにお聞きます。**

現在、あなたの家では、次の①から⑬について男女のどちらが担っていますか。次の中から1つずつ選んでください。

項 目	主に男性	どちらかといえば男性	男女同じ程度	どちらかといえば女性	主に女性	特に決まっていない	該当なし	その他（下記記入欄に記載してください）
①食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7	8
②食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	7	8
③そうじ	1	2	3	4	5	6	7	8
④ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤洗濯	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥食品・日用品の買物	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦子どものしつけや勉強の指導	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7	8
⑨老いた親の世話（介護）	1	2	3	4	5	6	7	8
⑩日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6	7	8
⑪家の中の簡単な修理・修繕	1	2	3	4	5	6	7	8
⑫自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6	7	8
⑬高額商品や土地家屋の購入決定	1	2	3	4	5	6	7	8
その他記入欄（項目欄の丸付き番号を記入してから内容を記入してください。）								

Q9 配偶者あるいはパートナーがいる方のみにお聞きします。

家庭内の役割分担について、次の中から一番近い考えを1つずつ選んでください。

項 目	自分分 担して 欲しい	自分分 担した 方がよ い	自分分 担した 方がよ いと思 う	現状の 分担で よい	配偶者 あるい はパー トナー にもう 少し分 担して 欲しい	配偶者 あるい はパー トナー にもう 少し分 担して 欲しい	該当なし
①食事のしたく	1	2	3	4	5	6	
②食事の後かたづけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6	
③そうじ	1	2	3	4	5	6	
④ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	
⑤洗濯	1	2	3	4	5	6	
⑥食品・日用品の買物	1	2	3	4	5	6	
⑦子どもの勉強（教育）の指導	1	2	3	4	5	6	
⑧乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	
⑨老いた親の世話（介護）	1	2	3	4	5	6	
⑩日常の家計の管理	1	2	3	4	5	6	
⑪家の中の簡単な修理・修繕	1	2	3	4	5	6	
⑫自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6	
⑬高額商品や土地家屋の購入決定	1	2	3	4	5	6	

Q10 あなたは、男性が家事や子育てに参加するためにどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- 1 家事や子育てに関する知識や技術の習得
- 2 男女の役割分担についての社会通念、習慣などの見直し
- 3 家族間の話し合い
- 4 男女が家事を分担するような子どもの頃からの育て方や教育
- 5 男性の仕事優先の考え方を見直す
- 6 労働時間短縮
- 7 子育てについての特別休暇制度の創設や休暇をとりやすい就労環境
- 8 男性が家事や子育てに参加することへの抵抗感をなくす
- 9 男性が家事や子育てに関わることについての情報提供
- 10 男性への家事や子育ての講座
- 11 家族（親子）で参加できる育児などの講座
- 12 男性の育児サークルの育成
- 13 就労環境の整備についての企業に対する啓発
- 14 わからない
- 15 その他（ ）

就労について

Q11 あなたは、女性の働き方についてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- 2 結婚や出産後も仕事は続けるが、パートタイムに切り替えるなど負担を軽くする方がよい
- 3 子どもが生まれたら仕事をやめ、子どもが育ってから再び仕事に就く方がよい
- 4 子どもが生まれるまでは仕事をしている方がよい
- 5 結婚するまでは仕事をしている方がよい
- 6 女性は、妊娠や夫の転勤などで仕事を継続できないこともあるので、仕事を持つことにこだわらなくてよい
- 7 女性は職業を持たない方がよい
- 8 その他()

Q12 女性が結婚・出産後も働き続けられるための環境整備では、どんな事が必要だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを3つ以内で選んでください。

- 1 就職情報や紹介などの相談機関の充実
- 2 技能習得のための研修の機会や施設の充実
- 3 労働時間の短縮化、フレックスタイム制（労使協定に基づき、労働者が自分の始業時刻と終業時刻を一定の範囲で自由に決められる制度）の導入
- 4 保育施設や保健サービスの充実
- 5 育児休業・介護休業制度の徹底
- 6 高齢者や障がい者などの介護サービスの充実
- 7 家族の理解や協力
- 8 女性自身の働くことに対する自覚
- 9 必要なことはない
- 10 その他()

Q13 また、女性が再就職するためには、どんなことが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを3つ以内で選んでください。

- 1 就職情報や紹介などの相談機関の充実
- 2 技能習得のための研修の機会や施設の充実
- 3 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入
- 4 保育施設や保健サービスの充実
- 5 育児休業・介護休業制度の徹底
- 6 高齢者や障がい者などの介護サービスの充実
- 7 家族の理解や協力
- 8 女性自身の働くことに対する自覚
- 9 必要なことはない
- 10 その他()

Q14 **働いている方のみお答えください。**

あなたの職場では、男女の扱いについて、平等になっていると思いますか。①～⑦の項目について、次の中から1つずつ選んでください。

項 目	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等になっている	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
①募集や採用	1	2	3	4	5	6
②賃金	1	2	3	4	5	6
③昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
④仕事内容	1	2	3	4	5	6
⑤教育訓練・研修	1	2	3	4	5	6
⑥退職・解雇	1	2	3	4	5	6
⑦福利厚生	1	2	3	4	5	6

Q15 男女間に平等でない扱いがある場合、どのような理由からだと思いますか。次の
中から3つ以内で選んでください。

- 1 女性は結婚や出産などで継続して働きにくい
- 2 「男は仕事、女は家庭」という意識がある
- 3 女性はパートやアルバイトなどのほうが働きやすい
- 4 職場の上司や同僚の無理解
- 5 女性は転勤などの人事異動がしにくい
- 6 会社や雇用主が男女平等に真剣に取り組んでいない
- 7 能力や意欲のある女性が少ない
- 8 家事や育児、介護についての女性の負担が大きい
- 9 わからない
- 10 その他()

Q16 育児休業や介護休業を取得したことがありますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 両方ともある。
- 2 育児休業のみ取得したことがある
(原則として子が1歳に達するまでの連続した期間)
- 3 介護休業のみ取得したことがある
(原則として対象家族1人につき通算93日まで)
- 4 両方ともない

Q17 Q16で「2～4」と答えた方にお尋ねします。

休暇を取得したことがないのはどのような理由からですか。取得したことがない休暇について、育児休業及び介護休業それぞれ、次の中からあてはまるもの全てを選んでください。

	育児休業	介護休業	理 由 項 目
1			育児や介護が必要になったことがない
2			休暇の制度がない
3			休暇の制度があることを知らなかった
4			仕事が忙しく、休める状況ではなかった
5			職場に休みにくい雰囲気があった
6			経済的な理由（休業補償がない、昇給に影響するなど）
7			配偶者が休暇を取得したから
8			配偶者が育児や介護を行なったから
9			昇進昇格が遅れるから
10			休暇中に仕事の能力が低下するのが不安だから
11			その他（ ）

Q18 女性が働きやすい職場づくりのために、どのようなことを行政がすべきだと思いますか。次の中から3つ以内を選んでください。

- 1 職場の意識改革などについての企業に対する働きかけや指導
- 2 仕事と家庭の両立支援に関する法制度の周知
- 3 仕事と家庭の両立支援を推進した企業への補助制度
- 4 労働問題やセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）についての相談窓口の設置・充実
- 5 女性であることを理由に不利益を受けた場合の解決に向けた調整
- 6 特にない
- 7 わからない
- 8 その他（ ）

Q19 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つ以内を選んでください。

- 1 男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり
- 2 保育施設（職場内保育所を含む）や保育時間の延長など保育サービスを充実させること
- 3 「男性は仕事、女性は家事」など男女の差別役割分担意識の見直し
- 4 パートタイマーの給与・労働条件の改善
- 5 育児などによる退職者の再雇用制度の普及
- 6 在宅勤務やフレックスタイムの導入
- 7 ホームヘルパー制度など介護サービスを充実させること
- 8 労働時間の短縮
- 9 職場における男女差別の是正
- 10 職業訓練の講座を充実させること
- 11 わからない
- 12 その他（ ）

社会参画について

Q20 あなたは、女性が職業以外のことで地域や社会のために活動することをどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 女性が活動することは好ましい Q21へ
- 2 女性の活動はよいことだが、ほどほどにしたほうがよい . . Q22へ
- 3 女性が活動することは好ましくない Q22へ

Q21 **Q20で1を選んだ方にお聞きします。**

「女性が活動することは好ましい」とお考えになる理由は何ですか。次の中からあなたのお考えに近いものを2つ以内で選んでください。

- 1 社会にでることにより視野を深めることができるから
- 2 能力・技能・資格が活かせるから
- 3 地域や社会のために役立つから
- 4 人間関係が広がるから
- 5 気分転換ができて、体や精神のためにもよいから
- 6 その他()

Q22 **Q20で2・3を選んだ方にお聞きします。**

「ほどほどの活動」「好ましくない」とお考えになる理由は何ですか。次の中からあなたのお考えに近いものを1つ選んでください。

- 1 女性が外に出て活動すると、家事や育児がおろそかになるから
- 2 女性が外に出て活動することに必要性を感じないから
- 3 女性が外にばかり出ていると、家の中が落ち着かないから
- 4 その他()

Q23 あなたは現在どのような社会活動をなさっていますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

- 1 社会奉仕などのボランティア活動
- 2 消費者・住民活動
- 3 PTAの役員・委員
- 4 自治会、子供会などの地域活動
- 5 スポーツサークル活動
- 6 スポーツ以外の趣味活動
- 7 国際交流活動
- 8 文化・学習活動
- 9 その他()
- 10 どれにも参加していない Q26へ

Q24 Q23で1～9を選んだ方にお聞きします。

Q23で選んだ社会活動はどの程度なさっていますか。全ての活動を合せて次の中から1つ選んでください。

- 1 ほぼ毎日（週に4～7回）
- 2 週2～3回
- 3 週1回
- 4 月2～3回
- 5 月1回

Q25 Q23で1～9を選んだ方にお聞きします。

あなたが社会活動をしていく上で、必要としている情報は何か。次の中から
あてはまるものを全て選んでください。

- 1 活動しているグループ等の存在、連絡方法
- 2 公共施設等の利用方法や事業の案内
- 3 活動内容や方法についての情報
- 4 講師や指導者の存在についての情報
- 5 特に必要な情報はない
- 6 その他（ ）

Q26 Q23で10を選んだ方にお聞きします。

あなたが社会活動に参加していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

- 1 家事が忙しいから
- 2 育児が忙しいから
- 3 仕事が忙しいから
- 4 病人や高齢者がいるから
- 5 身体が丈夫でないから
- 6 人間関係がわずらわしいから
- 7 家族が反対するから
- 8 年をとっているから
- 9 自分に適した活動が見つからないから
- 10 身近に機会がないから
- 11 参加する方法がわからないから
- 12 お金がかかるから
- 13 あまり関心がないから
- 14 その他()

Q27 女性も男性も、それぞれの個性や能力を活かし、より積極的に地域の団体やサークルの活動に参加できるようにしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを2つ以内で選んでください。

- 1 「地域活動のリーダーは男性の役割」「地域との付き合いは女性の役割」といった男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること
- 2 家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと
- 3 地域社会活動への理解を深めるため、行政が啓発活動を普及させること
- 4 労働時間短縮やボランティア休暇などの休暇制度を普及させること
- 5 子供や介護を要する人などを一時的にあずかってくれる施設を充実させること
- 6 その他()

Q28 政策・方針決定の場への女性の参画（企画の段階から参加すること）を進めるには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを2つ以内で選んでください。

- 1 女性議員が増えること
- 2 男女の比率が偏らないようにクォータ制（割り当て制度。例：構成員の半数程度は女性を割り当てる。）などを積極的に導入すること
- 3 町、企業、各関係機関・団体等が、まず女性の参画を推進すること
- 4 女性の人材等に関する情報に収集・整備・提供に努めること
- 5 女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること
- 6 女性が参画する必要はない。
- 7 その他()

女性の人権について

Q29 女性に対する暴力について感心が高まっていますが、次のことからのうち、あなたの身近で実際に見聞きしたものがありますか。次の中から該当するもの全てを選んでください。

- 1 女性に対する性暴力
- 2 売春、買春、援助交際
- 3 ドメスティック・バイオレンス（配偶者や身近なパートナーからの暴力）
- 4 職場・地域活動におけるセクシュアル・ハラスメント
- 5 見聞きしたことがない
- 6 その他()

Q30 ドメスティック・バイオレンスが、社会問題となっていますが、あなたはどの程度ご存知ですか。次の中から1つを選んでください。

- 1 自分が直接経験したことがある
 - 2 自分の身の回りで経験した人がいる
 - 3 ことばや意味は知っているが、実例はない
 - 4 ことば自体知らない
- } … Q33へ

Q31 **Q30で1を選んだ方にお聞きします。**

どのような暴行を受けましたか。次の中から該当するもの全て選んでください。

- 1 殴る、蹴るなどの身体に対する暴力（身体的暴力）
- 2 ののしり、脅迫等のことばの暴力や外出などをさせてもらえない（精神的暴力）
- 3 性的な行為を強要（性的暴力）
- 4 その他（ ）

Q32 **Q30で1を選んだ方にお聞きします。**

その時あなたはどうかさいましたか。次の中から該当するもの全て選んでください。

- 1 生命の危険を感じたので家を出た
- 2 警察・相談所に相談した
- 3 友人・知人に相談した
- 4 親・兄弟に相談した
- 5 自分がかまんすればよいと考えじっと耐えていた
- 6 その他（ ）

Q33 職場におけるセクシュアル・ハラスメントを受けた経験や見聞きしたことがありますか。次の中から該当するもの全て選んでください。

- 1 自分が直接経験したことがある
- 2 同じ職場で経験した人がいる
- 3 ことばや意味は知っているが実例はない
- 4 ことば自体知らない
- 5 その他（ ）

Q34 ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から重要だと思うもの2つ以内で選んでください。

- 1 相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発
- 2 不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり
- 3 ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントに対する罰則を強めた法律や規則等の整備
- 4 苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実
- 5 それぞれの気持ちの持ち方なのだから、特に必要なものはない
- 6 その他（ ）

Q35 平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」を受け、中標津町では地域の实情に沿った男女共同参画政策を推進していきたいと考えています。他の自治体では男女共同参画を推進するための条例や数値目標などを掲げた計画を制定していますが、あなたは、中標津町にもそのようなものが必要だと思いますか。

- 1 必要
- 2 不要
- 3 わからない
- 4 その他()

Q36 「男女共同参画社会」を実現していくために、中標津町の施策に望むものはなんですか。次の中からあてはまるもの全てを選んでください。

- 1 広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
- 2 学校などにおける男女平等の意識づくり
- 3 社会教育・生涯学習の場での学習の充実
- 4 審議会など政策・方針決定過程への女性の積極的登用
- 5 リーダー育成など女性の人材育成の推進
- 6 再就職に役立つ学習機会や相談事業など女性の就労支援
- 7 職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底
- 8 保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実
- 9 介護サービスの充実
- 10 各国との女性との交流や情報提供など国際交流の促進
- 11 女性のための相談体制の充実
- 12 男性のための相談体制の充実
- 13 ドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口や被害者のための施設の設置
- 14 検診体制や相談など健康に関する事業の充実
- 15 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談や学習ができるセンター機能の充実
- 16 ひとり親家庭の自立支援
- 17 町内会など地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
- 18 その他()

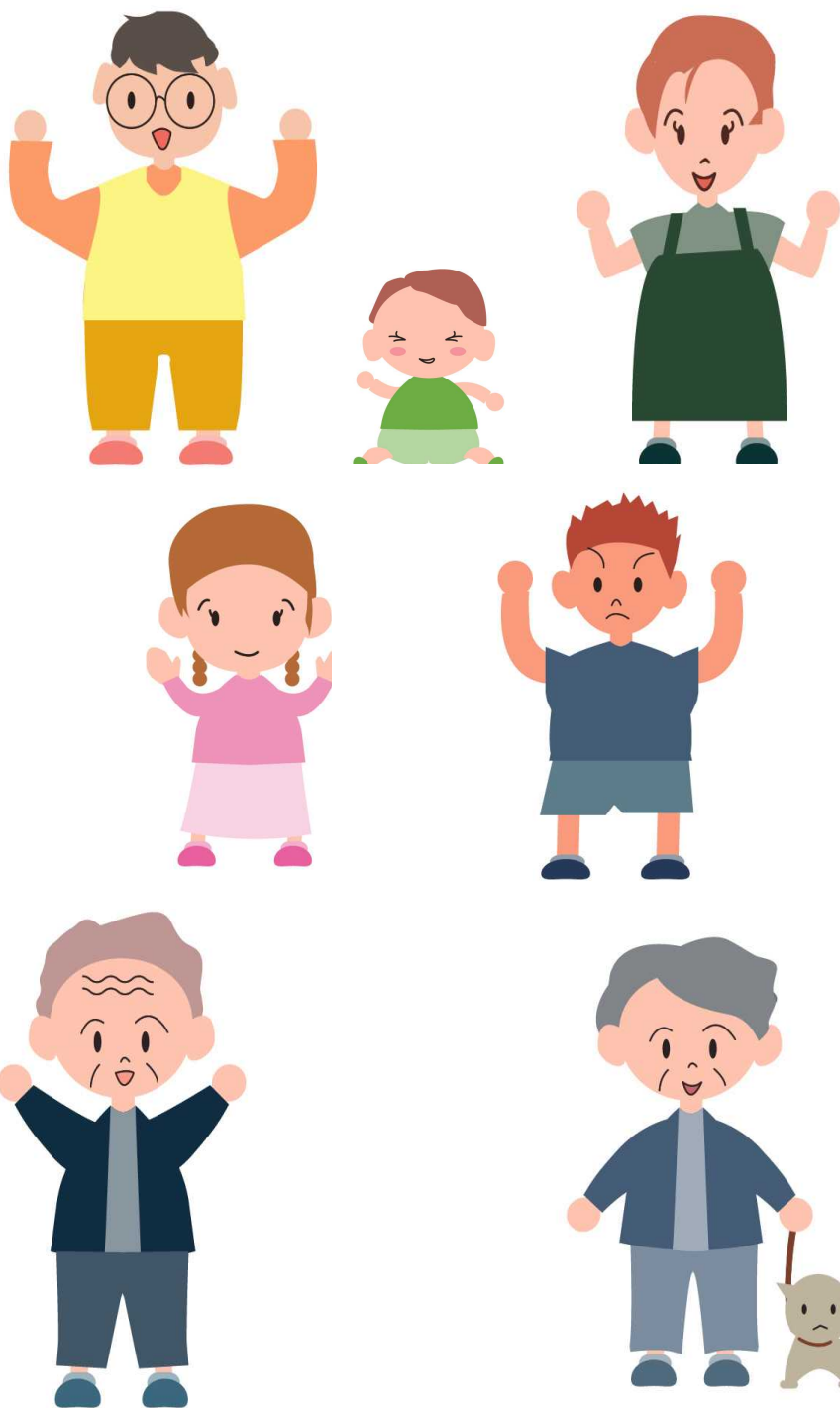
Q37 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する項目をご存知でしたか。①～⑥について次の中から1つずつを選んでください。

項 目	内容を詳しく知っている	大体知っている	ことばだけ聞いたことがある	知らない
①男女共同参画社会	1	2	3	4
②ジェンダー	1	2	3	4
③男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
④男女雇用機会均等法	1	2	3	4
⑤配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3	4
⑥育児・介護休業法	1	2	3	4

※各項目の内容、概容につきましては、参考として「中標津町男女共同参画に関するアンケート調査」のお願い（表紙）の裏面に記載しています。

Q38 中標津町では、女性も男性もお互いに手を取り合って尊重し、協力し、だれもが住みやすい街・住み続けたい街を目指しています。そこで最後に男女共同参画社会づくりに関して、ご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも結構なのでご記入ください。

『アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。』



中標津町総務部企画課行財政改革推進係
住 所：〒086-1197
北海道標津郡中標津町丸山2丁目22番地
電 話：0153-73-3111
FAX：0153-73-5333
(ホームページ) <http://www.nakashibetsu.jp/>